

近中四農研年報
Ann. Rep. West. Reg.
Agric. Res. Cent.

近畿中国四国農業研究センター

年報

平成 25 年度

Annual Report of
Western Region Agricultural
Research Center

2013



NARO

農研機構

独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構

近畿中国四国農業研究センター

近畿中国四国農業研究センター年報

平成 25 年度

目 次

I	主な動向と経過	1
1.	近農研を巡る情勢	1
2.	運営に関する主な動向	2
3.	研究成果の普及	3
II	組織の概要	5
III	研究の実施状況	7
IV	平成 25 年度研究予算課題一覧	19
V	研究情報活動	31
1.	主な研究成果	31
2.	研究成果の発表	32
1)	著書	32
2)	原著論文等	33
3)	学会発表等	37
4)	その他	47
3.	知的財産権	58
1)	産業財産権の登録および出願	58
2)	新品種の登録および出願	59
4.	広報活動	61
1)	記者発表（資料配付含む）	61
2)	近畿中国四国農業研究センター刊行物（会議資料等除く）	61
3)	一般公開、イベント、講演会、シンポジウム等の開催	61
4)	技術相談および見学	63
5.	図書資料の収集・受入、サービス	64
1)	収書数	64
2)	除籍数	64
3)	サービス	64
VI	研究交流	65
1.	研究員などの受入・研修	65
1)	国際農林水産業研究センター（JIRCAS）研究員	65
2)	国際協力機構（JICA）研究員	65
3)	日本学術振興会（JSPS）研究員	65
4)	科学技術振興機構（JST）研究員	65
5)	その他の制度等による海外研究員の受入	65
6)	流動研究員	65
7)	依頼研究員	65
8)	技術講習生	65
9)	国内留学	66

10) 連携大学院	66
2. 研究員の派遣	66
1) 流動研究員	66
2) 国内留学	66
3) 海外派遣・出張	66
3. 技術協力・指導	66
1) 連携大学院への派遣	66
2) 他機関主催研修会等への講師派遣	66
3) 当センター主催の技術指導	70
4) 依頼分析、試験および同定	70
4. 共同研究	70
5. 協定研究	71
6. 開放型研究施設（オープンラボ）の利用状況	72
VII 組織・人事・会計	73
1. 組 織	73
2. 人 事	74
1) 現在員数	74
2) 農研機構特別研究員	74
3) 委員等の就任状況	74
4) 叙勲	75
5) 受賞	75
6) 学位授与	76
3. 会 計	76
1) 決 算（所在地別内訳）	76
2) 固定資産（所在地別内訳）	77
VIII 主な会議等	78
1. 近畿中国四国農業試験研究推進会議	78
2. 近畿中国四国地域問題別研究会	78
3. 地域研究・普及連絡会議	78
4. 農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業推進会議等	79
5. 地域総合研究評価会議・現地推進検討会	79
6. その他会議	79
IX 所在地	80

I 主な動向と経過

1. 近農研を巡る情勢

平成 25 年度は、(独) 農業・食品産業技術総合研究機構（以下、農研機構）の第 3 期中期計画の 3 年目にあたる。近畿中国四国農業研究センターは、近畿中国四国地域の特徴である、中山間地および傾斜地域における農業のさまざまな課題の解決と地域の活性化を目指し、研究・技術開発に取り組んだ。

1) 組織体制と運営

ア 組織体制

農研機構の第 3 期中期目標期間における研究推進については、実施すべき研究課題を大課題・中課題として整理し、大課題毎に大課題推進責任者（プログラムディレクター）を、中課題毎に中課題推進責任者（プロジェクトリーダー）を配置するとともに、中課題推進責任者を補佐するため必要に応じて中課題推進副責任者（サブリーダー）を配置する体制としており、大課題・中課題の推進は大課題推進責任者・中課題推進責任者が責任を持って対応する一方、研究所では、中長期的な観点からの研究者の人材育成および人的な管理を中心に、研究成果の社会還元、研究環境の整備、研究資産の管理等の業務を行うこととし、これらの研究所の業務を効率的に遂行するため、研究所に研究領域を置いている。

近畿中国四国農業研究センターには、引き続き、6 名の中課題推進責任者および 7 名の中課題推進副責任者が配置された。

また、近畿中国四国農業研究センターに 6 の研究領域を置き、営農・環境研究領域および水田作研究領域の 2 つの研究領域を近畿中国四国農業研究センター本所（福山）に、作物機能開発研究領域および傾斜地園芸研究領域の 2 つの研究領域を四国研究センターに、環境保全型野菜研究領域を綾部研究拠点に、畜産草地・鳥獣害研究領域を大田研究拠点にそれぞれ設置するとともに、近畿中国四国農業研究センター独自の内部組織として、各研究領域内に以下の 18 の研究グループを設置している。

○営農・環境研究領域

- ・農業経営研究グループ
- ・機械作業・情報研究グループ
- ・農地・水環境研究グループ

○水田作研究領域

- ・水稻育種研究グループ
- ・小麦育種研究グループ
- ・栽培管理研究グループ
- ・輪作体系研究グループ
- ・病虫害研究グループ

○作物機能開発研究領域

- ・大麦育種研究グループ
- ・大豆育種研究グループ
- ・食品機能性研究グループ

○傾斜地園芸研究領域

- ・カンキツ生産研究グループ
- ・傾斜地野菜生産研究グループ
- ・園芸経営研究グループ

○環境保全型野菜研究領域

- ・生産基盤研究グループ

I 主な動向と経過

- ・野菜生産研究グループ
- 畜産草地・鳥獣害研究領域
- ・黒毛和種放牧飼料研究グループ
- ・鳥獣害対策研究グループ

また、所の広報活動や産学官連携活動を円滑に実施するため、広報普及室を設置している。広報普及室には、広報、産学官連携活動が一体的に行えるよう、企画管理部情報広報課、四国企画管理室連絡調整チームおよび専門員をメンバーとしており、広報普及室長には研究調整役をあてている。

イ 予算

第3期においては、運営費交付金による研究資金を効率的・効果的に活用することにより中期計画の着実な推進を図るため、研究資金の配分については、中期計画の大課題ごとに配分される大課題研究費を、当該大課題を構成する中課題を担当する研究職員の所属する研究所に配分しており、研究所長は、この配分された大課題研究費から共通経費を徴収し、光熱水料、機械施設の維持管理費等の他、研究所長の裁量で所研究活動強化費の財源として使用している。

また、産学官連携、現地技術実証、広報・普及、行政との連携等を通じて、研究成果の社会還元を一層促進するとともに、新たな研究ニーズを踏まえた先行的・試行的研究を実施し、人材育成、外部資金の獲得促進に資するため、研究活動強化費が設けられている。

平成25年度の近畿中国四国農業研究センターの運営費交付金の研究予算は、大課題研究費132百万円、研究活動強化費71百万円であった。

2) 近畿中国四国農業研究センターの研究の推進方向

第3期においては、近畿中国四国農業研究センターは、上記組織体制のもと、近畿中国四国地域の特徴である都市近接性中山間地および傾斜地域におけるさまざまな農業の課題の解決と地域の活性化を目指して、M（ミッション：使命）、V（ビジョン：展望）、P（パッション：情熱）をもって、下記の6つの課題を中心に戦略的に重点化して研究・技術開発に取り組んでいる。

- 中小規模水田における輪作技術の開発
- 飼料用稲や放牧などを利用する牛肉生産技術の開発
- 日光温室などの施設園芸技術の開発
- カンキツの高品質安定生産技術の開発
- 環境負荷物質の動態モデルと環境負荷の評価手法の開発
- 土壌病害虫防除と耕種的防除による環境保全型野菜栽培技術の開発

2. 運営に関する主な動向

1) 近畿中国四国農業試験研究推進会議

平成25年度近畿中国四国農業試験研究推進会議本会議は、平成26年2月7日に福山市生涯学習プラザで開催した。本年度の重点検討課題は「『攻めの農林水産業』に資する試験研究のあり方と関係機関の連携方策」であり、課題検討に先立って、近畿農政局長および中国四国農政局次長から、「攻めの農林水産業」など農政改革の要点、農政改革の地域における具体的取組等について話題提供があった。続いて、それぞれの府県から、「攻めの農林水産業」に資するこれまでの試験研究の取組事例、今後取り組むべき試験研究課題・内容および連携すべき機関・内容等について報告があり、質疑応答を行った。その中で、推進会議、研究会、現地検討会の運営、競争的資金の応募など、地域の中核機関としての近畿中国四国農業研究センターのコーディネート機能の発揮、若手研究員等の資質向上、主要農産物の育成体制、有用マーカーに対する情報の提供等について意見交換が行われた。

次に、各推進部会長等から、平成26年1月に開催した各推進部会および平成25年8月に開催した評価企画会議について、地域重要研究問題の措置方向等の議事概要の報告を行った。

I 主な動向と経過

2) サポーターズ会議

近畿中国四国農業研究センターでは、研究成果の広報、普及促進および定着に資するため、平成 23 年度から、農業関係者、行政・普及関係者、試験研究機関関係者、民間企業関係者、消費者、報道関係者および学識経験者の中から所長が委嘱する委員および所議構成員で構成する「近畿中国四国農業研究センターサポーターズ会議」を開催している。

平成 25 年度のサポーターズ会議は、平成 26 年 1 月 15 日に近畿中国四国農業研究センターにおいて開催し、動物と農家の目線に立った獣害対策、高断熱性資材で保温性を高め、ダブルアーチで構造強化したパイプハウス、「たちすずか」等 WCS 用稲の収穫・調製についてそれぞれ担当研究職員から研究成果の紹介を行った。また、WCS 用稲収穫機の実演展示を行うとともに、上記以外の研究成果についても各担当研究領域長から紹介を行った。

その後、研究成果の普及・実用化方策について意見交換を行い、最後に、委員から、新規就農者等に品種や技術開発の苦勞話をする機会の設定、中山間地域が持続可能な農業のあり方とそれを支える技術開発、生産者が正しい知識を身につけるための基礎的研究の重要性、一般市民へのわかりやすい言葉での情報発信、中山間地域での作業体系の開発、経営研究と結びついた技術開発による現場に導入可能な形での提案、普及事業、公設試との連携強化、中小農家でも使える技術の開発等の講評が行われた。

3. 研究成果の普及

1) 連携普及計画

農研機構の第 3 期における産学官連携、広報、普及活動については、これらを一体的に推進し実施する体制を整備するとともに、実用化に向けた産学官連携研究、成果の活用による事業化・普及のためのマッチング活動、国民との双方向コミュニケーション確保の取組、多様な手法を用いた研究成果の効果的広報等について計画を策定して重点的に取り組むため、各研究所等において連携・普及計画を毎年度作成し、これらの取組を推進し実施する体制を着実に整備することとしている。

近畿中国四国農業研究センターの平成 25 年度の連携・普及計画では、所として重点的に取り組む事項として、高糖分飼料イネ（「たちすずか」、「たちあやか」）、もち性大麦（「ダイシモチ」、「キラリモチ」）、「放牧仕上げ熟ビーフ」および「布団資材」（施設園芸用高断熱資材）の普及を掲げるとともに、①実用化を目的とした共同研究、②現地実証試験、③マッチング、④ニーズ把握、⑤現場活動、⑥国民理解促進のための情報発信の 6 項目についての取組事項を記載した。

2) 地域マッチングフォーラム

ア 近畿地域マッチングフォーラム

平成 25 年 11 月 19 日に、大阪府大阪市のエル・大阪を会場として、「生産者と消費者の双方の利益を結びつける農産物直売システム」と題して開催し、研究機関 28 名、生産者団体・個人 14 名、企業 13 名など、全体で 70 名の参加があった。

本フォーラムは、講演、支援ソフトのデモ、パネルディスカッションの 3 部構成で行った。はじめに、直売所の切り花需要に対応する支援ソフトと切り花の特定日開花技術と品質管理技術について近畿中国四国農業研究センターと（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所から、集荷・加工・販売・配達を支援する情報システムについて中央農業総合研究センターから、直売所の現状と情報システムへの期待について「道の駅かなん」からそれぞれ講演を行った。

講演終了後会場を移し、近畿中国四国農業研究センターから「直売所での切り花の需要量を予測するソフト」、中央農業総合研究センターから「集荷・加工・販売・配達を支援する情報システム」について、それぞれ実際にパソコンとソフトを使用してデモンストレーションと説明を行った。最後に、講演者がパネラーとなってパネルディスカッションを行った。

イ 中国四国地域マッチングフォーラム

平成 25 年 10 月 15 日に、広島県東広島市の東広島市市民文化センターを会場として、「稲発酵粗飼料用水稲品種

I 主な動向と経過

『たちすずか』を核とした耕畜連携システム」をテーマに開催し、行政機関 27 名、普及指導 13 名、研究機関 41 名、生産者団体・個人 12 名など、全体で 115 名の参加があった。

本フォーラムでは、中央農業総合研究センターおよび近畿中国四国農業研究センターから稲発酵粗飼料（WCS）用稲品種「たちすずか」、「たちあやか」の栽培法・採種法や収穫調製について講演を行い、次に広島県立総合技術研究所畜産技術センターから「たちすずか」WCS の乳牛への給与試験成果と農家実証の結果が報告された。また、有限会社トムミルクファームから、地域内の耕畜連携による「たちすずか」WCS の生産について講演があった。その後、ポスター発表とパネルディスカッションを行った。

また、翌日は、東広島市豊栄町の農事組合法人シバザクラの里乃美および有限会社トムミルクファームで現地検討会を行った。

3) 農研機構シンポジウム

平成 25 年 12 月 6 日に、京都府京都市の京都市サーチパーク（株）サイエンスホールで、「地域資源を活用した環境保全型農業生産技術とその多面的環境影響評価」をテーマとして開催し、全体で 83 名の参加があった。

本シンポジウムでは、「地域資源・環境保全のための農業生産技術開発への期待」と題して鳥取環境大学から基調講演があり、続いて午前の部では「各種作目の主産地における地域資源活用型農業生産技術の実証と環境保全効果」と題し、近畿中国四国農業研究センター、秋田県農業試験場、愛知県農業総合試験場および北海道立総合研究機構根釧農業試験場から講演が行われた。午後の部では「環境保全型農業生産技術の多面的環境影響評価」と題し、岡山大学および近畿中国四国農業研究センターから講演が行われ、続いて「持続可能な農業を確立するためのライフサイクル思考」と題して中央農業総合研究センターから特別講演が行われ、最後に総合討論が行われた。

4) サイエンスカフェ

ア) 食と農のサイエンスカフェ in ふくやま

第 3 期においては、国民との双方向的コミュニケーションの強化が広報普及活動のひとつの柱となっており、近畿中国四国農業研究センター本所（広島県福山市）では、平成 24 年度に引き続き、研究者と一般市民との率直な意見交換が可能なサイエンス・カフェ形式の公開講座を開催した。

平成 25 年度は広島県福山市の近畿中国四国農業研究センター講堂を会場として 6 月 29 日、8 月 31 日、11 月 9 日、12 月 14 日の 4 回開催し、4 回の合計で一般市民 82 名の参加があった。

イ) 食と農のサイエンスカフェ「未来に羽ばたく四国農業」

また、平成 25 年度は、近畿中国四国農業研究センター四国研究センター（香川県善通寺市）でもサイエンスカフェを 2 回開催した。第 1 回は 4 月 6 日に四国研究センター生野地区において、第 2 回は 10 月 26 日に四国研究センター仙遊地区においてそれぞれ開催し、2 回の合計で 46 名の参加があった。

II 組織の概要

1. 企画管理部

企画管理部は、近畿中国四国農業研究センターの実施する試験研究の総合的な企画・調整・評価、研究予算の配分、庶務、会計、情報システムの管理等、研究活動を支える企画管理業務を担当する。また、試験研究推進会議の開催、共同研究の推進、オープンラボの利用促進等を通じた他研究機関や行政部局等との連携・交流、研究成果の普及・広報など、研究センターの総合窓口としての役割を担う。

2. 営農・環境研究領域【福山】

営農・環境研究領域では、近畿中国四国地域に多い中山間地域の地域農業振興方策の解明、近畿中国四国地域に広く存在する中小規模水田を対象とした省力作業技術の開発と体系化および生産効率化のための情報利用技術の開発、瀬戸内海沿岸地域における環境負荷評価手法の開発を行う。

○地域農業活性化の核となる農産物直売所の活動を起点として、地元農産物の販売や消費者との交流によって地域農業を6次産業化し、小規模農家も利益を確保できるビジネスモデルを提案する。

○中小規模水田作の生産コスト低減に向け、麦・大豆の簡易耕による省力安定栽培技術、牧場調製型の飼料用稲収穫・調製システム、携帯情報端末を用いた情報記録システム等を開発する。

○琵琶湖や瀬戸内海等の閉鎖的水系が多いことから、農業由来の環境負荷を軽減する技術の改良と技術導入時の環境影響評価手法の開発、水質予測モデルの汎用化等を行う。

3. 水田作研究領域【福山】

水田作研究領域では、多様性に富む近畿中国四国地域の気候的・土地的条件に適合し、かつその条件を最大限活用する水田作物の生産技術の開発を行う。

○新品種開発については、良食味の主食用品種や多収で飼料栄養価に優れた飼料用品種、病虫害複合抵抗性品種、米粉や酒米用途など、多様なニーズに応えることのできる水稲品種育成に取り組むとともに、自給率向上に資する国産小麦の増産を目指し、パン用の小麦品種や日本めんや中華めん、パスタ向け等の小麦品種の育成に取り組む。

○近年進行しつつある地球温暖化の中においても、高温条件を克服し逆に利用しうるような水稲など作物の低コスト安定多収生産技術の開発に取り組む。

○地下水制御システム等新技术の利用方策を明らかにしつつ、水稲、麦類、大豆など水田作物の合理的輪作技術、畦畔を含む雑草管理技術等の活用による中山間農地、中小規模水田に適した作物生産技術の開発に取り組む。

○消費者・生産者の双方に受け入れられる環境負荷が少ない生産技術として、土着天敵生物の改良・育成による害虫防除技術、未利用有機物資源活用による土壌病害防除技術など環境保全型生産技術の開発に取り組む。

4. 作物機能開発研究領域【仙遊】

作物機能開発研究領域では、近畿中国四国地域における水田輪作システムを確立し、農産物の需要拡大とブランド化を支援するため、裸麦や大豆品種の育成、農産物の健康機能性の解明と有効利用技術の開発を行う。

○大麦（特に裸麦）では、生産拡大や安定供給の実現に向け、味噌や麦ご飯用に適し、多収で硝子率・欠損粒率が低い品種や、食物繊維（β-グルカン）含有量が多く、付加価値が高い新規用途向け品種等を育成する。

○大豆では、安全な国産大豆の自給率向上・安定供給の実現に向け、DNA マーカー等を利用して重要病虫害抵抗性や難裂莢性等を基幹品種へ導入することで、温暖地に適した安定多収・良品質な品種を育成する。

○健康機能性については、生活習慣病を予防・改善できる食品成分の解明に向け、筋肉・肝臓の脂質代謝機能を強化する成分や、免疫調節作用等を持つ成分を明らかにする。また、小麦ふすま由来血圧降下ペプチドの商品化を目指し、その肝機能改善効果を明らかにする。

5. 傾斜地園芸研究領域【生野】

傾斜地園芸研究領域では、近畿中国四国地域に多い傾斜地の特性を活かした、新たな施設園芸生産技術やカンキツブランド化支援のための栽培技術の開発を行う。

○傾斜地における野菜生産では、日本型日光温室等の活用による高収益・安定生産施設園芸技術の開発に重点的に取り組むとともに、分子生物学的手法による新形質花きの開発に取り組む。

○カンキツ生産では、省力的に早期成園化を図り、正品果率を向上させて高収益型カンキツ生産体系の確立を図るための技術システムの開発に取り組むとともに、「団地型マルドリ方式」を提案し、普及に取り組む。

○施設園芸・カンキツ経営における多角化ビジネスモデルを提案する。

6. 環境保全型野菜研究領域【綾部】

環境保全型野菜研究領域では、化学農薬の使用量を減らして持続的・安定的な環境保全の野菜生産を行うために必要な、土壌病害虫の診断技術の開発や、病虫害抑制および生長制御に有効な耕種の技術の開発を行う。

○線虫や糸状菌等による野菜の被害について、メタゲノム解析等を用いた高感度定量法の開発や、要防除水準の作成を行い、これらに基づいた病虫害リスクの予測・診断技術を開発する。

○これまで廃棄されていた抗菌物質が含まれる地域未利用資源を活用し、より低コストで効果的な環境保全型の土壌還元消毒技術を開発する。

○ホウレンソウやイチゴにおいて収量や品質の向上、病虫害防除を可能とする、新規の光質選択性被覆資材や照明技術、遮光栽培法を含めた実用的な光環境制御技術を開発する。

7. 畜産草地・鳥獣害研究領域【大田】

畜産草地・鳥獣害研究領域では、中山間地が多い近畿中国四国地域において、地域の飼料資源を活用した黒毛和種の生産技術および近年深刻な鳥獣害への対策の研究を行う。

○輸入飼料依存を脱却し、自給飼料基盤を充実させた畜産を展開するためには、水田、野草地そして増加著しい耕作放棄地などを活用する必要がある。そこで、近年、開発された新品種飼料稲や野草地放牧などの地域の自給飼料資源を活用した黒毛和種の繁殖から肥育までの新生産技術の開発に取り組む。

○全国的に鳥獣害被害は深刻さを増しているが、従来の駆除や防護柵では防止効果は小さいため、イノシシ、ハクビシン、サルなど野生動物の行動解析をもとに、より省力的で効果の高い侵入防止技術の開発に取り組む。また、これらの成果をもとに地域の住民が主体的に取り組める鳥獣害被害対策プログラムを提案する。

8. 研究支援センター

研究支援センターは、試験研究活動の円滑な進行を支えるため、試験圃場・施設の管理、作物・動物の栽培と飼育に取り組んでいる。多様な近畿中国四国地域の立地条件を反映し、試験圃場は平坦な水田や畑地だけでなく地域特有の傾斜地圃場（畑地・樹園地・草地・放牧地）、ハウス等施設など様々な種類に及ぶ。扱う作物も水稲や大豆・麦類等の普通作物、牧草・飼料作物、野菜など園芸作物、かんきつ等果樹類まで多様である。動物に関しては家畜である肉用牛のほか、近年は獣害を引き起こすイノシシ等野生動物についても飼育している。これら管理・栽培・飼育業務全般のほか、技術利用者、作業者の視点から技術開発に有用な助言を行うとともに、業務改善に資する工夫・考案等も行っている。また、現地実証試験など所外での研究活動にも対応する中で、新技術をいち早く修得し模範実施することにより、開発技術の生産者への速やかな技術移転の一翼を担う。

Ⅲ 研究の実施状況

- ・領域名：営農・環境研究領域
- ・研究グループ名：農業経営研究グループ
- ・研究担当者：室岡順一、坂本英美、尾島一史、友國宏一、渡部博明、吉田晋一
- ・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、①農産物直売所を核とした地域農業多角化ビジネスモデルの策定、②経営部門別新技術および技術体系の経営的評価と普及手法の提示、③農業経営および地域農業の動向解析にもとづく技術開発方向の提示、④高付加価値商品のための農産物購買・消費行動データ収集・分析システムの開発に取り組んだ。①については、「主な研究成果」を参照。②では、中国地方の大豆作付面積は停滞・減少傾向にあるが、より正確な現状を把握するために広島県内の集落営農法人へのアンケート調査を実施した結果、稲単作あるいは稲・ソバ・牧草との組み合わせの作付け体系が最も多いこと（40%）、稲・麦・大豆の2年3作など作付け体系は5%にとどまっている現状を明らかにした。③では、近畿中国四国地方において担い手経営体の経営耕地面積を予測するため、世界農林業センサスの個票データを解析した。その結果、山陽地方における担い手経営体の平均規模は、販売農家の場合が20ha、法人組織経営体の場合が50haと予測された。担い手経営体がこの規模面積を耕作できれば山陽地方の全経営耕地面積の減少抑制に期待できる。④では、昨年度に直売所での切り花の需要量を日内・週間・年間ごとに予測するソフトウェアを開発し、本年度は野菜など他品目へ適用範囲を広げる可能性を検討した。ナスなどの販売データを用いて試験的に予測した結果、ある程度の精度で予測でき、開発した需要量予測ソフトは野菜において有用であると評価できる。

なお、本年度前半は、研究グループとして地域農業イノベーションを産み出す研究戦略の策定にかかわる作業を担当した。本年度後半は、研究グループとして「経営の多角化を図る集落営農組織」に焦点を置いた共同調査を実施し、東広島市河内町の「ファームおだ」と庄原市の「夢ファーム永末」を調査した。

・主な研究成果

中山間地域の農産物直売所は来店者の伸び悩みと売れ残りの問題に直面し、その問題解決を図る取り組みの一つとして「出張直売」に着目した。出張直売とは、農産物直売所が定期的に都市部に出向き、仮設店舗で直接販売する取り組みである。出張直売の実態と課題について原著論文で発表し、売上向上を図るビジネスモデルとして研究成果情報「中山間地域の農産物直売所が売上向上を図るビジネスモデル『出張直売』」としてまとめた。また、直売所の複数の新ビジネスをまとめて紹介したパンフレットを発行し、研究成果情報「直売所・生産者・消費者にメリットをもたらす直売所の新ビジネス」としてまとめた。

・広報・普及・産学官連携活動

ユリ切り花の開花日予測・処理導出ソフトウェアおよび直売所における切り花需要量の予測ソフトウェアを近畿地域マッチングフォーラム（平成25年11月、大阪市）で紹介した。80名の参加があり、複数の機関から導入の申し出があった。

・その他

室岡順一上席研究員の第2期中期計画期間中に担当した「食育や農業体験学習に関する一連の研究業績」に対して、日本農村生活学会学術賞が授与された。

- ・領域名：営農・環境研究領域
- ・研究グループ名：機械作業・情報研究グループ
- ・研究担当者：奥野林太郎、高橋英博、窪田潤、高橋仁康、寺元郁博
- ・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、①中小規模水田輪作体系の確立、②牧場調製型収穫システムの開発、③通信制御の共通化技術の開発、④生産現場における簡易データ収集・統合管理システムの開発に取り組んだ。①では、大豆品種「あきまる」晩播において非選択性除草剤の畦間株間除草剤散布を検討し、晩播では散布適期を拡大できることを確認した。大豆で問題となる難防除雑草除草体系の構築に繋がる。②では、飼料稲収穫機3号機に切断長を短くする改造を行い、ワゴンやトラックの積載量増加、輸送効率の向上を現地試験により確認した。これによる稲WCSの収穫

Ⅲ 研究の実施状況

の効率化が図られる。③では、農業機械用通信規格 ISO11783 に準じた情報で汎用的に作業機を制御するための簡易共通リモートコントローラを試作し、施肥播種機の電子制御装置にキャリアブレーション機能を加えた。これは、高精度作業の簡易化につながる。④では、アンドロイド端末上で動作する収穫作業記録作成ツールを改良しコントラクターでの収穫作業で活用する試験を実施した。入力内容が限定されており利用し易いシステムである。また、岡山県・広島県を対象に 2000、2010 年農林業センサスの情報より、耕地の窒素収支、家畜排せつ物の窒素負荷を算出した。これは、環境負荷要因の解析等で必要な共通データ交換様式の整備につながる。

・主な研究成果

稲 WCS の収穫・調製においてワゴンタイプ収穫機とトラックによる牧場調製型収穫システムが慣行に比べ低コストとなる条件を示し、普及成果情報「WCS 用稲をトラックでバラ積み輸送し飼料基地で調製する低コスト作業体系」としてまとめた。また、クラウドシステムを活用しリアルタイムで進捗把握が可能なアンドロイド端末用の収穫作業記録作成ソフトウェアを開発し、普及成果情報「リアルタイムで進捗把握が可能なスマートフォン用収穫作業記録作成アプリ」としてまとめた。

・広報・普及・産学官連携活動

平成 24 年 10 月に、アグリビジネス創出フェアに開発している農業機械の情報通信の国際規格に対応する機器を出展し、コネクタ等の国内規格化の取り組みについて紹介した。平成 25 年 11 月、ドイツ・ハノーバーで開かれたアグリテクニカに国際通信規格に関する開発機器の出展を行い、日本の取り組みを紹介した。また、岡山大学と協定研究を結び地下水位制御システムの水稲の水収支を測定した。

・その他

3 月 25 日に高橋英博主任研究員が「GIS とオープンデータを活用した瀬戸内海流域における農地由来の環境負荷の評価」で学位を取得した。

・領域名：営農・環境研究領域

・研究グループ名：農地・水環境研究グループ

・研究担当者：松森堅治、笠原賢明、石岡徹、志村もと子、渡邊修一

・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、①農地からの環境負荷物質を低減する技術の開発、②負荷低減対策技術の導入効果の予測が可能な環境負荷物質動態モデルの構築、③水系における環境負荷リスクの評価、④地下水位制御システム圃場における土壌中の水分・養分の動態解明、⑤還元消毒時の土壌環境変化と消毒効果の関係の解明に取り組んだ。①では、日射制御型拍動自動灌水装置について、露地ナス栽培における一酸化二窒素発生量が慣行栽培に比べ減少することを明らかにし、ブドウのコンテナ栽培を対象に高齢者や障がい者でも利用可能な装置への改良を行った。牛ふん堆肥中の炭化・灰化処理により比率が増加する炭酸水素ナトリウム溶液抽出態リン酸はコマツナに利用可能であることを明らかにした。②では、土地利用や水質の公開されている数値情報で予測可能な簡便な水質モデルを構築し、複数地域で実用性を検証した。③では、牧草、水稲、露地野菜を対象に慣行技術と環境負荷低減技術のインベントリデータを収集し、LCA により温室効果ガス排出量を算出して比較評価を行った。これは、インベントリデータの少ない農業分野において重要な成果である。④では、ライシメータの地下水位制御システムに給・排水の流量測定系を構築し、地下水位 -30cm 設定でダイズの水要求量が最大で 18mm / 日に達することを示した。⑤では、土壌還元消毒は灌水太陽熱消毒や単純な作物残渣鋤き込みに比べ一酸化二窒素放出量が少なく、環境保全的である。消毒時に難透過性フィルムを用いることにより放出量をより低減できることを明らかにした。

・主な研究成果

水質モデルの開発については、簡便で広域的なシナリオ解析に適応できる点で新規性が高く、原著論文として発表するとともに、研究成果情報「土地利用面積比率に基づく流域水質予測モデル」にまとめた。また、ダイズ作付け期間中の地下水位制御システムの深さ別土壌水分量の変化については、圃場全体をカバーする土壌水分の変動解析という点で新規性が高く、原著論文として発表した。

・広報・普及・産学官連携活動

日射制御型拍動自動灌水装置による減肥、広域水質モデル、地域資源活用の LCA 評価について、農研機構シンポ

Ⅲ 研究の実施状況

ジウム（京都）で紹介した。日射制御型拍動自動灌水装置については、農研機構シンポジウム（東京）、東海地域マッチングフォーラム（名古屋）でも紹介するとともに、広報・連携促進費でイチジクの現地実証試験を福山市内で実施しており、その成果を広島県の普及指導員研修会で紹介し普及促進を図った。また、高齢・障がい者が利用可能な装置の開発と実証において島根県農業技術センターと連携して実証試験を行っている。

- ・領域名：水田作研究領域
- ・研究グループ名：水稻育種研究グループ
- ・研究担当者：出田収、重宗明子、中込弘二
- ・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、①主食用、加工用水稲品種の開発・利用、②飼料用稲品種の開発に取り組んだ。①では、中生熟期の高温耐性、良食味多収品種「中国 201 号」を育成した。本品種は、縞葉枯病に抵抗性で穂いもちにも強く、温暖地西部における主食用品種としての作付けが期待される。また、低アミロース多収系統「中国 216 号」を育成した。加工米飯、菓子等米製品への利用が期待される。その他、広島県立総合技術研究所、JA 全農ひろしま、広島県酒造協同組合との酒米共同育成を実施し、系統の育成・選抜を進めた。②では、加工・飼料用の多収系統「中国 217 号」を育成した。米多収系統として今後の利用・普及が期待される。

- ・主な研究成果

中生熟期の高温耐性、良食味多収品種「中国 201 号」の品種登録出願を行った。さらに、「中国 201 号」は広島県で奨励品種に採用される予定となり、温暖地西部での普及性が認められることから、普及成果情報「高温登熟性に優れ、良食味で多収の水稲品種「中国 201 号」」として取りまとめるとともに、農林認定申請を行うこととした。広島県で、2014 年度には 300ha、2015 年度には 1,000ha、2016 年度には 2,000ha の作付けが計画されており、さらに、近畿中国四国地域の 14 府県の高温耐性品種選定連絡試験の中でも普及に向けた検討がなされている。

- ・広報・普及・産学官連携活動

水稻新品種「中国 201 号」については、広島県穀物改良協会、JA 全農ひろしまに協力することにより普及促進を図った。また、中生熟期の良食味多収水稻品種「せとのかがやき」については、瀬戸内市振興公社との協定研究により普及促進を図った。さらに、酒米については、広島県立総合技術研究所、JA 全農ひろしま、広島県酒造協同組合との共同研究により育成を進め、飼料稲については、作物研究所および九州大学との共同研究により育成を進めた。その他、茎葉多収で中生の稲発酵粗飼料用水稲品種「たちあやか」について、家畜改良センター長野支場との研究協定により採種法の検討を行った。

- ・領域名 水田作研究領域
- ・研究グループ名 小麦育種研究グループ
- ・研究担当者 高田兼則、池田達哉、船附稚子、谷中美貴子
- ・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、①栽培地域の気象生態に対応した高品質な用途別小麦品種の育成、②加工適性に優れるグルテンタンパク質組成の解明と DNA マーカーの開発、③ DNA マーカー等の開発・利用による抵抗性遺伝子の集積と複合障害抵抗性素材の開発の課題に取り組んだ。①では、パン用小麦新品種の「せときらら」の普及活動に取り組み、その結果、山口県で奨励品種に採用されたほか、複数の産地で有望視され試験栽培を実施しており、今後の普及拡大が期待される。また、日本製粉との共同研究をもとに日本初のデュラム小麦系統「中国 D166 号」を開発した。②では、判別が困難だった *Glu-A1* 遺伝子座の *Glu-A1b* と *Glu-A1c* を判別する DNA マーカーと *Glu-B1c*、*Glu-B1d* を判別する DNA マーカーを開発した。また、グルテニン (*Glu-1*、*Glu-3*)、硬軟質 (*Pina*、*Pinb*) などの遺伝子型を調査し、カタログ化を進めた。その中で、農林品種の 5 品種に新規と考えられる *Glu-B1* 遺伝子型を見いだした。これらの情報は今後の品種育成の効率化に寄与する。③では、赤かび病および穂発芽抵抗性等の QTL あるいは遺伝子を DNA マーカーにより、抵抗性の弱いデュラム小麦系統「中国 D166 号」への導入を進めており、BC4F1 世代まで開発を進めた。また、デュラム小麦の *Cdu1* の連鎖マーカーは普通系小麦間で見られる多型を利用しての子実 Cd 濃度の選抜に適用できないことを明らかにしたほか、「中国 165 号」の子実 Cd 濃度は「シロガネコムギ」対比約 4 割であることを確

Ⅲ 研究の実施状況

認した。障害抵抗性をもつ新品種の開発に向けての重要な情報の蓄積が進んでいる。

・主な研究成果

グルテニン(*Glu-1*、*Glu-3*)、硬軟質(*Pina*、*Pinb*)などの遺伝子型カタログ化は、中課題の主要成果の一つに選ばれた。

・広報・普及・産学官連携活動

「せときらら」の現地検討会を山口県で開催したほか、生産者・実需者へのサンプル提供、プレスリリースやJA商談会などの普及活動を行った。日本製粉とのデュラム小麦に関する共同研究から「中国 D166 号」を開発した。

・その他

高田兼則上席研究員、池田達哉主任研究員、船附稚子主任研究員らによる「超強力小麦品種「ゆめちから」の育成」に対して、日本育種学会賞および北農賞が授与された。

・領域名：水田作研究領域

・研究グループ名：栽培管理研究グループ

・研究担当者：長田健二、黒瀬義孝、千葉雅大、小林英和

・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、①水稲収量・品質の変動要因の生理・遺伝学的解明と安定多収素材の開発、②栽培・生体情報に基づいた高品質カンキツ生産技術の開発、③かび毒産生病害からの食品安全性確保技術の開発、④気候変動下における水稲の高温障害対策技術の開発に取り組んだ。①では、水稲の収量ポテンシャル向上にむけ、インド型多収品種のシンク容量をさらに高める作用を示す染色体領域を明らかにした。②では、高品質カンキツ生産にむけて、これまでに開発した簡易土壌水分計の指示値をもとに圃地土壌の乾燥度を把握し、収穫時の果実糖度を予測できることを明らかにした。③では、小麦赤かび病防除に重要となる開花期予測に関して、2週目までの気温予報値を利用することで、これまでの平年値を利用する方法と比較して予測誤差を1～2日改善できることを示した。④では、気候変動下における水稲の安定多収栽培に関連して、窒素施肥量および出穂前日射条件に対する籾数反応に品種間差があることを明らかにした。

・主な研究成果

新たに開発した蛍光イメージング手法を用いて、水稲胚乳の成熟過程では中心部から周縁部に向かって順に細胞死による活動停止が進行し、各細胞におけるプログラム細胞死のプロセスは、デンプン蓄積完了前に開始されることを解明した。また、水稲の高温登熟障害を軽減することが知られる深水栽培では、茎のソース機能（蓄積炭水化物、葉面積）が増加することで白未熟粒発生が抑制されることを明らかにした。さらに、高温に強い品種育成や栽培法開発に利用可能な、人工熱源を用いずに昼温を均一に上昇させることができる温風導入型オープントップチャンバーの開発に貢献した。これらの知見は、いずれも水稲の品質向上技術の開発にむけて新規性のある有用な成果であり、原著論文を発表するとともに、本年度の研究情報とした。

・広報・普及・産学官連携活動

簡易土壌水分計と水分移動シミュレーションに基づくかん水管理による高品質カンキツ生産についての現地検討会を開催した。気候予測情報を活用した農業技術情報の高度化、米粒の精米歩留まり変動要因の解明、ミツバチ農薬影響評価のための基礎的情報収集に関連して、それぞれ、気象庁、民間企業、農環研との共同・協定研究に参画した。新潟大学から大学院生のインターンシップを受け入れ、水稲多収栽培を中心に指導を行った。水稲栽培やカンキツ生産に関する技術相談対応や講演、イベントでのポスター展示等を通じて生産者や普及関係者に研究成果を紹介するとともに、一般市民を対象としたサイエンスカフェでは水稲の高温障害問題やその克服にむけた研究取り組みについて解説した。

・領域名：水田作研究領域

・研究グループ名：輪作体系研究グループ

・研究担当者：岡部昭典、石川直幸、橘雅明、伏見昭秀、竹田博之、藤本寛、森伸介

・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、①地下水位制御システムを利用した安定多収栽培技術の開発、②直播水稲・麦・大

Ⅲ 研究の実施状況

豆の省力・低コスト栽培管理技術の開発、③中小規模水田における高生産性輪作体系の現地実証に取り組んだ。①では、地下水位制御システムを利用した水稲の節水栽培及び大豆の出芽率向上技術を開発するとともに、麦の登熟前中期での地下灌漑効果を明らかにした。これらの結果は地下水位制御圃場における水稲、麦、大豆輪作体系の普及に寄与する点で意義がある。②では、水稲乾田直播栽培における少量播種の課題や除草剤処理効果を明らかにするとともに、湛水直播水稲における種子近傍の土壌微生物相を解析した。また、大豆では現地調査から低収に關与する要因を、大麦では耕起方法や追肥方法から多収条件を明らかにし、さらに、シバ導入による畦畔管理の省力効果を明らかにした。これらの知見は今後の省力・低コスト栽培に活用することが期待される。③では、現地の地下水位制御圃場で水稲の乾田直播栽培を実施したが、坪刈で600kg／10a以上、全刈で500kg／10a以上の収量を達成し、大幅な労働時間の削減と併せて同技術の省力・低コスト性を実証した。

・主な研究成果

開発した大豆の出芽率向上技術については、安定多収栽培に大きく寄与すると期待されることから、研究成果情報「地下水位制御システムによる梅雨明け後に播種する大豆の苗立ち安定向上技術」としてまとめた。また、ポット栽培小麦消費水量の季節推移を解析した結果は、瀬戸内干拓地の小麦圃場での灌漑要否を決定する上で重要な知見であり、原著論文として発表した。さらに、地下水位制御システムを利用した大豆の梅雨期及び梅雨明け後播種技術は、収量の安定化と作期拡大に貢献できることから、原著論文として発表した。

・広報・普及・産学官連携活動

水稲直播栽培技術に関する学習会で難防除雑草への迅速な対応の必要性について紹介したほか、中国四国土を考える会夏期研修会を近畿中国四国農業研究センターで開催した。また、サイエンスカフェで大豆の特性や研究の現状等について市民にわかりやすく紹介した。さらに、インターンシップで福山大学から学生を受入れ、大豆の栽培技術や研究手法について指導した。

・領域名：水田作研究領域

・研究グループ名：病虫害研究グループ

・研究担当者：竹原利明、宮川久義、菊地淳志、三浦一芸、大崎秀樹、富岡啓介、関口博之、世古智一、安部順一朗、野見山孝司

・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、主として、①水稲直播・麦・大豆の省力・低コスト栽培管理技術の開発、②生物機能等を活用した病害防除技術の開発とその体系化、③土着天敵等を利用した難防除害虫の安定制御技術の構築、④土壌病虫害診断と耕種的防除技術開発による野菜の環境保全型生産システムの構築に取り組んだ。①では、粒度の粗い鉄粉を用い鉄コーティング種子調製機で作製した実用レベルの水稲鉄コーティング種子が、育苗期のもみ枯細菌病(苗腐敗症)、苗立枯細菌病およびばか苗病の発病を抑制することを明らかにした。②では、甘草抽出物に含まれる主要なキュウリベと病抑制物質はグリチルレチン酸、イソリクイリチゲニン、リコカルコンAなどで、べと病菌遊走子の放出阻害などにより発病を抑制することを解明した。③では、施設野菜において、飛翔能力を欠くナミテントウ2齢幼虫を畝ごとに1㎡あたり10～13頭、1週間間隔で2回以上放飼することでアブラムシ類を効果的に防除できることを明らかにした。④では、カラシナ等の植物バイオマスを用いた土壌還元消毒法は、ホウレンソウ萎凋病に対し顕著な発病抑制効果があることを明らかにした。

・主な研究成果

上記③の飛翔能力を欠くナミテントウを用いたアブラムシ防除については、生物農薬としての登録も取得し実用性が高いことから、普及成果情報として取りまとめ、利用マニュアルも作成した。その他、上記①、②、④で開発した技術、明らかにした知見は、今後実用上有用であることから、原著論文として発表するとともに研究成果情報として取りまとめた。

・広報・普及・産学官連携活動

平成25年6月に開催された第5回「食と農のサイエンスカフェ in ふくやま」において、「害虫退治は住み込みの「天敵」におまかせ！～環境にやさしい防除法の提案～」というタイトルで、天敵を利用した害虫防除に関する話題を提供した。8月には、「注目の農業技術「IPM」“天敵”利用して安心野菜を」のタイトルで、テレビ新広島のTSSスー

Ⅲ 研究の実施状況

パーニュースに取り上げられた。また、近隣の中学校の「事業所体験」プログラムや職場体験学習（チャレンジウィーク）にも協力した。

・その他

安部順一朗主任研究員の「捕食性タマバエ類の分類・生態と利用に関する研究」に対して、日本応用動物昆虫学会奨励賞が授与された。

- ・領域名：作物機能開発研究領域
- ・研究グループ名：大麦育種研究グループ
- ・研究担当者：吉岡藤治、高橋飛鳥
- ・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、①栽培地域の気候生態に対応した多収で加工適性に優れた大麦品種の育成、②胚乳成分等を改変し付加価値のある新規特性をもつ大麦品種の育成に取り組んだ。①では、奨励品種決定調査に供試していた地方番号系統のうち、「四国裸 124 号」を試験終了とし、もち性で多収の二条裸麦「四国裸糯 131 号」を新たに配付した。②では、農水省委託プロジェクト「革新的低コストプロ」の課題において、高 β -グルカン化に關与する *amo1* 遺伝子と食感が良いモチ性の *wx-b* 遺伝子、および加熱後褐変しにくい *ant28* 遺伝子を合わせ持ち、千粒重が大きく整粒歩合が高い系統「仙系 SA0160」を選抜した。また、農研機構プロジェクト「機能性食品開発プロ」の課題において、「キラリモチ」の高位安定化栽培技術の開発を担当し、追肥条件が β -グルカン含量や収量および品質に与える影響を明らかにした。さらに、所重点研究経費で *amo1* 遺伝子を持つ系統や、黒色粒のモチ性系統の加工適性を検討した。

・主な研究成果

もち麦の普及が急速に進む中、もち性大麦の多収栽培技術は今後の生産拡大に向けて重要な知見であることから、育種学会講演会で発表した。また、もち性の多収品種の育成が望まれることから、「四国裸糯 129 号」は 5 県、「四国裸糯 131 号」は 6 県で奨励品種決定調査に供試した。

硝子率が低く高白度・多収の「ハルヒメボシ」は、今後広く普及することが期待できるため、研究所報告・広報普及誌・麦関係書籍に投稿した。

・広報・普及・産学官連携活動

「キラリモチ」など“もち麦”や“高 β -グルカン大麦”および大麦粉の普及活動として、高 β -グルカン大麦利用連絡会のオフラインミーティングを主催し、生産者と食品関連業者等とのマッチングを促進した。また、香川県栄養士会総会・研修会（5/18）での講演・出展、同研究教育部及び勤労者支援部研修会（8/31）での講演、日本栄養士会・公衆栄養活動研究会（2/8）での出展のほか、さまざまな食のイベントなどに出展した。さらに、善通寺市の「ダイシモチ」普及活動や精麦業者の大麦普及イベントに全面的に協力した。

長崎県との共同研究で、地元の加工業者との連携により、「御島裸」並の品質で栽培性を改良した味噌原料用裸麦の育成を進め、有望な 3 系統を選抜した。これらのうち 1 系統を 2014 年度に品種登録出願予定である。

・その他

硝子率が低く高白度で多収の「ハルヒメボシ」（2011 年度に品種登録出願）が愛媛県で奨励品種に採用された。

- ・領域名：作物機能開発研究領域
- ・研究グループ名：大豆育種研究グループ
- ・研究担当者：高田吉丈、猿田正恭
- ・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、①基幹品種のピンポイント改変等による優良品種の育成、②草型や栽培特性の改変による省力超多収品種・系統の開発、③大豆の需要拡大を可能とする新規用途品種・素材の開発に取り組んだ。①では、大豆品種「あきまる」の普及に向けて広島県での現地実証栽培試験等のフォローアップを継続して行った結果、広島県において奨励品種および産地品種銘柄に採用される予定となった。DNA マーカーを利用したピンポイント改良により「サチユタカ」および「フクユタカ」へ長葉遺伝子を導入した準同質遺伝子系統は原品種と比べて、3 粒莢が増

Ⅲ 研究の実施状況

加、子実の裂皮率が減少することを明らかにした。②では、耐倒伏性・強および裂莢性・難の機械化適性を有する「四国 15 号」が、子実の特徴（中小粒、高蛋白）から醤油用原料として有望視され、次年度に兵庫県たつの市において大規模醤油醸造試験用の大量種子増殖を兼ねた大規模栽培試験を実施することになり、権利保護のための品種登録出願を行った。③では、兵庫県たつの市において醤油用原料を主用途とした品種化への要望があり、一定の普及が見込めることからリポキシゲナーゼ欠失「四国 10 号」の品種登録出願（限定普及）を行った。

・主な研究成果

研究成果情報：温暖地向けリポキシゲナーゼ全欠のだいず新品種候補系統「四国 10 号」

品種登録出願：「四国 10 号」（限定普及）、「四国 15 号」（権利確保）

奨励品種採用予定：「あきまる」（広島県）

・広報・普及・産学官連携活動

兵庫県農林水産技術総合センター、ヒガシマル醤油株式会社および近畿中国四国農業研究センターの間で協定研究契約を締結し、醤油用大豆品種選定のための現地実証栽培試験、醤油醸造加工適性試験を実施した。その結果、「四国 10 号」、「四国 15 号」の現地栽培適性および醤油加工適性の優良品が確認され、両系統の品種登録出願に繋がった。

・領域名：作物機能開発研究領域

・研究グループ名：食品機能性研究グループ

・研究担当者：野方洋一、川瀬真市朗、齋藤武、阿部大吾

・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、①農作物成分による脂質代謝の促進作用の解明、②加齢に伴う生体防御機能の低下を抑止する農作物成分の作用の解明、③麦類に関する抗酸化能の評価、および④米糠からの酸性糖化合物の簡易抽出・精製手法の開発に取り組んだ。①では、シソに多く含まれるロスマリン酸が筋肉細胞において脂質酸化酵素（LCAD）遺伝子の発現上昇を介して脂質代謝を促進することを明らかにした。これにより、動物試験の着手が意義付けされた。また、ふすまペプチドが非アルコール性脂肪性肝疾患（NASH）モデルマウスの病態改善効果をもつことを明らかにした。今後、有効なペプチド成分の特定やヒトでの有効性の検討を想定する。②では、大麦のジクロロメタン抽出物に含まれるナチュラルキラー（NK）細胞活性化成分としてリノール酸を同定し、標品での活性を確認した。また、これまでに NK 細胞を活性化することを明らかにしているかんきつ成分ノビレチンが、NK 細胞自身の活性化や抗腫瘍に關与するサイトカインであるインターフェロン（IFN）- γ の産生量を増加させることを明らかにした。ノビレチンの成果は、動物試験で研究展開する。③では、大麦、小麦 10 品種・系統の親水性 ORAC（H-ORAC）値を分析した。また、親油性 ORAC（L-ORAC）分析手法の妥当性確認のための研究室間共同試験に参加したが、室間でバラツキが大きく、妥当性は確認できなかった。④では、米抽出物のメチル化処理と吸着樹脂による分画を組み合わせた精製法、および陰イオン交換樹脂による精製法を検討したが、両手法ともに満足な結果は得られなかった。

・主な研究成果

NASH モデルマウスにふすまペプチドを投与し、その病態改善効果を試験した結果、小胞体の機能障害に起因する肝臓の炎症を抑制することにより NASH の病態を改善することを明らかにした。また、投与濃度としては 1.2% が血液および肝組織に対する効果が高かった。本成果は欧州肝臓学会で発表した。

・広報・普及・産学官連携活動

本年度得られた①、②、④に関する研究成果は、関係学会や食品流通問題別研究会で報告した。産学官連携活動として、ふすまペプチドに関する 2 件の共同研究（民間企業、大学）、米糠の酸性糖に関する 1 件の協定研究（民間企業）、および NK 細胞を用いた機能性評価に関する 1 件の受託研究（民間企業）を実施し、研究の推進に努めた。

・領域名：傾斜地園芸研究領域

・研究グループ名：カンキツ生産研究グループ

・研究担当者：根角博久、細川雅敏、中元陽一、星典宏、國賀武、植山秀紀、向井章恵

・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、カンキツ栽培における①省力・低コスト安定生産技術の開発に向けた技術開発と②

Ⅲ 研究の実施状況

樹体情報、栽培情報の高度利用による高品質安定生産技術の研究を推進した。①については、園内道の法勾配を任意に指定しオルソ画像上に法先位置を描画する機能の作成、停止位置制御可能なモノレールの制御プログラムの改修と運用方法の改善、傾斜 20 度以下の果樹園における幅広作業道造成機の作業方法と作業能率の解明、太陽光発電を用いた雨水再利用技術の開発と竹炭による水質浄化に関する研究を推進した。また、②については精密気象推定のためのプロトタイプシステムの開発、樹の水分状態により自動的に制御されるかん水手法のプロトタイプの開発、新しい中晩生カンキツ類における点滴かん水施肥技術を用いた高品質果実生産技術の実証研究を推進した。また、その他に、カンキツ園地の局所蒸発散量推定法や除草ロボットの開発等の研究を進めるとともに、IT 融合による新社会システムの開発実証プロジェクト「スマートリーン農業アーキテクチャの開発と農業生産支援サービスの世界展開」を推進した。

・主な研究成果

省力・低コスト安定生産技術の開発については、灌漑用水の十分な確保が難しい傾斜地のカンキツ園において、自動点滴かん水施肥を実現するための方法として、太陽光発電を用いた揚水システムを提案し、実証試験によりポンプとバッテリーの劣化を抑制し低ライフサイクルコスト化を図る管理方法を策定し、普及成果情報とした。また、カンキツ用簡易土壌水分計の規格を決定し商品化した。

・広報・普及・産学官連携活動

マルドリ方式のカンキツ生産技術フォーラム「高収益を実現する産地ブランド型生産体系の確立を目指して」を山口県大島防災センター(周防大島)で開催した。また、平成 25 年度革新的農業技術習得支援研修「果樹栽培(かんきつ)の省力・軽労化と高品質安定生産技術」を四国研究センター(善通寺)で開催した。さらに、しまなみカンキツフェスタ(岩城島)に協賛するとともに、山口県と三重県で取り組んでいる「団地型マルドリ方式」に関する農林水産省「新技術導入・支援事業」への協力を行った。

・領域名：傾斜地園芸研究領域

・研究グループ名：傾斜地野菜生産研究グループ

・研究担当者：長崎裕司、川嶋浩樹、畔柳武司、佐藤恵一、松田周、吉越恆、杉浦誠、矢野孝喜、添野和雄

・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、中課題「温暖地施設園芸」関係では、①今年度から開始された先端プロ岩手版の陸前高田市の現地実証ハウスの施工実証を実施、②民間企業等の布団資材国産化の取組に対する助言・支援を行うとともに、技術セミナー等での広報・連携活動を推進、③夏秋トマト安定生産技術に関するフォローアップを行うとともに、循環扇利用技術のとりまとめや、簡易設置型パッドアンドファン(簡易 P&F)の実用化・普及支援を行った。

①では、ダブルアーチ化補強技術ハウスおよび布団資材を組み込んだ間口 5.4m、奥行き 18m のハウスを現地施工し、無植栽状態での陸前高田現地ハウスの内外気温差は 7.0℃(11 月中旬平均)であり、一昨年に実施した四国研究センターハウスの計測結果(5.5℃、11～12 月平均)よりも高いことなど、所定の性能を有することを明らかにした。また、同現地において建設足場資材利用園芸ハウスの寒冷地仕様実証のため、間口 7.2m、奥行き 45m のハウスを施工した。②では、布団資材の断熱性能をさらに向上させるため、セミナー等での広報を機に国内の繊維メーカー等で試作された布団資材を収集した。25 年度は熱貫流率測定装置を研究用機械整備で導入し、今後の評価・改良活動を加速化する予定である。③では、夏秋トマトの CRF(肥効調節型肥料)と拍動灌水装置を用いた省力灌水・肥培管理に関する研究を進めるとともに、暑熱対策技術に関する成果の取りまとめとして、主に簡易 P&F について所研究強化費で普及支援の取組、成果の取りまとめを行った。

中課題「新形質花き創出」関係では、IAA 生合成阻害剤の作用機構を解析し、植物種(ペチュニア、シロイヌナズナ、イネ)により主要オーキシン生合成経路が異なることを明らかにした。また、STS(エチレン阻害剤)で切り花鮮度保持効果が認められないグラジオラスについて、IAA 生合成の律速酵素である YUC の阻害剤が小花の開花遅延・老化抑制作用を示すことを見いだした。

・主な研究成果

省資源パイプハウスについては、ダブルアーチ構造ハウスについて昨年度に施工マニュアルを公開済みであり、それに基づき先端プロ岩手版の陸前高田現地における実証施工を行うなどして、耐風性・耐積雪性検証がなされてい

Ⅲ 研究の実施状況

る。多層断熱資材（布団資材）の性能向上・国産化については、大学や公設試と連携して関連民間企業の支援を進め着実に成果を収めつつある。これらの成果は、NARO RESERCH PRIZE 2013「高断熱性能で保温性を高め、ダブルアーチで構造強化したパイプハウス」受賞に至った。

また、ハウス内における循環扇利用や配置に関する有用な知見を研究成果情報「循環扇性能と数値流体力学による循環扇気流の予測方法」として取りまとめることができた。暑熱対策技術について細霧ノズル付循環扇を利用した低コスト細霧冷房技術のマニュアル化が図られ、さらに民間企業と大学、公設試と連携して、簡易設置型パッドアンドファンの実用化・市販化を進める成果が得られた。

・広報・普及・産学官連携活動

10月に東京ビッグサイトで開催されたアグリビジネス創出フェア 2013において「省エネ・低コストを目指す施設園芸」として、日本型日光温室、夏秋トマト安定生産、日射量対応型自動灌水、簡易P&Fの成果を一体的に展示し成果の公表を行った。10月に中国遼寧省の瀋陽農業大学で開催された国際施設園芸シンポジウムにおいて、川嶋浩樹主任研究員と畔柳武司研究員が招へい講演を行った。また、日本型日光温室関係では布団資材関係で2回の技術セミナー（11月に東京、2月に四国研究センター）、夏秋トマト安定生産では11月に徳島県で成果発表会を開催した。

・その他

川嶋浩樹主任研究員が「平張型傾斜ハウスの新規開発とその導入による野菜・花き生産システムの構築」で学位（農学）を取得した。

・領域名：傾斜地園芸研究領域

・研究グループ名：園芸経営研究グループ

・研究担当者：棚田光雄、齋藤仁藏、堀江達哉

・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、①カンキツ園における「マルドリ方式」を用いた早期成園化の経済性評価、②カンキツ産地におけるブランド化推進方策の解明、③施設トマト作およびカンキツ作経営の多角化型ビジネスモデルの作成に取り組んだ。①では、「マルドリ方式」を用いた育成成園化技術によって、育成期間を慣行栽培より2年短縮することで、育成期間における物財費は約70%増加するものの、省力効果により労働費を加えた費用が80%程度まで減少すること、また、同技術は、経済効果をより発揮させるため、収益の比較的高い優良園地・品種への適用が望ましいことを生産モデルの試算により確認した。②では、「団地型マルドリ方式」を導入している2事例の実態調査に基づき、事業導入による生産環境整備と関係機関による技術指導、既存ブランドの活用によって、産地ブランド化に「マルドリ方式」の導入効果を活かすことができることを明らかにした。「団地型マルドリ方式」については事例分析を蓄積することで、地域条件に応じた普及が可能になるもの期待される。③では、トマト加工およびカンキツ加工の取組事例を対象に事業活動の特徴を検討し、トマト加工の事例から、「顧客価値創造」「価値提供プロセス」「利益創出方法」の3要素への対応を充実することにより事業が安定化すること、また、カンキツ加工の事例から、品質重視の消費者を対象に高精度な規格外品を原料とする高級ジュースを提案し、新規需要を掘り起こすことで利益を得ていることを明らかにした。

・主な研究成果

和歌山県S果樹園を対象とした事例分析に基づいて、顧客の絞り込み、原料用果実の糖度選別等による差別化、試飲販売等による価値の伝達を通じたミカン高級加工品市場の創造が加工事業の成功要因であることを示した。この成果は、これまで取り上げられなかったカンキツ作経営における加工事業を対象にビジネスの仕組みを解明したという点で新規性をもつ。

・広報・普及・産学官連携活動研究

『「団地型マルドリ方式」導入の手引き』を増刷し、生産者・指導機関等に広く配布した。また、「団地型マルドリ方式」について、導入意向や関心をもつ生産者・産地に対して助言・指導を行うとともに、現地事例の案内や講演活動等を通して具体的内容を紹介することにより普及促進を図った。

・領域名 環境保全型野菜研究領域

Ⅲ 研究の実施状況

- ・研究グループ名 生産基盤研究グループ
- ・研究担当者 村上弘治、伊藤陽子、須賀有子、福永垂矢子、佐藤恵利華
- ・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、①連作に関わる土壌生物相の特性評価、②土壌病虫害被害の予測・診断技術の開発、③病虫害低減技術の開発に取り組んだ。①では、ハウレンソウ連作土壌の細菌・糸状菌相は、連作回数、夏季の太陽熱処理、ソルゴー栽培によって変化し、細菌相よりも糸状菌相で変化が大きいこと、連作回数による糸状菌相の変化には土壌 pH やリン酸濃度が影響していることを明らかにした。②では、ハウレンソウ萎凋病菌に関して土壌の種類ごとに最適な DNA 抽出・精製条件を明らかにして、3種類の土壌についてリアルタイム PCR の検量線を作成し、土壌からの定量検出法を確立した。また、人工気象器内でのポット試験によりハウレンソウ萎凋病が顕著に発病する菌密度を確認し、土壌診断法確立に向けたデータを収集した。徳島県内サツマイモ生産圃場 13 圃場において、リアルタイム PCR により作付け前土壌中のサツマイモネコブセンチュウ数を測定し、収穫時の被害程度を調査して、設定した要防除水準の確からしさを確認した。ニンジン乾腐病菌のリアルタイム PCR 用特異プライマーを作成した。根こぶ病に関するこれまでの知見を取りまとめ、診断・対策支援マニュアルを作成し、収集した DRC データを整理・類別した。以上の成果は土壌生物性診断技術の確立に資することが期待される。③では、カラシナを用いた土壌還元消毒処理は 6 月処理でも夏作ハウレンソウでの萎凋病防除効果が高かったものの、その防除効果は翌年の夏作までは持続せず、夏作前の 6 月頃に再度処理を行う必要があることが明らかになった。根こぶ病に対する土壌還元消毒、太陽熱消毒の効果を発病軽減および病原菌密度低減の観点から評価した。これらは、薬剤を使用しない対策法として期待された。

- ・主な研究成果

「土壌の健康診断に基づいたアブラナ科野菜根こぶ病の診断・対策支援マニュアル」としてこれまでの知見を取りまとめた。メタゲノム線虫診断の普及促進を図るため、いも類研究会（九州沖縄農業研究センター）において、その手法や成果を発表した。前中課題で取り組んだ PCR-DGGE 法による土壌生物相の解析や葉菜類の抗酸化活性測定に関して得られた成果、およびダイコンのネグサレセンチュウによる被害に土壌微生物相や土壌化学性が及ぼす影響についての知見を原著論文として発表した。

- ・広報・普及・産学官連携活動

平成 26 年 2 月に京都市で第 4 回根こぶ病研究会を開催し、これまでの研究成果を発表して広報に努めた。また、メタゲノム線虫診断や野菜品質に関わる協定研究を継続して行った。近隣大学や民間企業の技術相談および試験研究に協力した。

- ・その他

10 月に異動した須賀有子主任研究員が当研究グループ在籍中の研究成果により学位を取得した（平成 26 年 3 月）。

- ・領域名：環境保全型野菜研究領域

- ・研究グループ名：野菜生産研究グループ

- ・研究担当者：生駒泰基、村上健二、吉田祐子、山崎敬亮

- ・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、①野菜の生育促進、高品質化に有効な光質制御資材の開発や遮光技術の開発、②小型ハウスに適用できる簡易設置型パッドアンドファン（PF）冷房技術の開発、③開発した技術の現地実証試験に取り組んだ。①では、ハウレンソウや葉ネギを中心とした葉菜類の生育を促進する、紫外線を赤色光領域の光に変換する被覆資材により、春から秋にかけて葉菜類の新鮮重が 1～2 割増収することや、生産性の向上や安定生産につながる日射透過特性（光合成有効放射に含まれる赤色光、緑色光および青色光の比率）を明らかにし、実用的な光質変換被覆資材の開発の方向性を提示した。また、夏作ハウレンソウの遮光制御技術において適用条件を提示した（主な研究成果参照）。②では、ハウレンソウの栽培において PF 冷房と不織布の浮きかけを組合せた局所冷房技術において、PF 冷房装置の設置台数削減による低コスト化、冷房効率の向上や温度むら解消による発芽率、生育・収量の向上が図れ、現場導入の可能性を示した。③では、夏作ハウレンソウ栽培において、天候変動を考慮した硝酸含量低減のための遮光制御技術の有効性を現地で確認した。また、生物的土壌消毒技術導入について経営的評価を加え、現地慣行

Ⅲ 研究の実施状況

の太陽熱消毒技術との置換に障害となることは少なく、発病を抑制して農家粗収入が向上することを明らかにした。

・主な研究成果

生育促進効果に遮光が有効となる閾値（いきち）は、実測遮光率 50%では 14.6MJ/m²/day であった。盛夏期には、慣行の 45%を上回る実測遮光率が生育促進に効果的な場合があることを明らかにした。

・広報・普及・産学官連携活動

開発技術を「高温期の花成誘導に貢献するイチゴ高設栽培の気化潜熱利用培地冷却技術」、「高温期ハウレンソウの品質向上マニュアル」としてマニュアル化し、技術の普及に努めた。「FMいかる（綾部市のコミュニティ FM）」の帯番組『農業のライフ＆ワーク』に出演し、各研究員が担当している開発技術について紹介を行った。パナソニック株式会社と「イチゴ花成促進に有効な青色 LED 照射条件の特定」課題、およびパナソニック（株）エコソリューションズ社と「遮光資材等を用いたハウス内環境制御によるハウレンソウの周年生産効率向上技術の開発」課題で共同研究契約を締結し、研究を実施した。

・領域名：畜産草地・鳥獣害研究領域

・研究グループ名：黒毛和種放牧飼料研究グループ

・研究担当者：山本直幸、高橋佳孝、大谷一郎、大島一修、柴田昌宏、後藤裕司、松本和典、堤道生

・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、①牧草等の自給飼料の特性に基づく草地管理技術の開発、②肉用繁殖牛の栄養動態・繁殖性に基づく飼養管理技術の開発、③自給飼料資源を活用した牛肉の評価・生産技術の開発、④牛の発情微弱化要因の解明に基づく発情発現明瞭化方策の開発に取り組んだ。①では、放牧期間延長技術の検討から、晩秋期以降のススキ優占草地は黒毛和種繁殖雌牛の放牧に適し、放牧後期は補助飼料により栄養状態改善が可能であること、セントオーガスチングラスは移植翌年の被度拡大に及ぼす放牧牛の採食の影響は小さいことを明らかにした。また、ライフサイクルアセスメント（LCA）による肉用牛肥育システムの環境影響評価から、飼料自給率 100%肥育における枝肉重量あたりでは、温室効果ガス排出量、酸性化・富栄養化ポテンシャル、エネルギー消費が低減されることを明らかにした。②では、高糖分飼料イネ「たちすずか」WCS 給与は、分娩後の子宮修復を促進し、分娩後 50 日以降に酸化ストレスに低侵襲であると空胎期間が短縮することを明らかにした。これは、「たちすずか」WCS の繁殖性への給与効果解明に向けて大きな意義を持つ。また、母牛の子育て能力評価の検討から、泌乳制御因子の特定タイプを持つ母牛の子は哺乳期以降も発育性が優れていることを明らかにした。③では、黒毛和種去勢牛について、「たちすずか」WCS の長期給与により肉へのビタミン類の蓄積増加や保水性改善が可能であることを明らかにした。また、「放牧仕上げ熟ビーフ（R）」では、生産者、普及組織等による「熟ビーフ連絡会」が設立され、連携して生産・普及活動を行っている。④では、発情発現明瞭化と受胎率の安定化を図るための効率的な発情誘起技術の開発に取り組んでいる。

・主な研究成果

開発した放牧期間延長技術については、周年放牧への導入が期待されることから他技術とあわせて普及成果情報「広域連携周年放牧を支援する技術マニュアル」としてまとめた。筋肉内遺伝子発現のモニタリングは肉用牛肥育の飼養条件の検討に活用できることから、研究成果情報「飼養条件が異なる肉用肥育牛の筋肉内遺伝子発現のモニタリング」としてまとめた。また、黒毛和種の繁殖や肥育システムにおける LCA については、生産現場での飼養形態ごとの環境負荷を適切に評価したという点で新規性が高く、原著論文として発表した。

・広報・普及・産学官連携活動

広島大学からインターンシップを受入れ、肉用牛の遺伝子発現解析を、新潟大学大学院から技術講習生を受入れ、筋肉系細胞の培養を指導した。「たちすずか」普及連絡会の活動として、「たちすずか」栽培技術マニュアル、「たちすずか」栽培こよみを刊行し、地域での普及促進を図った。「熟ビーフ連絡会」とともに大田市彼岸市に出展し、試食提供、アンケート調査を行った。

・その他

高橋佳孝上席研究員の「持続的な資源利用による草原再生の理解増進」に対して、科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞（理解増進部門）が授与された。

Ⅲ 研究の実施状況

- ・領域名：畜産草地・鳥獣害研究領域
- ・研究グループ名：鳥獣害対策研究グループ
- ・研究担当者：江口祐輔・上田弘則
- ・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、①イノシシ被害を抑制する草地管理技術の確立、②電気刺激を用いたニホンザルの原木シイタケ被害防止技術の開発、③野生動物の被害を抑制する竹林管理技術の確立、④野生動物の登坂による農地侵入防止技術の開発、⑤野生動物の学習能力の測定を行った。①では、昨年度の成果であるライ麦がイノシシの被害に遭いにくいことをうけて、ライ麦とイタリアンライグラスの混播試験を行っている。②では、シイタケの原木に通電させることで、ニホンザルをはじめとした野生獣がシイタケを接触した際に電気ショックを与えることが出来ることを明らかにした。③では、竹林内に十字状の遊歩道を造ることで、人が竹林内を利用しやすくなり、人の活動によって動物種ごとに行動が変化し、その出没を制御できる可能性が示唆された。④では、これまでに行ってきた動物種に加えて、登坂防止実証試験ではシカやアライグマ等の歩行も制御できることも明らかになった。⑤では、イノシシが確立20%条件（25分の5）の餌の場所を視覚（色）条件だけでなく、位置情報だけでも短期に学習・選択できることを明らかにした。

- ・主な研究成果

林内でも被害防止効果の期待できる電気刺激を用いた原木シイタケの新たな被害防止試験を行い、ニホンザル、タヌキ、ノウサギがシイタケやホダ木に接触して、電気ショックを受けることを実証した。また、野生動物の農地への侵入防止技術を開発するために実用可能な野生動物の斜面において歩行が困難となる登坂防止実証試験を行い、中型動物において有効な登坂防止技術とイノシシ、シカに有効な登坂防止技術を開発した。この技術はシカにおいてはほぼ平面に設置しても歩行が100%困難になる結果が得られた。

- ・広報・普及・産学官連携活動

研究グループとして、被害対策研修を、研究員受託研修等61件、専門員受託研修41件行い、近畿中国四国管内を始め、全国で研修普及活動を行った。また、近畿中国四国農業研究センターの主催で鳥獣被害対策技術指導研修会を開催し、各地域において自立できる指導者の養成を行った。本年度は香川県において年間5回研修を行った。また、大学、高校、小学校において特別講義や出前授業を行い、次世代の育成にも力を入れた。

研究グループの成果を交えた被害対策について年間を通して農業雑誌、農業新聞、畜産雑誌、農業共済誌に連載、掲載された。研究発表は学会等発表4件であった。成果情報は研究成果情報が2件であった。

IV 平成 25 年度研究予算課題一覧

I 食料安定供給のための研究開発

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
1 地域の条件・資源を活かした高生産性水田・畑輪作システムの確立		
(1) 新世代水田輪作の基盤技術と低コスト生産システムの構築		
ア 地域の条件に対応した低コスト・高生産性水田輪作システムの確立と実証		
(ア) 中小規模水田に対応した生産性向上のための輪作システムの確立		
a 地下水位制御システムを利用した安定多収栽培技術の開発		
(a) 地下水位制御システムを利用した安定多収栽培技術の開発	輪作体系研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 地下水位制御システム圃場における土壌中の水分・養分の動態解明	農地・水環境研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) ダイズの雑草・土壌病害抑制のための地下水位制御方法の開発	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)
(d) 地下水位制御システムを利用した水稲の節水型直播栽培技術の開発	輪作体系研究グループ	運営費交付金(一般)
(e) 大豆の不耕起密条無中耕無培土栽培技術の開発	輪作体系研究グループ	運営費交付金(一般)
(f) 小麦と裸麦の安定多収高品質栽培技術の開発	輪作体系研究グループ	運営費交付金(一般)
(g) 窒素肥料の種類と施用時期がコムギ子実カドミウム濃度に及ぼす影響の解明	農地・水環境研究グループ 農地・水環境研究グループ	運営費交付金 (所内支援制度)
b 水稲直播・麦・大豆の省力・低コスト栽培管理技術の開発		
(a) 水稲直播・麦・大豆の省力・低コスト栽培管理技術の開発	輪作体系研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 食用稲・新規需要米の乾田直播栽培の開発	輪作体系研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) 水稲直播栽培における省力・低コスト病害防除技術の開発	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)
(d) 大豆の狭畦無中耕無培土栽培技術の開発および現地実証	輪作体系研究グループ	運営費交付金(一般)
(e) 大豆病害虫の総合的防除による青立ち等被害の防止技術の開発	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)
(f) 簡易耕による麦類・大豆栽培技術の開発	機械作業・情報研究グループ 輪作体系研究グループ	運営費交付金(一般)
(g) 低草高型草種による畦畔法面の省力的管理技術の開発	輪作体系研究グループ	運営費交付金(一般)
(h) 水稲乾田直播栽培における新規除草体系の確立	輪作体系研究グループ	運営費交付金(一般)
(i) 大豆の収量限界向上に向けた基盤研究	輪作体系研究グループ 農地・水環境研究グループ 病虫害研究グループ	運営費交付金(社会的要請等対応研究費)
(j) 農業機械におけるシンプル化と情報化・高度化を両立する通信制御共通化技術の開発(共通リモートコントローラ接続式作業機 ECU 及び共通リモートコントローラの開発)	機械作業・情報研究グループ	農食研究推進事業
(k) 小型ロボットによる畦畔除草等自動化技術の開発	輪作体系研究グループ	低コスト
(l) 大豆品種「あきまる」晩播での狭畦無中耕無培土栽培に対応した除草体系の検討	機械作業・情報研究グループ	運営費交付金 (所内支援制度)
(m) 直播種子近傍土壌における微生物代謝産物の解析	輪作体系研究グループ	運営費交付金 (所内支援制度)
(n) 水稲湛水直播栽培における種子近傍土壌微生物相変化と出芽性に関する研究	輪作体系研究グループ	助成金
(o) ツルマメを摂食する昆虫類とその発生に関する調査・解析	病虫害研究グループ	ゲノム

IV 平成 25 年度 研究予算課題一覧

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
c 中小規模水田における高生産性輪作体系の現地実証と経済性評価		
(a) 中小規模水田における高生産性輪作体系の現地実証と経済性評価	農業経営研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 地下水位制御システムを導入した高生産性輪作体系の現地実証と経済性評価	農業経営研究グループ 輪作体系研究グループ	運営費交付金(一般)
(2) 土地利用型耕種農業を支える先導的品種育成と基盤的技術の開発		
ア 米粉等加工用・業務用水稲品種の育成及び米の未利用成分利用技術の開発		
a 気象変動に対応し、低コスト栽培に適した業務用向け主食用水稻品種の育成		
(a) 温暖地西部向き水稻品種の育成	水稻育種研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) ゲノム情報を利用したイネ高温耐性品種の育成(2) 温暖地西部向き優良品種	水稻育種研究グループ	気候変動
(c) 胴割れ米発生率が低い高温耐性品種の育成	水稻育種研究グループ	気候変動
(d) 水稻新品種「コシヒカリ近畿 SBL1 号」の普及をめざす現地実証試験	水稻育種研究グループ	運営費交付金 (所内支援制度)
(e) ジーンバンク事業	水稻育種研究グループ	ジーンバンク
(f) 広島県における水稻新品種系統「中国 201 号」の現地実証	水稻育種研究グループ	運営費交付金 (現地実証等促進費)
(g) 低カドミ吸収イネ品種の実用化に向けた系統育成	水稻育種研究グループ	運営費交付金(社会的 要請等対応研究費)
(h) 全国で活用できる遺伝子発現予測システムの開発と農業形質予測への展開	水稻育種研究グループ	ゲノム
b 低コスト生産を可能とする米粉パン、米粉麺用等加工向け多収水稻品種の育成		
(a) 加工向け多収水稻品種の育成	水稻育種研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 温暖地に適した米粉用多収水稻品種の開発	水稻育種研究グループ	低コスト
c 米粉利用などに適した穀粒成分特性の解明と利用技術の開発		
(a) 製粉特性の優れる系統の簡易選抜法の開発および品質特性の解明	水稻育種研究グループ	運営費交付金(一般)
d 需要拡大のための米の未利用成分新規素材の特性解明と利用技術の開発		
(a) 需要拡大のための米の未利用成分新規素材の特性解明と利用技術の開発	食品機能性研究グループ	運営費交付金(一般)
イ 水稻収量・品質の変動要因の生理・遺伝学的解明と安定多収素材の開発		
a 収量性 QTL の収量向上効果の検証と多収水稻の理想型モデルの確立		
(a) 収量ポテンシャル向上に適した穂のシンク構造の評価	栽培管理研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) ミツバチ農業影響評価のための基礎的情報収集に係る研究	栽培管理研究グループ	運営費交付金(社会的 要請等対応研究費)
b 気象変動に対する生育・品質・収量等の安定化に関与する遺伝的要因と生理生態機構の解明		
(a) 収量安定性に寄与する 1 穂初数の変動性の解析	栽培管理研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 登熟期の高温が水稻胚乳組織の発達・老化に及ぼす影響の解明	栽培管理研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) 水稻胚乳組織における核内倍加の品種間差の解明	栽培管理研究グループ	運営費交付金 (所内支援制度)

IV 平成 25 年度 研究予算課題一覧

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
ウ 気候区分に対応した用途別高品質・安定多収小麦品種の育成		
a 栽培地域の気象生態に対応した高品質な用途別小麦品種の育成		
(a) 栽培地域の気象生態に対応した高品質な用途別小麦品種の育成	小麦育種研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 製パン性に優れる温暖地西部向け早熟小麦品種の育成	小麦育種研究グループ	低コスト
(c) 小麦遺伝資源の特性調査と増殖	小麦育種研究グループ	ジーンバンク
(d) 小麦の新品種「中国 161 号(せときらら)」の山口県での現地実証試験	小麦育種研究グループ	産学官連携活動促進費
(e) 小麦新品種「中国 161 号(せときらら)」を核とした生産団体・加工業者とのマッチング活動	小麦育種研究グループ	産学官連携活動促進費
b 小麦の品質向上技術の開発		
(a) 加工適性に優れるグルテンタンパク質組成の解明と DNA マーカーの開発	小麦育種研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 大麦の貯蔵タンパク質の「グルテン化(重合体形成)」のための仮説実証研究	小麦育種研究グループ	運営費交付金(特別強化費)
(c) パン・中華めん適性に関与するグルテン遺伝子のカタログ化とマーカーの開発	小麦育種研究グループ	低コスト
(d) 食料自給率と高品質安定生産を実現する小麦・大麦品種の開発と普及促進(タンパク質・デンプン組成等と品質との関連性評価)	小麦育種研究グループ	農食研究推進事業
(e) 菓子適性が優れるグルテンタンパク質の研究	小麦育種研究グループ	助成金
c DNA マーカー等の開発・利用による抵抗性遺伝子の集積と複合障害抵抗性素材の開発		
(a) DNA マーカーの開発利用による抵抗性遺伝子の集積と複合障害抵抗性素材の開発(デュラム小麦の農業形質の改良および品質関連形質の分析、マーカー等を活用したカドミウム低蓄積性系統の開発)	小麦育種研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) デュラム小麦の農業形質の改良及び品質関連形質の分析	小麦育種研究グループ	運営費交付金(特別強化費)
(c) 子実へのカドミウムの蓄積性が低い小麦系統「中国 165 号」の品質化に向けたカドミウム蓄積性、赤かび病抵抗性の評価	小麦育種研究グループ	運営費交付金(所内支援制度)
エ 需要拡大に向けた用途別高品質・安定多収大麦品種の育成		
a 栽培地域の気候生態に対応した多収で加工適性に優れた大麦品種の育成		
(a) 栽培地域の気候生態に対応した多収で加工適性に優れた大麦品種の育成	大麦育種研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 大麦遺伝資源の特性調査と増殖	大麦育種研究グループ	ジーンバンク
b 胚乳成分等を改変し、付加価値のある新規特性をもつ大麦品種の育成		
(a) 良色相・高整粒歩合の高βグルカン含量の大麦品種の育成	大麦育種研究グループ	低コスト
(b) 高アミロース遺伝子 <i>amo1</i> を持つ裸麦系統の加工適性試験	大麦育種研究グループ	運営費交付金(所内支援制度)
(c) もち性大麦品種の高位安定化栽培技術の開発	大麦育種研究グループ	機能性
(d) もち麦(キラリモチ、ダイシモチ)の普及現場支援活動	大麦育種研究グループ	運営費交付金(現地実証等促進費)
(e) 「高βグルカン大麦利用連絡会」オフラインミーティング	大麦育種研究グループ	運営費交付金(広報活動促進費)

IV 平成 25 年度 研究予算課題一覧

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
オ 気候区分に対応した安定多収・良品質大豆品種の育成と品質制御技術の開発		
a 基幹品種のピンポイント改変等による優良品種の育成		
(a) 基幹品種のピンポイント改変等による優良品種の育成	大豆育種研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 大豆の収量限界向上に向けた基盤的研究	大豆育種研究グループ	運営費交付金(社会的要請等対応研究費)
(c) 高温・干ばつ耐性の導入とマーカーの開発	大豆育種研究グループ	気候変動
(d) ジーンバンク事業	大豆育種研究グループ	ジーンバンク
(e) ダイズウイルス病に対する抵抗性遺伝子の単離と機能解明、育種の利用	大豆育種研究グループ	ゲノム
b 草型や栽培特性の改変による省力超多収品種・系統の開発		
(a) 草型や栽培特性の改変による省力超多収品種・系統の開発	大豆育種研究グループ	運営費交付金(一般)
c 大豆の需要拡大を可能とする新規用途品種・素材の開発		
(a) 大豆の需要拡大を可能とする新規用途品種・素材の開発	大豆育種研究グループ	運営費交付金(一般)
(3) 農業技術の経営的評価と経営管理システムの確立		
ア 新技術の経営的評価と技術開発の方向及び課題の提示		
a 農業経営及び地域農業の動向解析に基づく技術開発方向の提示		
(a) 近畿中国四国における農業経営及び地域農業の動向解析に基づく技術開発方向の提示	農業経営研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 日本型アグロパストラルの成立条件の解明	農業経営研究グループ	科研費
b 経営部門別新技術及び技術体系の経営的評価と普及手法の提示		
(a) 経営部門別新技術及び技術体系の経営的評価と普及手法の提示(中山間地域における水田輪作体系の導入定着条件の解明)	農業経営研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 新技術・新品種の導入・普及が地域に及ぼす経済効果の解明	農業経営研究グループ	運営費交付金(一般)
イ 地域農業を革新する6次産業化ビジネスモデルの構築		
a 多角化型園芸作ビジネスモデルの策定		
(a) 中山間地のトマト作等施設園芸経営における多角化ビジネスモデルの策定	園芸経営研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) カンキツ作経営における多角化ビジネスモデルの策定	園芸経営研究グループ	運営費交付金(一般)
b 直売所を核とした地域農業多角化ビジネスモデルの策定		
(a) 中山間地域における直売所活動の多角化ビジネスモデルの構築	農業経営研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 環境調和型農業振興による地域農業多角化ビジネスモデルの構築	農業経営研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) 都市近郊直売所における切り花の需給調整型ビジネスモデルの策定	農業経営研究グループ	運営費交付金(一般)
(d) 観光客をターゲットにした直売所ビジネスモデルの構築	農業経営研究グループ	運営費交付金(一般)
(e) 直売所切り花の需要調整型ビジネスモデルの現地実証	農業経営研究グループ	運営費交付金(現地実証等促進費)
2 自給飼料基盤の拡大・強化による飼料生産性向上と効率的利用技術の開発		

IV 平成 25 年度 研究予算課題一覧

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
ア 低コスト栽培向きの飼料用米品種及び稲発酵粗飼料用品種の育成		
a 低コスト生産に適し食用品種との識別性を有する多収飼料用米品種の育成		
(a) 温暖地西部向き多収飼料用米品種の育成	水稲育種研究グループ	運営費交付金(一般)
b 高い消化性を持ち地域の環境条件に対応した稲発酵粗飼料用品種の育成		
(a) 多収で消化性に優れた稲発酵粗飼料用品種等の育成	水稲育種研究グループ	低コスト
イ 地域条件を活かした多様な自給飼料多給型家畜生産及び高付加価値畜産物生産技術の開発		
(ア) 飼料用稲や牧草等の多様な自給飼料資源を活用した高品質牛肉生産技術の開発		
a 高糖分飼料用稲等の生産・調製支援システムの開発		
(a) 牧場調製型収穫システムの開発	機械作業・情報研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 広域コントラクターによる飼料イネ低コスト生産体系の現地実証と経済性評価	機械作業・情報研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) 愛媛県耕種農家生産組合における牧場調製型収穫システム現地実証試験	機械作業・情報研究グループ	運営費交付金 (現地実証等促進費)
(d) 画期的 WCS 用稲「たちすずか」の特性を活かした微細断収穫調製・給与体系の開発実証	機械作業・情報研究グループ	農食研究推進事業
b 牧草等の自給飼料の特性に基づく草地管理技術の開発		
(a) 野草冬期放牧地の植生動態と牧養力・放牧適性の解明	黒毛和種放牧飼料研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) LCA を用いた肉用種繁殖牛の放牧新技術に関する環境影響評価	黒毛和種放牧飼料研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) 放牧用草種の生育特性解明と造成技術の開発	黒毛和種放牧飼料研究グループ	運営費交付金(一般)
(d) 資源循環型および自給飼料多給型肉用牛生産システムの LCA	黒毛和種放牧飼料研究グループ	科研費
(e) 黒毛和種繁殖雌牛の MPT を活用した放牧地調査	黒毛和種放牧飼料研究グループ	運営費交付金 (所内支援制度)
(f) 阿蘇農耕景観の生態系サービス — その生成基盤・経済的評価・支援プログラムの形成 —	黒毛和種放牧飼料研究グループ	科研費
c 肉用繁殖牛の栄養動態・繁殖性に基づく飼養管理技術の開発		
(a) 妊娠後期からの栄養状態等が分娩後の繁殖性に及ぼす影響の解明	黒毛和種放牧飼料研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 黒毛和種繁殖雌牛の子育て能力と CD38 遺伝子変異との関連性解析	黒毛和種放牧飼料研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) 「たちすずか」 WCS の肉用繁殖牛に対する給与の現地実証試験／積雪地域での「たちすずか」 WCS 生産の現地実証試験	黒毛和種放牧飼料研究グループ	運営費交付金 (所内支援制度)
d 自給飼料資源を活用した牛肉の評価・生産技術の開発		
(a) 耕作放棄地を活用した黒毛和種経産牛の「放牧仕上げ熟ビーフ」の開発	黒毛和種放牧飼料研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 自給粗飼料を活用した黒毛和種去勢牛の肥育技術の開発	黒毛和種放牧飼料研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) 注射だけで簡単に LH 分泌を活発にする持続型キスペプチン剤の開発と臨床応用	黒毛和種放牧飼料研究グループ	科研費
(d) 前作の違いが「たちすずか」の生産性と品質に及ぼす影響	黒毛和種放牧飼料研究グループ	運営費交付金 (所内支援制度)
(e) 肉用牛における暑熱期の栄養素配分と筋肉性状の関連解明に基づく飼養管理技術の開発	黒毛和種放牧飼料研究グループ	気候変動
(f) 肥育牛の産肉形質を反映する遺伝子の解明とこれらを活用した肉用牛肥育技術の開発	黒毛和種放牧飼料研究グループ	科研費

IV 平成 25 年度 研究予算課題一覧

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
(h) 低コストな高軒高ハウスと自動灌水装置等による夏秋トマト低段密植2作採り	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(i) 中山間向けの新たな夏秋トマト生産技術の提案	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金 (現地実証等促進費)
(j) 狭隘・不整形な立地や傾斜地に適応する耐候性ハウスの寒冷地における実証研究	傾斜地野菜生産研究グループ	地域再生
(k) 蓄熱・高断熱資材の実用化による暖房コスト低減	傾斜地野菜生産研究グループ	地域再生
(l) 各種野菜類の生育に対するカルシウムイオン水の効果の検証	傾斜地野菜生産研究グループ	受託研究
(m) トマト低段密植栽培における肥効調節型肥料を利用した簡易肥培管理技術の開発	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金 (所内支援制度)
(n) 中小規模園芸ハウスを対象とした複合エコ環境制御技術の確立	園芸経営研究グループ	農食研究推進事業
イ 分子生物学的手法による新形質花きの創出		
a 遺伝子組換えによる花色・香気・花形等重要形質の改変技術の開発		
(a) オーキシン生合成経路と阻害剤作用の解析	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般) イノベーション創出
(2) 果樹・茶の持続的高品質安定生産技術の開発		
ア 高商品性ニホンナシ・クリ及び核果類の品種育成と省力生産技術の開発		
a ニホンナシ・モモにおける省力・低コスト生産技術の開発		
(a) クリ新品種「ぼろたん」の産地拡大の阻害要因である凍害発生の抑制技術の開発	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金(一般) 農食研究推進事業
イ カンキツのブランド化支援のための栽培情報の高度利用生産技術と園地整備技術の開発		
a 軽労化と高品質果実生産を可能とする園地整備技術と運搬作業体系の開発		
(a) 作業道整備のための設計支援システムの開発	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) モノレールの高機能化技術の開発	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) 傾斜地カンキツ園の作業道整備技術の開発	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(d) カンキツ園のかん水のための効率的な水源確保技術の開発	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(e) 園地整備が土砂動態に及ぼす影響の予測手法の確立	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(f) 水・土地資源の利用効率最適化のための園地管理技術の開発	カンキツ生産研究グループ	NEDO
b 栽培・生体情報に基づいた高品質カンキツ生産技術の開発		
(a) 簡易土壌水分計によるカンキツ園の土壌水分状態予測技術の開発	水田作研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 樹の水分状態に基づいたかん水管理技術の開発	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) 傾斜地カンキツ園の精密栽培情報評価システムの開発とその新品種導入への利用技術の開発	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(d) 数値気象モデルによる柑橘団地の局所蒸発散量推定手法の開発	カンキツ生産研究グループ	科研費
(e) 簡易土壌水分計と水分移動シミュレーションに基づくかん水管理による高品質カンキツ生産の現地実証	水田作研究グループ	運営費交付金 (現地実証等促進費)
(f) 傾斜カンキツ園における精密メッシュ気象情報の開発と利用に関する共同研究	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金 (現地実証等促進費)
c ブランド化支援のための技術の実証と体系化		
(a) 自動点滴かん水施肥技術を用いたカンキツの高品質果実安定生産技術の体系化	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 栽培環境を制御するマルチ資材の活用指針の策定	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金(一般)

IV 平成 25 年度 研究予算課題一覧

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
(c) 中晩生カンキツ生産における新技術導入の経営的評価	園芸経営研究グループ	運営費交付金(一般)
(d) 高品質果実生産とブランド化を推進するためのカンキツ産地モデルの策定	園芸経営研究グループ	運営費交付金(一般)
(e) スマートリーン農業アーキテクチャの開発と農業生産支援サービス事業の世界展開	カンキツ生産研究グループ	NEDO
(f) カンキツ生産技術フォーラムの開催	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金 (現地実証等促進費)
(g) マルドリ方式の高度利用により高品質果実生産を可能にする多機能マルチシートの開発	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金 (所内支援制度)
5 地域特性に応じた環境保全型農業生産システムの確立		
(1) 土壌生産力の総合的管理による持続的生産技術の開発		
ア 環境負荷物質の広域動態モデル策定と生産技術の環境負荷評価法の開発		
a 土地利用に基づく河川水質予測モデルの広域・汎用化		
(a) 土地利用に基づく河川水質予測モデルの広域・汎用化	農地・水環境研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 地球温暖化の抑制と水質保全に資する地域資源活用型農地管理技術の実証と導入促進(地理情報等の活用による水系への負荷量推定法の改良)	農地・水環境研究グループ	農食研究推進事業
(c) 渇水リスク農業地域における持続可能な流域地下水ハイブリット再利用システムの構築	広島大学 岡山大学 農地・水環境研究グループ	科研費
b 水質浄化・環境負荷低減技術の開発と実証		
(a) 水質浄化・環境負荷低減技術の開発と実証	農地・水環境研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) イチジク栽培に対する日射制御型拍動自動灌水装置の導入効果の現地実証試験	農地・水環境研究グループ	運営費交付金 (現地実証等促進費)
(c) 地球温暖化の抑制と水質保全に資する地域資源活用型農地管理技術の実証と導入促進(中山間農業地帯における窒素・リン流出負荷低減技術の実証と改良)	農地・水環境研究グループ (独)北海道立総合研究機構	農食研究推進事業
(d) 低コスト養液土耕装置を利用した露地野菜における土壌蓄積リン利用技術の開発と減肥の実証	北海道 秋田県 愛知県 岡山大学 農地・水環境研究グループ	気候変動
(e) 拍動かん水による果樹の省力的栽培技術の開発	農地・水環境研究グループ 島根県	農食研究推進事業
c 水質浄化・環境負荷低減技術の環境影響評価		
(a) 水質浄化・環境負荷低減技術の環境影響評価	農地・水環境研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 地球温暖化の抑制と水質保全に資する地域資源活用型農地管理技術の実証と導入促進(既存情報を用いた化学肥料と地域資源活用のLCA)	農地・水環境研究グループ	農食研究推進事業
イ 土壌生物機能を核とした土壌生産力評価法の開発		
a 連作等に関わる土壌生物相の特性評価		
(a) ホウレンソウ連作土壌の微生物相の特性評価	生産基盤研究グループ	運営費交付金(一般)
(2) 生物機能等の農業代替技術を組み込んだ環境保全型病害虫・雑草防除技術の開発と体系化		
ア 生物機能等を活用した病害防除技術の開発とその体系化		
a ナス科野菜の青枯病等土壌病害の発生を抑制する合理的な栽培体系の確立と実証		
(a) 抵抗性誘導物質及び資材のナス科野菜の青枯病等に対する防除効果の検討	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)

IV 平成 25 年度 研究予算課題一覧

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
イ 土着天敵等を利用した難防除害虫の安定制御技術の構築		
a 優良天敵の効率的選出法と天敵増強法の開発		
(a) 行動解析等に基づいた捕食性天敵の有用形質の評価	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 有用天敵の薬剤抵抗性検討選抜技術の開発	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) フェロモントラップや色彩粘着板を利用した調査法の検討(2)	病虫害研究グループ	発生予察
(d) 農林生態系における捕食者-捕食者多種系の分子同定システムの開発と実証	病虫害研究グループ	科研費
(3) 環境保全型農業及び有機農業の生産システムの確立		
ア 地域条件に対応した環境保全型生産システムの確立		
(ア) 土壌病虫害診断と耕種的防除技術開発による野菜の環境保全型生産システムの構築		
a メタゲノム解析等を用いた土壌病虫害被害の予測・診断技術の開発		
(a) DNA 解析等を用いた土壌病虫害発生リスク評価法の開発	生産基盤研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) アブラナ科野菜根こぶ病に関する土壌診断技術の開発	生産基盤研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) ホウレンソウ萎凋病等、土壌伝染性病害の発病要因の解明	生産基盤研究グループ	運営費交付金(一般)
(d) 土壌の生物性、理化学性に基づく土壌病害発生リスクの予測・診断技術の開発	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)
(e) レタスビッグベイン病の土壌診断技術の開発	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)
(f) RIPA 法による植物ウイルス病診断の利用拡大	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)
(g) レタスビッグベイン病に付随する根えそ症状の原因解明	病虫害研究グループ	運営費交付金 (所内支援制度)
(h) アブラナ科野菜根こぶ病の総合的管理技術の開発	生産基盤研究グループ	気候変動
(i) 土壌微生物の均等度評価手法の開発	病虫害研究グループ	科研費
(j) 次世代型土壌病害診断・対策技術の開発	生産基盤研究グループ	農食研究推進事業
(k) ニンジンの主要土壌病害微生物の定量検出技術の開発	病虫害研究グループ	運営費交付金 (所内支援制度)
(l) ジーンバンク事業/微生物遺伝資源部門(収集・増殖・特性)	病虫害研究グループ	ジーンバンク
b 生育制御と病虫害防除に有効な光質環境の解明と照明技術の開発		
(a) 光質制御被覆材を用いた光の RGB 比制御による葉菜類の生育促進	野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) イチゴ花成促進に有効な青色 LED 照射条件の特定	野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) 遮光資材等を用いたハウス内環境制御によるホウレンソウの周年生産効率向上技術の開発	野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般) 資金提供型共同研究
(d) 新規赤外線遮断資材が夏季ホウレンソウの生育に及ぼす影響	野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般・ 所内支援制度)
(e) 密度は高く、収穫は長く一中空構造栽培槽で実現する「勝てる」イチゴ	野菜生産研究グループ	農食研究推進事業
(f) 光質制御被覆材を用いた光の RGB 比制御による葉菜類の生育促進	野菜生産研究グループ	光応答
c 露地や非閉鎖環境の施設での野菜栽培に活用できる土着天敵利用技術の開発		
(a) 景観植物「スカエボラ」を用いた植生管理技術の開発	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) DNA による捕食歴解析からの捕食性土着天敵の評価	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) 露地果菜類における飛ばないナミテントウ利用法の開発	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)
(d) 土着天敵タバコカスミカメの持続的密度管理によるウイルス媒介虫防除技術の開発・実証	病虫害研究グループ	農食研究推進事業
d 耕種的手法を中心とした病虫害低減・高品位生産技術の開発		

IV 平成 25 年度 研究予算課題一覧

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
(a) カラシナを利用した夏作ホウレンソウにおける萎凋病防除効果の検証	生産基盤研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) アブラナ科野菜根こぶ病の制御技術の開発	生産基盤研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) 生物的土壌消毒と持続的土壌管理による土壌病害防除技術の開発	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)
(d) 還元消毒時の土壌環境変化と消毒効果の関係の解明	農地・水環境研究グループ	運営費交付金(一般)
(e) トマト黄化葉巻病の生物資材等利用による防除	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)
(f) レタスビッグベイン病の被害低減効果の検証	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)
(g) 既存の自然換気型温室に利用可能な簡易設置型パッドアンドファン冷房の開発	野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般・所内支援制度)
(h) トマト黄化葉巻ウイルス弱毒株の塩基配列の解析	病虫害研究グループ	運営費交付金(所内支援制度)
(i) 人工気象室内及び圃場における有用微生物の接種試験	病虫害研究グループ	農食研究推進事業
e 地域重要野菜を対象とした技術体系の構築と現地実証		
(a) ホウレンソウの環境保全的高品質・安定生産体系の構築(栽培)	野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) ホウレンソウの環境保全的高品質・安定生産体系の構築(病害)	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) ホウレンソウにおける害虫防除体系の構築	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)
(d) 生物的土壌燻蒸を活用したホウレンソウ有機栽培技術の体系化と経営評価	野菜生産研究グループ	気候変動
(e) ジーンバンク事業/微生物遺伝資源部門(窓口・収集・特性)	病虫害研究グループ	ジーンバンク
イ 有機農業の成立条件の科学的解明と栽培技術の体系化		
a 有機畑圃場等における病害虫発生抑制および物質循環機構の解明と輪作モデル体系の構築		
(a) カラシナ、エンバク等の効果的鋤き込み方法の検討と夏作ホウレンソウにおける防除効果の検証	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 生物的土壌燻蒸を活用したホウレンソウ有機栽培技術の体系化と経営評価	病虫害研究グループ	気候変動
6 ITやロボット技術等の革新的技術の導入による高度生産・流通管理システムの開発		
ア 土地利用型大規模経営に向けた農作業ロボット体系の開発		
a 通信制御の共通化技術の開発		
(a) 作業機用 ECU の開発	機械作業・情報研究グループ	運営費交付金(一般)
イ 多様な農業情報の効率的収集技術及び統合利用技術の開発		
a 生産現場における簡易データ収集・統合管理システムの開発		
(a) 生産現場における簡易データ収集・統合管理システムの開発	機械作業・情報研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 地球温暖化の抑制と水質保全に資する地域資源活用型農地管理技術の実証と導入促進(水質負荷指標とLCAの統合化)	機械作業・情報研究グループ	農食研究推進事業
(c) 農業機械におけるシンプル化と情報化・高度化を両立する通信制御共通化技術の開発	機械作業・情報研究グループ	農食研究推進事業
(d) 関東地方の過去130年間の土地利用・景観変遷データベースの構築と公開	機械作業・情報研究グループ	科研費
7 食品の安全性向上及び消費者の信頼確保のための技術の開発		
ア かび毒産生病害からの食品安全性確保技術の開発		
a 栽培体系のリスク評価、追加防除時期の解明等の生産工程管理技術の強化・拡充		
(a) 開花期・葯殻抽出期予測モデルの開発と検証	栽培管理研究グループ	運営費交付金(一般)

II 地球規模の課題に対応した研究開発

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
1 地球温暖化に対応した農業技術の開発		
ア 土地利用型作物の気候変動対策技術と栽培管理支援システムの開発		
(ア) 気候変動下における水稲の高温障害対策技術の開発		
a 作物モデルに連動する群落微気象評価手法の開発		
(a) 平年差距離重み付け手法の改良	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 酒米の酒造適性に及ぼす高温障害を抑制する最適作期決定システムと水管理技術の開発	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金(一般) 農食研究推進事業
b 高温登熟障害の対策技術の開発		
(a) 高温登熟条件下での胴割れ米発生に関与する生理生態要因の解明と耐性発現における品種間差の評価	栽培管理研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 温暖地における高品質米栽培法の検定	栽培管理研究グループ	運営費交付金(一般)
c 気候変動下における地域気象特性を考慮した安定多収栽培技術の開発		
(a) 水稲多収栽培における籾数決定要因の解明	栽培管理研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) インド型多収品種の登熟特性に関する温度反応性の評価	栽培管理研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) 温暖化環境における水稲生産ポテンシャル向上のための形質の特定	栽培管理研究グループ	気候変動

III 新需要創出のための研究開発

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
1 農産物・食品の機能性解明及び機能性に関する信頼性の高い情報の整備・活用のための研究開発		
ア 健康機能性に関する成分分析法及び評価法の開発と標準化		
a 農産物・食品の機能性成分含量および機能性・安全性評価データベースの開発		
(a) 麦類に関する抗酸化能の評価	食品機能性研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 新規大麦機能性成分の精製及び解析による同定	食品機能性研究グループ	運営費交付金 (所内支援制度)
(c) 主要大麦・小麦品種に含まれる食物繊維等品質成分の分析及びデータベース化	食品機能性研究グループ	機能性
イ 代謝調節作用に関する健康機能性解明と有効利用技術の開発		
a 高機能性農産物の特性解明と評価・利用技術の開発		
(a) 農作物成分による脂質代謝の促進作用の解明と利用技術の開発	食品機能性研究グループ	運営費交付金(一般)
b かんきつ・りんご等果実の有効性解明と評価技術の開発		
(a) かんきつ成分による脂質代謝の促進作用の解明と利用技術の開発	食品機能性研究グループ	運営費交付金(一般)
ウ 生体防御作用に関する健康機能性解明と有効利用技術の開発		
a 生体防御に関わる健康機能性評価技術の開発と農産物における特性解明		

IV 平成 25 年度 研究予算課題一覧

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
(a) 加齢に伴う生体防御機能の低下を抑止する農作物成分の作用の解明と利用技術の開発	食品機能性研究グループ	運営費交付金 (一般)
(b) 食品成分の機能性発現に関与する細胞内標的因子の同定	食品機能性研究グループ	運営費交付金 (所内支援制度)
(c) スイカ果実の NK 細胞を用いた機能性評価に関する研究	食品機能性研究グループ	受託試験
2 農産物・食品の高度な加工・流通プロセスの開発		
ア 消費者ニーズの高度分析手法及び農業と食品産業の連携関係の評価・構築方法の開発		
a 高付加価値商品開発のための農産物購買・消費行動データ収集・分析システムの開発		
(a) 農産物直売所における切り花の需要量予測システムの開発	農業経営研究グループ	運営費交付金 (一般)
(b) 農産物消費行動研究への「解釈レベル理論」の適用可能性に関する理論的・実証的研究	農業経営研究グループ	科研費

IV 地域資源活用のための研究開発

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
1 農業生産のための基盤的地域資源の保全管理技術の開発		
(1) 野生鳥獣モニタリングシステム及び住民による鳥獣被害防止技術の確立		
a 省力的で効果の高い侵入防止技術の開発		
(a) 野生獣の登坂による農地侵入防止技術の開発	鳥獣害対策研究グループ	運営費交付金 (一般・ 所内支援制度)
(b) 電気刺激を用いたニホンザルの原木シイタケ被害防止技術の開発	鳥獣害対策研究グループ	運営費交付金 (一般・ 所内支援制度)
b 地域で実践可能な効果的対策プログラムの確立		
(a) 持続的な農業を展開するための鳥獣害防止技術の開発 (環境管理等にもとづく獣害軽減技術の開発)	鳥獣害対策研究グループ	実用技術
(b) 持続的な農業を展開するための鳥獣害防止技術の開発 (農地周辺の環境管理による獣害軽減技術の開発)	鳥獣害対策研究グループ	実用技術

V 研究情報活動

1. 主な研究成果

研究成果情報名	提出研究領域等
<p>【普及成果情報】</p> <p>高温登熟性に優れ、良食味で多収の水稲品種「中国 201 号」</p> <p>飛翔能力を欠くナミテントウ製剤の利用技術マニュアル</p> <p>WCS 用稲をトラックでバラ積み輸送し飼料基地で調製する低コスト作業体系</p> <p>リアルタイムで進捗把握が可能なスマートフォン用収穫作業記録作成アプリ</p> <p>マルドリ方式等の水源を確保するための太陽光発電を用いた揚水システム</p>	<p>水田作研究領域</p> <p>水田作研究領域</p> <p>畜産草地・鳥獣害研究領域 営農・環境研究領域</p> <p>営農・環境研究領域</p> <p>傾斜地園芸研究領域</p>
<p>【研究成果情報】</p> <p>深水栽培は水稲の茎のソース機能を増加させ白未熟粒発生を抑制する</p> <p>水稲胚乳の成熟におけるプログラム細胞死の時間的・空間的進行過程</p> <p>地下水水位制御システムを用いた梅雨明け後に播種する大豆の苗立ち向上技術</p> <p>温風導入型オープントップチャンバーによる圃場高温処理法</p> <p>温暖地向けリポキシゲナーゼ全欠のだいず新品種候補系統「四国 10 号」</p> <p>育苗期に発生する水稲種子伝染性病害の鉄コーティングによる防除効果</p> <p>甘草抽出物のキュウリべと病に対する発病抑制機作</p> <p>植物バイオマスを用いた土壌還元消毒の効果と嫌気性細菌の動態</p>	<p>水田作研究領域</p> <p>水田作研究領域</p> <p>水田作研究領域</p> <p>水田作研究領域</p> <p>作物機能開発研究領域</p> <p>水田作研究領域</p> <p>水田作研究領域</p> <p>水田作研究領域 環境保全型野菜研究領域 営農・環境研究領域</p>
<p>土地利用面積比率に基づく流域水質予測モデル</p> <p>ハクビシンは狭い隙間から侵入できる</p> <p>イノシシの採食被害は草地更新をしていない牧草地でも発生する</p> <p>施設園芸用の循環扇性能と数値流体力学による循環扇気流の予測方法</p> <p>簡易設置型パッドアンドファンによるハウス内暑熱環境改善</p> <p>中山間地域の農産物直売所が売上向上を図るビジネスモデル「出張直売」</p> <p>広域連携周年放牧を支援する技術マニュアル</p> <p>飼養条件が異なる肉用肥育牛の筋肉内遺伝子発現のモニタリング</p>	<p>営農・環境研究領域</p> <p>畜産草地・鳥獣害研究領域</p> <p>畜産草地・鳥獣害研究領域</p> <p>傾斜地園芸研究領域</p> <p>傾斜地園芸研究領域</p> <p>営農・環境研究領域</p> <p>畜産草地・鳥獣害研究領域</p> <p>畜産草地・鳥獣害研究領域</p>

【分類】**普及成果情報**

行政・普及機関、公立試験研究機関、生産者、民間企業にとって直接的に利用可能で、普及が大きい期待できる成果情報。

研究成果情報

行政・普及機関、公立試験研究機関、生産者、民間企業にとって直接的に利用可能なものでないが、その内容が非常に有用な基礎・基盤情報になりうるもの、または普及させるためには改良が必要だが将来的に非常に有望な成果情報。

V 研究情報活動

2. 研究成果の発表

1) 著書

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
1	図説 近畿中国四国地域農業 2012年版	友國宏一, 松森堅治, 黒瀬義孝, 伏見昭秀, 長田健二, 宮川久義, 三浦一芸, 篠田満, 堤道生	2013.11	近畿中国四国農業研究センター	
2	植物工場 現状と課題	山本晴彦(山口大学農学部), 吉越恆	2013.11	農林統計出版	

V 研究情報活動

2) 原著論文等

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
1	転作田における麦・大豆2毛作の成立条件に関する考察	坂本英美 /CA, 渡部博明, 千田雅之	2013.9	農林業問題研究	49(2),323-328
2	Spatial and temporal progress of programmed cell death in the developing starchy endosperm of rice.	小林英和, 池田達哉, 長田健二	2013.5	Planta	237(5),1393-1400
3	農産物直売所による「出張直売」活動の実態と意義 - 中国地方の中山間地域に立地する直売所の事例分析 -	室岡順一	2013.6	農林業問題研究	49(1),167-171
4	鉄コーティング種子調整機で製造された鉄コーティング種子の種子伝染性病害防除効果	宮川久義, 山内稔 (全農 中四国事業所), 井上博喜	2013.6	関西病虫害研究会報	55,23-30
5	Anthraxnose of Madagascar periwinkle caused by species belonging to the Colletotrichum gloeosporioides species complex	富岡啓介, 西川盾士 (サカタのタネ), 森脇丈治 (富山総技セ), 佐藤豊三 (生物研)	2013.9	Journal of General Plant Pathology	79 (5), 374-377
6	転換畑ダイズ不耕起栽培における地下水位制御システムを利用した梅雨期及び梅雨明け後播種栽培	竹田博之, 佐々木良治	2013.7	日本作物学会紀事	82(3), 233-241
7	北東北地域の飼料イネ栽培におけるタイヌビエの許容残存量	橘雅明, 中山壮一, 河本英憲, 押部明徳, 渡邊寛明	2013.12	雑草研究	58,177-182
8	布団資材と水蓄熱体の利用がパイプハウスの暖房負荷に及ぼす影響	川嶋浩樹, 古市崇雄 (香川農試), 宮内樹代史 (高知大), 林真紀夫 (東海大), 直木武之介 (佐藤産業 (株)), 長崎裕司	2013.6	農業施設	44(2),73-82
9	ポット栽培コムギ消費水量の季節推移と瀬戸内干拓地コムギ圃場における灌漑の要否	石川直幸 /CA, 石岡巖, 窪田潤, 竹田博之	2013.7	日本作物学会紀事	82(3),215-222
10	Effects of the density of root-lesion nematode (Pratylenchus penetrans), soil chemical and microbial properties on the damage to Japanese radish.	佐藤恵利華 /CA, Ichi OKUMURA (神奈川県農業技術センター), Toshihiro KOKATSU (神奈川県農業技術センター), Koki TOYOTA (東京農工大学)	2013	Nematology	15,931-938
11	水路における忌避材によるスクミリンゴガイの産卵抑制	田坂幸平 /CA, 和田節, 遊佐陽一 (奈良女子大学), 吉田和弘, 安東敏弘 (電気化学工業株式会社), 土屋史紀, 深見公一郎, 佐々木豊	2013.12	農作業研究	48(4),133-141
12	Evaluation Indicator for Greenhouse Air Circulator Performances	畔柳武司	2013.10	Engineering in Agriculture, Environment and Food	6(4),197-202
13	Use of Air Circulation to Reduce Wet Leaves under High Humidity Conditions	畔柳武司, 吉越恆, 木下貴文, 川嶋浩樹	2013.12	Environment Control in Biology	51(4),215-220
14	農村畦畔の法面における二重ネット工法によるシバ在来品種「朝駆」植栽の検討	伏見昭秀, 橘雅明, 長沼和夫 (ゾイシアンジャパン株式会社)	2014.3	芝草研究	42(2),130-136
15	中国・四国地方におけるダイズ原種ツルマメを寄主植物とする昆虫相	菊地淳志	2013.5	関西病虫害研究会報	55,129-133
16	Identification and distribution of Puroindoline b-2 variant gene homologs in Hordeum.	寺沢洋平, 高田兼則, 穴井豊昭 (佐賀大学), 池田達哉 /CA	2013.9	Genetica	141,359-368
17	水稲深水栽培は茎のソース機能を高めることにより2次枝梗が増加しても白未熟粒の発生を抑える	千葉雅大, 松村修, 渡邊肇 (新潟大学大学院 自然科学研究科), 寺尾富夫, 高橋能彦 (新潟大学大学院 自然科学研究科)	2013.7	日本作物学会紀事	83(2),223-332
18	土地利用面積比率に基づく流域水質予測モデルの開発	望月秀俊, 高橋英博, 吉川省子 (農環研)	2013.10	人間と環境	39(3),2-8
19	ダイズ作付け期間中の深さ別土壌水分量の変化による地下水位制御システム (FOEAS) の機能評価	望月秀俊, 竹田博之, 松森堅治, 奥野林太郎, 亀井雅浩	2013.8	農業農村工学会論文集	286,51-57

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
20	多様な流通チャネルを活用した有機農産物等の販売実態と課題	尾島一史, 佐藤豊信 (岡山大学), 駄田井久 (岡山大学)	2013.9	農林業問題研究	49(2),173-178
21	Analysis of normalized daily change of air temperature using an S-shaped function to detect fog occurrence.	佐藤恵一, 黒瀬義孝	2013.9	農業気象	69(3),105-113
22	エタノール抽出およびメタリン酸抽出による野菜類の抗酸化活性測定値の比較	福永亜矢子, 須賀有子, 小森冨香 (石原産業株式会社 中央研究所), 西川万貴, 池田順一, 堀兼明	2013.10	日本土壌肥科学雑誌	84(5),381-385
23	北東北地域の飼料イネ栽培における深水と除草剤による雑草防除の検討	橘雅明	2014.3	雑草研究	59,25-30
24	Efficiency of carbon dioxide enrichment in an unventilated greenhouse	畔柳武司 /CA, 安場健一郎 (岡山大学), 東出忠桐, 岩崎泰永, 高市益行	2014.3	Biosystems Engineering	119,58-68
25	消費者の切り花の購買実態と選好基準	林寛子 (和歌山農試), 神谷桂 (和歌山農大), 吉田晋一, 平岡美紀 (奈良農林部), 浅野峻介 (奈良農総セ), 藤根輝枝 (奈良農総セ)	2013.9	農林業問題研究	49(2),50-55
26	Novel strain of Spiroplasma found in flower bugs of the genus Orius (Hemiptera: Anthocoridae): transovarial transmission, coexistence with Wolbachia and varied population density.	渡部真也 (生物研), 行弘富美子 (生物研), 前田太郎 (生物研), 三浦一芸, 陰山大輔 (生物研)		Microbial Ecology	
27	ナミテントウ飛翔不能系統の幼虫と成虫に対する各種薬剤の影響	安達鉄矢 (大阪府農研), 柴尾学 (大阪府農研), 田中寛 (大阪府農研), 世古智一, 三浦一芸	2013.8	日本応用動物昆虫学会誌	57,189-191
28	Suppression of spinach wilt disease by biological soil disinfestation incorporated with Brassica juncea plants in association with changes in soil bacterial communities.	Subrata Mowlick (山形大学), 安川人央 (奈良県農業総合センター), 井上興 (山口県農林総合技術センター), 竹原利明, 加来伸夫 (山形大学), 上木勝司 (山形大学), 上木厚子 (山形大学)	2013.12	Crop Protection	54,185-193
29	Aspen pectate lyase PtxtPL1-27 mobilizes matrix polysaccharides from woody tissues and improves saccharification yield	Ajaya K Biswal(SLU Sweden), 添野和雄, Madhavi L Gandla(Umea University), Peter Immerzeel(SLU Sweden), Sivakumar Pattathil(Univ. of Georgia), Jessica Lucenius(Univ. of Helsinki), Ritva Serimaa(Univ. of Helsinki), Michael G Hahn(Univ. of Georgia), Thomas Moritz(SLU Sweden), Leif J Jonsson(Umea University), Maria I-Nordstrom(SLU Sweden), Ewa J Mellerowicz(SLU Sweden)	2014.1	Biotechnology for Biofuels	7(11), (22 January 2014)
30	2012年5月6日に茨城県つくば市で発生した竜巻災害	山本晴彦 (山口大学農学部), 山崎俊成 (山口大学農学部), 山本実則 (山口大学農学部), 小林北斗 (山口大学農学部), 吉越恆, 岩谷潔 (山口大学農学部), 園山芳充 (山口大学農学部)	2013.5	自然災害科学	32,45-59
31	Analysis of a putative auxin biosynthesis inhibitor, Indole-3-oxoethylphosphonic Acid, in Arabidopsis	Yosuke Ishida (横浜市大・木原生物研), 添野和雄, Tadao Asami (東大院・農生科・応生化), Ken-ichiro Hayashi (岡山理大・生物化学), Shouichi Nakamura (岡山理大・生物化学), Masashi Suzuki (横浜市大・木原生物研), Ayako Nakamura (横浜市大・木原生物研), Yukihisa Shimada (横浜市大・木原生物研)	2014.1	Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry	78(1), 未定
32	瀬戸内地域のダイズ栽培における播種前の地下水位処理制御による雑草制御の検討	伏見昭秀, 大谷一郎, 橘雅明	2013.9	近畿中国四国農業研究	23,3-8

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
33	Validation of CFD Simulation of Airflow From an Air Circulator Above Crops	畔柳武司	2013.10	Acta Horticulturae	1008,213-220
34	INFLUENCE OF HOUSING DENSITY AND GRAZING ON BLOOD COMPONENTS AND EXPRESSION OF HEAT SHOCK PROTEIN IN BEEF CATTLE	柴田昌宏, 松本和典, 曳野泰子, 山本直幸	2013.8	59th International Congress of Meat Science and Technology	*S4-8
35	Peptides produced by autolysis reactions from wheat bran have therapeutic effects in nonalcoholic steatohepatitis.	Takato Ueno(朝倉医師会病院), 野方洋一, Anna Nakamura(久留米大学医学部), Toru Nakamura(久留米大学医学部), Hironori Koga(朝倉医師会病院), Takuji Torimura(久留米大学医学部), Kensei Nagata(久留米大学医学部), Michio Sata(久留米大学医学部)	2013.4	Journal of Hepatology	58(Suppl.), S526-S527
36	Changes and recovery of soil bacterial communities influenced by biological soil disinfection as compared with chloropicrin-treatment.	Subrata Mowlick(山形大学), 井上興(山口県農林総合技術センター), 竹原利明, 加来伸夫(山形大学), 上木勝司(山形大学), 上木厚子(山形大学)	2013.8	AMB Express	2013, 3:46
37	Origin of Cultivated Citrus (Rutaceae) Documented by the Contents of Internal Transcribed Spacer Sequences (ITS) in Nuclear Ribosomal DNA	山路弘樹(ツムラ(株)), 國賀武, 根角博久, 近藤健児(ツムラ(株)), 吉田俊雄(旧果樹研(退職)), 橋本和則(ツムラ(株)), 武田修己(ツムラ(株))	2013.8	植物研究雑誌	88(4),222-238
38	シートマルチ栽培下のカンキツ'はれひめ'における樹勢回復と果実品質に及ぼす点滴かん水同時施肥の効果	三堂博昭/CA(愛媛県農林水産研究所果樹研究センター), 根角博久, 藤原文孝(愛媛県農林水産研究所果樹研究センター), 安部伸一郎(愛媛県農林水産研究所果樹研究センター)	2013.9	近畿中国四国農業研究	23,41-46
39	耕作放棄地の放牧利用による農地活用に向けた研究の取り組み	堤道生	2013.10	日本草地学会誌	59,221-225
40	リアルタイム定量 PCR による土壌微生物の特異的・定量的検出	佐藤恵利華, 豊田剛己(東京農工大学)	2013.4	土と微生物	67,26-31
41	天敵の育種: 飛翔能力を欠くテントウムシ系統の育成と品質管理	世古智一, 三浦一芸	2014.1	日本応用動物昆虫学会誌	57,219-234
42	Classification of recent studies by method type for surface air temperature map development and estimation of daily temperature using a radiative cooling scale	植山秀紀	2013.12	農業気象	69(3),215-227
43	日本のカルチャーコレクションとその業務	永井利郎(生物研), 一木(植原) 珠樹(生物研), 澤田宏之(生物研), 佐藤豊三(生物研), 青木孝之(生物研), 山崎福容(生物研), 竹谷勝(生物研), 埋橋志穂美(理研), 廣岡裕史(Agr. Food Canada), 富岡啓介	2013.6	日本食品科学工学会誌	60(6), 257-265
44	Development of a Drip Fertigation System for Protected Horticulture on Sloping Land	川嶋浩樹	2013.4	Japan Agricultural Research Quarterly	47(2),171-174
45	ヤーコンの新品種「アンデスの乙女」の育成	杉浦誠, 中西建夫(元近畿中国四国農業研究センター), 藤野雅丈(元近畿中国四国農業研究センター), 石川浩一	2014.3	近畿中国四国農業研究センター研究報告	13,59-69
46	Development of a Table-top Cultivation System for Robot Strawberry Harvesting	長崎裕司, 林茂彦, 中元陽一, 川嶋浩樹, 河野靖(愛媛県農林水産研究所)	2013.4	JARQ	27(2),165-169

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
47	硝子率が低く精麦品質が優れる早生・多収の裸麦新品種「ハルヒメボシ」の育成	高橋飛鳥, 吉岡藤治, 柳澤貴司, 長嶺敬, 高山敏之, 土井芳憲 (元 近畿中国四国農業研究センター), 松中仁, 藤田雅也, 土門英司 (農業資源生物研究所), 杉浦誠, 伊藤昌光 (元 四国農業試験場)	2014.2	近畿中国四国農業研究センター研究報告	13,107-126
48	甘草抽出物のキュウリベと病および炭疽病に対する発病抑制機作に関する研究	宮川久義, 大野裕和 (丸善製菓株式会社)	2014.3	近畿中国四国農業研究センター研究報告	13,71-106
49	放牧地の牧養力予測のための支援プログラム	堤道生, 佐々木寛幸	2013.10	畜産草地研究所平 25-3 資料	*43
50	小麦赤かび病を適期に防除するための開花期予測システム—北海道での応用の可能性—	黒瀬義孝	2013.12	北海道の農業気象	65,4-11
51	高保温性能で大幅な省エネを可能にする次世代型パイプハウスの開発	川嶋浩樹	2014.1	農業および園芸	89(1),129-136
52	中国地区刊行応用動物昆虫関係目録(2012) (広島県分)	菊地淳志	2013.11	日本応用動物昆虫学会中国支部会報	55,44-46
53	温室の二酸化炭素施用の歴史と効率的施用に向けた工学的なアプローチ	畔柳武司	2014.1	農業および園芸 (養賢堂)	89(1),143-148
54	島根県における野生大豆 (ツルマメ) の探索・収集	猿田正恭, 高田吉丈	2014.2	植物遺伝資源探索導入調査報告書	29,63-73
55	大規模経営体の有無と離農率・耕作放棄地率—近畿中国四国地方を対象として—	渡部博明	2014.1	農業経営通信	No.258,2-3
56	低コスト・高強度ハウスの施工技術とハウス内環境改善技術の取り組み	長崎裕司	2014.1	農業および園芸	89(1),118-122
57	レタスビッグベイン病の媒介菌オルピディウム菌の休眠胞子を認識するポリクローナル抗体の作製	野見山孝司	2013.7	植物防疫	67(7),379-382
58	平成 24 年度四国研究センター一般公開におけるウンシュウミカンの食味アンケートに関する分析結果報告	齋藤仁蔵, 星典宏, 棚田光雄, 根角博久	2014.3	近畿中国四国農業研究センター研究資料	11,1-12
59	中晩柑新品種の嗜好性に関する研究—「たまみ」「せとか」「はるみ」「不知火」「せとみ」を対象として—	齋藤仁蔵, 根角博久, 國賀武, 星典宏	2014.3	近畿中国四国農業研究センター研究資料	11,13-86
60	Improvement of methods for assessing insolation conditions in intermediate and mountainous and slope areas.	佐藤恵一	2013.12	広島大学大学院生物圏科学研究科紀要	52,195-196
61	秋吉台およびその周辺地域における明治期および現代の草地分布	太田陽子 (NPO 法人緑と水の連絡会議), 堤道生, 井上雅仁 (島根県立三瓶自然館), 高橋佳孝	2014.3	島根県立三瓶自然館研究報告	12,1-7
62	桑の実の発酵とその成分分析	高澤弘明 (成美大学短期大学部), 井上守正 (兵庫県立工業技術センター), 原田知左子 (兵庫県立工業技術センター), 福永亜矢子, 大町元気 (成美大学短期大学部), 加藤優志 (成美大学短期大学部), 宿南茉佑 (成美大学短期大学部), 杉本由佳 (成美大学短期大学部), 高品佳奈 (成美大学短期大学部)	2014.3	成美大学紀要	42,25-38

V 研究情報活動

3) 学会発表等

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名等	巻(号),頁
1	中山間地域における麦・大豆作の現状と課題ー広島県の集落営農法人を対象としてー	坂本英美	2014.3	2014 年度日本農業経済学会大会個別報告	*,*
2	トマト栽培条件下における布団ハウスの熱環境特性	松田周, 川嶋浩樹, 柴田昇平	2013.8	2013 年度農業施設学会大会講演要旨	*,3-4
3	中山間に適用できる熱流体シミュレーションモデルの試作	松田周, 柴田昇平	2013.10	第 68 回農業農村工学会中国四国支部講演会講演要旨集	*,54-55
4	農産物直売所が取り組む店舗外販売活動の今日的傾向ー岡山県内の直売所へのアンケート調査結果からー	室岡順一	2013.10	第 63 回地域農林経済学会大会個別報告	*,*
5	ススキの導入方法の違いが苗の定着に及ぼす影響	大谷一郎, 高橋佳孝, 堤道生	2013.4	雑草研究	58(別),139
6	ヒガンバナ科の園芸観賞植物 <i>Crinum × powellii</i> Baker に赤斑病を引き起こす <i>Stagonosporopsis</i> sp.	富岡啓介, 埋橋志穂美 (理研), 佐藤豊三 (生物研)	2013.6	日本菌学会第 57 回大会講演要旨集	*, 71
7	ピーマンの実腐病を引き起こす <i>Fusarium incarnatum</i> / <i>F. equiseti</i> 種複合体の一菌種	富岡啓介, 青木孝之 (生物研), 永井利郎 (生物研), 澤田宏之 (生物研), 佐藤豊三 (生物研)	2013.6	日本微生物資源学会誌	29 (1), 53
8	Confirmation of soybean damping-off by <i>Pythium myriotylum</i> Drechsler in Japan	富岡啓介, 竹原利明, 大崎秀樹, 関口博之, 野見山孝司, 景山幸二 (岐阜大)	2013.8	<i>Acta phytopathologica sinica</i>	43 (suppl.), 543-544
9	Fruit rot of sweet pepper (<i>Capsicum annuum</i> L. var. <i>grossum</i> Sendtner) caused by a species of the <i>Fusarium incarnatum</i> / <i>F. equiseti</i> complex	富岡啓介, 青木孝之 (生物研), 永井利郎 (生物研), 澤田宏之 (生物研), 佐藤豊三 (生物研)	2013.8	<i>Acta phytopathologica sinica</i>	43 (suppl.), 544
10	カンキツ経営におけるマルドリ方式の導入状況と普及の展望	齋藤仁蔵	2013.12	日本作物学会四国支部会報	50,104-106
11	高塩類牛ふん堆肥の灰化・炭化・洗浄によるリン酸形態変化の作物生育への影響	石岡徹, 渡邊修一	2013.11	2013 年度日本土壌肥料学会関西支部講演会要旨集	*,29
12	簡易土壌水分計によってカンキツの水ストレスを管理する方法	黒瀬義孝, 大濱秀一 (愛媛県今治支局産地育成室), 根角博久	2013.12	中国・四国の農業気象	26,13-14
13	「草の里山」と生きる 阿蘇草原再生協議会の活動から	高橋佳孝	2014.3	第 61 回日本生態学会大会公開講演会「里山のこれまでとこれから」	550 名
14	Development of multiple rapid immunofilter paper assay to simultaneously detect four major viruses of cucumber	大崎秀樹, 野見山孝司, 関口博之, 富岡啓介, 竹原利明	2013.8	<i>Acta Phytopathologica Sinica</i>	43 (suppl.), 443 Abstract No.P33.003
15	Effect of eggplant rootstocks on inhibiting infection to tomato seedlings with Tomato yellow leaf curl virus	大崎秀樹, 野見山孝司, 関口博之, 富岡啓介, 竹原利明	2013.8	<i>Acta Phytopathologica Sinica</i>	43 (suppl.), 443 Abstract No.P33.002
16	コムギのタンパク質含有率と Glu-A1 及び Glu-D1 座グルテニン遺伝子型がクッキー直径に及ぼす影響	谷中美貴子, 高田兼則, 石川直幸, 船附稚子	2013.9	育種学研究	15 (別 2) 247
17	リアルタイム収穫記録作成ツールの開発	寺元郁博	2013.5	農業情報学会 2013 年度年次大会	*(*)58-59
18	広島県・岡山県における農地の窒素負荷量の評価	高橋英博	2013.11	システム農学会 2013 年度秋季大会講演要旨集	*,19-20
19	農業生産技術の環境影響の経済評価	高橋英博	2013.12	平成 25 年度農研機構シンポジウム地域資源を活用した環境保全型農業生産技術とその多面的環境影響評価	*,71-75
20	日本型日光温室の開発ー水蓄熱による暖房負荷の軽減効果	川嶋浩樹, 古市崇雄 (香川農試), 直木武之介 (佐藤産業 (株)), 宮内樹代史 (高知大), 林真紀夫 (東海大)	2013.8	2013 年度農業施設学会大会講演要旨	*,1-2

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
21	日本型日光温室の開発－蓄熱コンクリートの蓄熱性評価	川嶋浩樹, 佐々木徹 (住友大阪セメント), 小林哲夫 (住友大阪セメント), 前田恵佑 (住友大阪セメント), 澤村篤, 長崎裕司	2013.8	2013 年度農業施設学会大会講演要旨	*,135-136
22	Development of a New Pipe-framed Greenhouse for Saving Energy and Withstanding Strong Wind	川嶋浩樹	2013.10	2013 Shenyang China International symposium on protected horticulture	*,*
23	気温予報値を使った小麦の開花期予測	黒瀬義孝, 野津原昭二 (気象庁), 伊藤明 (気象庁), 中三川浩 (気象庁)	2014.3	日本農業気象学会 2014 年全国大会講演要旨集	*,85
24	四季成り性イチゴ‘なつあかり’への 2 週間ごとの 24 時間日長処理が花房数および側枝数に及ぼす影響	矢野孝喜, 長菅香織, 山崎博子, 稲本勝彦, 山崎浩道, 濱野恵, 本城正憲, 森下昌三	2013.9	園芸学研究	12 (別 2) 395
25	環境保全型野菜生産のための線虫害に対する土壌生物性評価	佐藤恵利華, 豊田剛己 (東京農工大学)	2013.10	土と微生物	67,54-57
26	農村畦畔のシバによる省力管理法の検討	伏見昭秀, 橘雅明	2013.4	雑草研究	58 (別) ,51
27	ライムギ草地におけるイノシシの採食被害への播種時期の影響	上田弘則, 江口祐輔	2013.9	第 29 回日本霊長類学会・日本哺乳類学会 2013 年度合同大会	*,262
28	捕食性天敵ヒメハナカメシ Orius の餌メニュー解析からみえてきたこと	三浦一芸, 安部順一朗, 世古智一	2013.5	昆虫 DNA 研究会	*,*
29	捕食性天敵ヒメハナカメシ Orius の餌メニュー解析	三浦一芸, 安部順一朗, 世古智一	2013.7	第 18 回農林害虫防除研究会講演要旨集	*, 14
30	捕食性天敵ヒメハナカメシ Orius のメタゲノム解析	三浦一芸, 安部順一朗, 世古智一	2013.9	日本昆虫学会第 73 回大会講演要旨集	*, 51
31	Haplodiploidy の deuterotoky についての再考	三浦一芸	2013.9	日本昆虫学会中国支部・日本応用動物昆虫学会中国支部合同大会	*,*
32	Deuterotoky の再考: 単性生殖から両性生殖が分化する?	三浦一芸	2014.3	第 58 回日本応用動物昆虫学会高知大会講演要旨集	*,*
33	試作した紫外線－赤色光変換フィルムがハウレンソウの生育に及ぼす影響とその季節的变化	山崎敬亮, 市村拓野 (三菱樹脂 (株)), 瀨本浩, 村上健二, 吉田祐子, 生駒泰基	2013.9	園芸学会平成 25 年度秋季大会研究発表およびシンポジウム講演要旨	12(別 2),433
34	中空構造栽培槽を利用したイチゴ多段栽培における栽培槽の高低差と栽培期間中の光環境について	山崎敬亮, 内山知二 (大阪環農水総研), 長崎裕司, 村上健二, 吉田祐子, 生駒泰基	2013.9	日本生物環境工学会 2013 年高松大会講演要旨	*,226-227
35	試作した紫外線－赤色光変換フィルムが葉菜類の生育に及ぼす影響	山崎敬亮, 市村拓野 (三菱樹脂 (株)), 瀨本浩, 村上健二, 吉田祐子, 生駒泰基	2014.3	園芸学会平成 26 年度春季大会研究発表およびシンポジウム講演要旨	13(別 1),370
36	簡易型パッドアンドファン装置と浮きかけを用いた局所冷却がハウレンソウの生育に及ぼす影響	村上健二, 生駒泰基, 山崎敬亮, 吉田祐子, 長崎裕司, 嶋津光鑑 (岐阜大応用生物科学部)	2013.9	園芸学会平成 25 年度秋季大会研究発表およびシンポジウム講演要旨	12(別 2),432
37	カラシナ, エンバク, ソルガム鋤き込み・被覆処理における処理方法および処理時期の違いが夏作ハウレンソウの土壌病害軽減効果におよぼす影響	吉田祐子, 須賀有子, 竹原利明, 佐藤恵利華, 山崎敬亮, 村上健二, 生駒泰基	2014.3	園芸学会平成 26 年度春季大会研究発表およびシンポジウム講演要旨	13(別 1),379
38	簡易型パッドアンドファン装置を用いた局所冷却法の改良がハウレンソウの生育に及ぼす影響	村上健二, 山崎敬亮, 吉田祐子, 生駒泰基, 長崎裕司, 嶋津光鑑 (岐阜大応用生物科学部)	2014.3	園芸学会平成 26 年度春季大会研究発表およびシンポジウム講演要旨	13(別 1),367
39	Effect of Net-Covered Windbreak on Leakage Rate of a Greenhouse	畔柳武司, 松田周, 川嶋浩樹, 長崎裕司	2013.10	Greensys2013 Program & Abstract Book	*,133
40	温室を同化箱とした植物群落の CO2 吸収速度の測定と誤差解析	畔柳武司, 安場健一郎 (岡山大学, 異動), 岩崎泰永	2013.9	日本生物環境工学会 2013 年大会講演要旨	*,350-351
41	水稲外穎表面に存在するトライコームの密度および大きさ	小林英和, 千葉雅大, 長田健二	2014.3	日本作物学会紀事	83(別 1),406-407
42	湛水条件における直播水稲種子近傍の土壌微生物相解析の試み	森伸介, 関口博之	2013.6	日本土壌微生物学会講演要旨集	*,39
43	Coleoptile elongation of primed rice seeds under submerged conditions	森伸介, 藤本寛	2013.10	International Society for Plant Anaerobiosis	*,86

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
44	無酸素条件における水稲活性化種子の鞘葉伸長とATP、エタノール含量	森伸介, 藤本寛	2013.9	日本土壌肥科学講演要旨集	59, 91
45	ITを活用する農業支援システムのための精密圃地気象予測システムの開発	植山秀紀, 星典宏, 根角博久	2013.12	中国・四国の農業気象	26, 15-16
46	夏秋トマト養液栽培における根圏の状態を根張り指数の観点から評価する	笠原賢明, 柴田昇平, 渡邊修一, 吉川弘恭	2013.9	日本土壌肥科学会講演要旨集	59, 142
47	DRC(Dose Response Curve)に基づくアブラナ科野菜根こぶ病の発病リスク評価	村上弘治, 西川万貴, 福永亜矢子	2013.9	日本土壌肥科学会講演要旨集	59,51
48	Improvement of wheat quality through introduction of Hordeum species chromosomes in to common wheat	谷中美貴子, 池田達哉, 高田兼則, 寺沢洋平, 武田真(岡山大学), 栗本洋一(日本製粉)	2013.9	The 12th International Wheat Genetics Symposium Program & Abstract Book	*,200
49	圃場整備後のカンキツ園における浮遊土砂の流出特性	向井章恵, 根角博久	2013.10	農業農村工学会中国四国支部講演会	*,64-66
50	製パン性に優れる温暖地向けコムギ新品種「せときらら」の育成	高田兼則, 谷中美貴子, 石川直幸, 池田達哉, 船附稚子	2013.9	育種学研究	15(別2),171
51	小麦粉品質に関係する遺伝子型と小麦品種の育成	高田兼則	2013.9	第40回食品の物性に関するシンポジウム講演要旨集	*,21-24
52	温暖地向けパン用小麦品種「せときらら」の育成について	高田兼則	2013.6	第5回グルテン研究会	*,*
53	加工拡大型カンキツ作経営の事業展開と経営分析—和歌山県有田地域S果樹園の事例—	棚田光雄	2013.10	地域農林経済学会個別報告	*,*
54	調整の簡易化に向けた播種機設定情報の計測	奥野林太郎, 窪田潤, 高橋仁康	2013.9	第72回農業食料工学会年次大会講演要旨集	*,149
55	四季成り性イチゴ'なつあかり'当年苗の花芽分化に及ぼす温度および長日処理の影響	矢野孝喜, 木下貴文, 長菅香織, 山崎博子, 稲本勝彦, 山崎浩道, 濱野恵, 本城正憲, 森下昌三	2014.3	園芸学研究	13(別1), 341
56	培養筋細胞におけるロスマリン酸の脂肪酸代謝促進作用	阿部大吾, 齋藤武, 野方洋一	2014.3	日本農芸化学会2014年度大会要旨集	*,*
57	TAA1およびYUCCAを標的としない新規オーキシン生合成阻害剤	添野和雄, 山崎千秋(横浜市立大学・木原生物学研究所), 喜久里真(横浜市立大学・木原生物学研究所), 成川恵(横浜市立大学・木原生物学研究所), 佐藤明子(横浜市立大学・木原生物学研究所), 高橋宏幸(横浜市立大学・木原生物学研究所), 國土祐未子, 石井貴広, 浅見忠男(東京大学大学院・農学生命科学研究科), 中村郁子(横浜市立大学・木原生物学研究所), 嶋田幸久(横浜市立大学・木原生物学研究所)	2013.10	植物化学調節学会第48回大会研究発表記録集	*,18
58	ヤーコン新品種「アンデスの乙女」の生育特性	杉浦誠, 矢野孝喜	2014.3	熱帯農業研究	7(1),97-98
59	現地の地下水水位制御圃場におけるダイズ新品種「あきまる」の生育, 収量および品質	岡部昭典, 竹田博之, 望月秀俊, 窪田潤, 奥野林太郎	2013.9	日本作物学会紀事	82(別2),38-39
60	狭畦栽培における1株播種粒数がダイズの生育および収量に及ぼす影響	岡部昭典, 竹田博之	2014.3	日本作物学会紀事	83(別1),88-89
61	Evaluation of potential risks of soils for Fusarium wilt of spinach using nitrate-nonutilizing mutants of the pathogen, Fusarium oxysporum f. sp. spinaciae	関口博之, 竹原利明, 富岡啓介, 野見山孝司, 大崎秀樹, 宮川久義, 信濃卓郎	2013.8	Acta Phytopathologica Sinica	43(suppl.), 526 Abstract No.P39.039
62	ジャガイモから分離した共生細菌の圃場における接種効果	関口博之, 染谷信孝, 土田勝一(十勝農協連), 浅野目謙之(山形県農業総合研究センター), 森一幸(長崎県農林技術開発センター), 池田成志	2013.6	日本土壌微生物学会講演要旨集	*,32

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
63	飼料イネ WCS 給与が黒毛和種去勢牛の肥育成績、筋肉内遺伝子発現に及ぼす影響	柴田昌宏, 松本和典, 曳野泰子, 室谷進, 大江美香, 大谷一郎, 山本直幸	2013.9	日本畜産学会第 117 回大会講演要旨	*.87
64	肥育全期間の飼料用イネ WCS 給与が黒毛和種去勢牛の生産性ならびに筋肉内遺伝子発現に及ぼす影響	柴田昌宏, 松本和典, 曳野泰子, 室谷進, 中島郁世, 大谷一郎, 山本直幸	2014.3	日本畜産学会第 118 回大会講演要旨	*,*
65	養鶏場からのアンモニア揮散による周辺土壌への影響評価	松森堅治, 清水裕太, 望月秀俊, 渡邊修一, 石岡巖, 志村もと子, 笠原賢明	2013.9	日本土壌肥料学会講演要旨集	59,16
66	水稲作からのライフサイクル GHG 排出量の削減ポテンシャル: 疎植・無代かきの効果の評価	志村もと子, 高橋英博, 伊藤千春 (秋田県農試), 林清忠, 松森堅治	2014.3	日本 LCA 学会要旨集	9,376-377
67	ナチュラルキラー細胞を活性化する食品成分の探索	齋藤武, 阿部大吾, 野方洋一	2014.3	日本農芸化学会 2014 年度大会要旨集	*,*
68	堆肥・スラリー等の有機性資源利用技術導入時のライフサイクルアセスメント (LCA)	志村もと子	2013.12	平成 25 年度 農研機構シンポジウム「地域資源を活用した環境保全型農業生産技術とその多面的環境影響評価」	*,*
69	丹波黒種皮に見られる「ろう粉」形質のマッピング	猿田正恭, 高田吉丈, 石本政男 (農業生物資源研究所), 佐山貴司 (農業生物資源研究所)	2013.10	育種学研究	15 (別 2) .300
70	ダイズのインゲンマメ南部モザイクウイルスに対する抵抗性のマッピング 1 -	猿田正恭, 高田吉丈	2014.3	育種学研究	16 (別 1) .251
71	「はつさやか」、「あきまる」の育成と有望大豆系統の紹介	猿田正恭	2013.12	日本作物学会四国支部会報	50,94-95
72	日射制御型拍動自動灌水装置を用いた露地ナス栽培でのリン酸減肥の検討	渡邊修一, 笠原賢明, 吉川弘恭	2013.9	日本土壌肥料学会講演要旨集	59, 132
73	低コスト点滴かん水装置による露地野菜栽培での化学肥料削減	渡邊修一	2013.10	平成 25 年度農研機構シンポジウム「地域資源を活用した効率的施肥技術による資源循環型作物生産」	*
74	建設足場資材利用園芸ハウスの寒冷地での現地実証に向けた課題	長崎裕司, 松田周, 川嶋浩樹, 吉越恆	2013.8	2013 年度農業施設学会大会講演要旨	*,7-8
75	「塩選 203 号」由来の胴割れ耐性に関与する QTL のマッピング	中込弘二, 出田収, 重宗明子, 太田久稔, 福嶋陽, 梶亮太, 津田直人	2014.3	育種学研究	16(別 1),122
76	レタス栽培圃場土から分離した Mirafiori lettuce big-vein virus 媒介菌 <i>Olpidium virulentus</i> (Sahtiy.) Karling	野見山孝司, 笹谷孝英, 大崎秀樹, 石川浩一, 富岡啓介, 関口博之, 宮川久義, 竹原利明	2013.6	日本微生物資源学会第 20 回大会プログラム・要旨	29(1),47
77	<i>Fusarium lactis</i> Pirota & Riboni によるピーマン果実腐敗病 (病原追加)	関口博之, 野見山孝司, 富岡啓介, 大崎秀樹, 宮川久義, 竹原利明	2013.9	平成 25 年度日本植物病理学会関西支部会プログラム・講演要旨予稿集	*,66
78	Transmission of Lettuce big-vein associated virus and Mirafiori lettuce big-vein virus by <i>Olpidium brassicae</i>	野見山孝司, 井上博喜, 関口博之, 富岡啓介, 大崎秀樹, 竹原利明, 笹谷孝英	2013.8	9th Symposium of International Working Group on Plant Viruses with Fungal Vectors Book of Abstracts (Oral Presentation)	*,16
79	Serological quantification of resting spores of <i>Olpidium virulentus</i> in lettuce roots and relationship between resting spore density in soil and severity of lettuce big-vein disease	野見山孝司, 関口博之, 笹谷孝英, 富岡啓介, 大崎秀樹, 宮川久義, 竹原利明	2013.8	Acta Phytopathologica Sinica 10th International Congress of Plant Pathology, Abstracts	43(supplement),527
80	レタスビッグベイン随伴ウイルスによって引き起こされるレタスの根えそ症状	野見山孝司, 関口博之, 富岡啓介, 大崎秀樹, 宮川久義, 竹原利明, 笹谷孝英	2013.9	日本植物病理学会関西支部会プログラム・講演要旨予稿集	*,39
81	<i>Colletotrichum gloeosporioides</i> 種複合体に属するニチニチソウ炭疽病菌の分子系統学的再検討	富岡啓介, 西川盾士 (サカタのタネ), 森脇丈治 (富山総技セ), 佐藤豊三 (生物研)	2014.2	日本植物病理学会報	80 (1), 50-51
82	小型反射式光度計システムを用いたミズナのアスコルビン酸含量の簡易測定法の改良	福永亜矢子, 西川万貴, 高澤弘明 (成美大学短期大学部 食物栄養専攻)	2013.9	園芸学研究	12(別 2),276

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
83	酒米「山田錦」のデンプン特性とタンパク質組成への登熟温度の影響	船附稚子, 芦田かなえ, 小河拓也(兵庫県立農林水産技術総合センター), 植山秀紀, 荒木悦子, 藤本啓之(兵庫県立農林水産技術総合センター), 池上勝(兵庫県立農林水産技術総合センター)	2013.9	日本作物学会紀事	82(2),104-105
84	Proposal of international gluten research group	池田達哉, W. John Rogers(UNCPBA, Argentina), Gerard Branlard(INRA, France.), Roberto J Pena(CIMMYT, Mexico), Silvia E Lerner(UNCPBA, Argentina), Adriana Arrigoni(UNCPBA, Argentina), Wujun Ma(MU, Australia), Rudi Appels(MU, Australia), Odean Lukow(AAFC, Canada), William Hurkman(USDA, USA), Marie Appelbee(LRPB, Australia), Mike Sissons(TAI, Australia), Jose M. Carrillo(ETSIA, Spain), Zhonghu He(CIMMYT, China)	2013.9	12th International Wheat Genetic Symposium	*,81
85	小型除草ロボットの急傾斜法面への適用と草刈方式の改良	長崎裕司, 中元陽一, 中土宣明((公財)新産業創造研究機構), 平出吉孝(明興産業株式会社), 秋田健太郎(明興産業株式会社)	2014.2	農業食料工学会関西支部報	115,51-52
86	中山間地向け施設の開発と展開方向—施設野菜の安定・高収益生産技術の開発に向けて—	長崎裕司	2013.12	日本作物学会四国支部会報	50,98-99
87	アブラナ科野菜根こぶ病における Dose Response Curve に基づく診断と対策	村上弘治, 福永亜矢子	2014.2	第4回根こぶ病研究会要旨集	*,4-9
88	Delayed leaf senescence of soybean caused by Rhizoctonia aerial blight in Japan and its chemical control	竹原利明, 井上博喜, 宮川久義	2013.8	Acta Phytopathologica Sinica	43(Suppl.), 524-525
89	ダイズの不耕起播種における各種要因の苗立ちへの影響と種子処理剤の効果	竹原利明, 橘雅明, 富岡啓介, 竹田博之, 伏見昭秀, 窪田潤, 大崎秀樹, 関口博之, 野見山孝司, 岡部昭典	2014.2	日本植物病理学会報	80,55-56
90	土壌伝染性フザリウム病の総合防除に向けた取り組み	竹原利明	2013.10	第9回フザリウム研究会講要集	*,46
91	現地圃場におけるカラシナ鋤込み太陽熱消毒による夏作ホウレンソウの土壌病害軽減効果	伊藤陽子, 竹原利明, 富岡啓介, 野見山孝司, 須賀有子, 佐藤恵利華, 福永亜矢子, 関口博之, 生駒泰基	2014.2	日本植物病理学会報	80(1),54
92	鉄コーティング種子のイネもみ枯細菌病(もみ枯症)防除効果	宮川久義, 山内稔(全農中四国)	2014.2	九州病害虫研究会(口頭発表)	
93	R/B 比の違いがレタスの相対成長率に及ぼす影響	吉越恆, 山本晴彦(山口大学農学部)	2013.9	日本生物環境工学会 2013 年高松大会講演要旨	*,120-121
94	植物工場における市販 LED 照明の利用とレタスの生育特性	吉越恆, 山本晴彦(山口大学農学部)	2014.3	日本農業気象学会 2014 年度全国大会要旨	*,215
95	西日本の小麦品種・系統における穂発芽耐性 QTL の保存性	船附稚子, 谷中美貴子, 高田兼則	2014.1	第18回穂発芽研究会	*,*
96	飼料用稲の飼料基地調製型収穫システムと低コストサイロ調製	高橋仁康, 窪田潤, 奥野林太郎, 亀井雅浩, 寺元郁博, 佐藤達也, 福岡康治	2013.9	農業食料工学会年次大会講演要旨	72,214
97	芝生畦畔における群落高の推移	伏見昭秀, 橘雅明	2014.3	日本雑草学会第53回大会講演要旨集	69
98	「キラリモチ」等の裸麦品種・系統において播種期や追肥条件が機能性成分β-グルカンの含量に及ぼす影響	高橋飛鳥, 柳澤貴司, 吉岡藤治	2013.9	育種学研究	15(別2),246
99	異なる時期におけるアブラナ科野菜根こぶ病に対する土壌還元消毒の効果	福永亜矢子, 西川万貴, 村上弘治	2014.3	園芸学研究	13(別1),380
100	モチ性裸麦品種「キラリモチ」の生産地による穀粒品質変動	吉岡藤治, 高橋飛鳥	2014.3	育種学研究	16(別1),216

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
101	柿種子胚乳含有糖鎖の解析と米胚乳含有糖鎖との比較	川瀬眞市朗	2014.3	第 64 回日本木材学会大会	*,184
102	大豆水抽出物の糖鎖解析—米含有糖鎖との比較—	川瀬眞市朗, 猿田正恭, 高田吉丈, 岡部昭典	2014.3	日本作物学会第 237 回講演会	83(別 1),434-435
103	もち米水抽出物の糖鎖化合物解析	川瀬眞市朗	2014.3	日本作物学会第 237 回講演会	83(別 1),436-437
104	農産物・農産加工物の物性・成分研究の現場から	川瀬眞市朗	2013.12	日本作物学会四国支部会第 50 回講演会	50,96-97
105	イノシシにおける登坂能力の測定	江口祐輔, 竹内啓之(麻布大学), 堂山宗一郎(麻布大学), 上田弘則, 植竹勝治(麻布大学), 田中智夫(麻布大学)	2014.3	日本家畜管理学会誌・応用動物行動学会誌	50(1),*
106	樹の水分状態の制御を目的としたかん水アルゴリズム	星典宏, 黒瀬義孝, 植山秀紀, 根角博久, 井上久義	2013.9	日本生物環境工学会 2013 年高松大会講演要旨集	*,52-53
107	血中ヒドロペルオキシド (ROMs) 濃度と分娩後の繁殖成績との関係	大島一修, 小島孝敏(家畜改良センター), 後藤裕司, 山本直幸	2014.3	日本畜産学会第 118 回大会講演要旨	*,198
108	灌水自動化を目的とした精密気象情報に基づくミカン樹の蒸散量推定	植山秀紀, 星典宏, 根角博久	2014.3	日本農業気象学会 2014 年全国大会講演要旨	*,111
109	酒米「山田錦」の酒造適性に関連する RVA 糊化開始温度への登熟温度の影響	船附稚子, 芦田かなえ, 小河拓也(兵庫県立農林水産技術総合センター), 植山秀紀, 荒木悦子, 藤本啓之(兵庫県立農林水産技術総合センター), 池上勝(兵庫県立農林水産技術総合センター)	2013.8	第 5 回中国地区育種談話会	*,*
110	ススキの導入方法の違いが草地化に及ぼす影響	大谷一郎, 高橋佳孝, 堤道生	2014.3	雑草研究	59(別),137
111	カンキツ新品種の導入とブランド確立のためのマルドリ方式の高度利用	根角博久	2013.12	日本作物学会四国支部会報	50,100-102
112	有機農業者を中心とした直売市の活動の実態と課題	尾島一史, 佐藤豊信(岡山大学), 駄田井久(岡山大学)	2014.3	日本農業経済学会	大会資料、K32
113	吸湿性素材を用いた葉の蒸散量の検討 - 従来の測定機器との比較 -	星典宏, 植山秀紀, 根角博久	2014.3	日本農業気象学会 2014 年全国大会講演要旨	*,168
114	簡易直達日射計の試作と検証	佐藤恵一	2013.12	中国・四国の農業気象	26,43-44
115	枯草菌を比較対照とした納豆菌の欠損ファージの分析	永井利郎(生物研), 富岡啓介, 一木(植原) 珠樹(生物研), 澤田宏之(生物研), 青木孝之(生物研), 佐藤豊三(生物研)	2013.6	日本微生物資源学会誌	29 (1), 52
116	日本植物病名データベース	佐藤豊三(生物研), 山崎福容(生物研), 竹谷勝(生物研), 大園麻友(生物研), 埋橋志穂美(理研), 小林みゆき(生物研), 熊谷みどり(生物研), 月星隆雄, 富岡啓介, 澤田宏之(生物研), 永井利郎(生物研), 一木珠樹(生物研), 青木孝之(生物研)	2013.6	日本微生物資源学会誌	29 (1), 58
117	火入れ地の草刈りによる草原性植物の開花状況の変化	井上雅仁(島根県立三瓶自然館), 高橋佳孝, 堤道生	2014.3	第 61 回日本生態学会大会	*,PA1-004
118	布団被覆資材の断熱性に関する熱収支解析	瀧澤直希(東海大), 林真紀夫(東海大), 川嶋浩樹	2013.8	2013 年度農業施設学会大会講演要旨	*,133-134
119	雄殺し Spiroplasma 感染ナミテントウの感染動態と野外交尾率について	對馬祐介(廣大生物圏), 中村佳代(廣大生物圏), 三浦一芸	2013.9	日本昆虫学会第 73 回大会講演要旨集	*, 61
120	ヤマトシロアリ属の分子系統解析と琉球列島における分布形成	竹松葉子(山口大農), 内田楽々(山口大農), 山下昌大(山口大農), 中野由布妃(山口大農), 三浦一芸	2013.9	日本昆虫学会第 73 回大会講演要旨集	*,40
121	Wolbachia 感染天敵製剤の放飼における生態リスク評価	渡部真也(生物研), 陰山大輔(生物研), 三浦一芸	2013.12	第 23 回天敵利用研究会鬼怒川大会講演要旨	*,20
122	アメンボタマゴクロバチ (Tiphodytes) 属における隠蔽種の可能性	西森敬晃(広島大生物圏), 三浦一芸, 山岸健三(名城大)	2014.3	第 58 回日本応用動物昆虫学会高知大会講演要旨集	*,*

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
123	アラカシミヤドカリタマバチ(膜翅目:タマバチ科)のゴール形成能力は再獲得されたものかーミトコンドリア DNA による本種の系統学的位置の推定	井手竜也(九州大比文),楠見淳子(九州大比文),三浦一芸,阿部芳久(九州大比文)	2014.3	第 58 回日本応用動物昆虫学会高知大会講演要旨集	*,*
124	中空構造栽培槽を用いたイチゴ育苗における灌水方法の最適化	佐野修司(大阪環農水総研),内山知二(大阪環農水総研),工藤渚(鳥取大農学部),遠藤常嘉(鳥取大農学部),西本登志(奈良農総セ),安川人央(奈良農総セ),長崎裕司,山崎敬亮,松山眞三(大日本プラスチック(株)),隅谷智宏((株)ヴェイル)	2013.9	園芸学会平成 25 年度秋季大会研究発表およびシンポジウム講演要旨	12(別 2),393
125	イチゴ育苗への中空構造栽培槽の導入による養分流亡の抑制	内山知二(大阪環農水総研),佐野修司(大阪環農水総研),工藤渚(鳥取大農学部),遠藤常嘉(鳥取大農学部),西本登志(奈良農総セ),安川人央(奈良農総セ),長崎裕司,山崎敬亮,松山眞三(大日本プラスチック(株)),隅谷智宏((株)ヴェイル)	2013.9	園芸学会平成 25 年度秋季大会研究発表およびシンポジウム講演要旨	12(別 2),392
126	Growth response of Suaeda salsa(L.) Pall to graded NaCl concentrations in the growth medium and the mechanisms of growth stimulation	但野利秋(北海道大学名誉教授),森伸介	2013.10	International Workshop on Mechanisms of Plant Stress Tolerance and Sustainable Use of Saline Resources	*,*
127	LAMP 法による土壌中のアブラナ科野菜根こぶ病菌の検出	鈴木啓史(三重県農業研究所),黒田克利(三重県農業研究所),辻朋子(三重県農業研究所),村上弘治,對馬誠也(農業環境技術研究所)	2013.9	平成 25 年度日本植物病理学会関西西部会講演要旨	*,35
128	新型オーキシン生合成阻害剤、YUCCA 阻害剤の発見	山崎千秋(横浜市立大学・木原生物学研究所),國土祐未子,石井貴広,添野和雄,佐藤明子(横浜市立大学・木原生物学研究所),鈴木優志(横浜市立大学・木原生物学研究所),嶋田幸久(横浜市立大学・木原生物学研究所)	2013.10	植物化学調節学会第 48 回大会研究発表記録集	*,19
129	シロイヌナズナのオーキシンホメオスタシスには YUCCA のフィードバック制御が重要である	鈴木優志(横浜市立大学・木原生物学研究所),山崎千秋(横浜市立大学・木原生物学研究所),三井麻利江(横浜市立大学・木原生物学研究所),三谷由佳(横浜市立大学・木原生物学研究所),中村郁子(横浜市立大学・木原生物学研究所),添野和雄,嶋田幸久(横浜市立大学・木原生物学研究所)	2013.10	植物化学調節学会第 48 回大会研究発表記録集	*,20
130	オーキシン生合成阻害剤を用いたトマトにおけるオーキシン生理作用の解析	菊地理絵(横浜市立大学・木原生物学研究所),東出忠桐,成川恵(横浜市立大学・木原生物学研究所),添野和雄,嶋田幸久(横浜市立大学・木原生物学研究所)	2014.3	第 55 回日本植物生理学会年會要旨集	*,273
131	オーキシン生合成のフィードバック制御における YUCCA 遺伝子の発現制御機構	三井麻利江(横浜市立大学・木原生物学研究所),石田遥介(横浜市立大学・木原生物学研究所),鈴木優志(横浜市立大学・木原生物学研究所),寛雄介(横浜市立大学・木原生物学研究所),山崎千秋(横浜市立大学・木原生物学研究所),石井貴広,林謙一郎(岡山理科大),藤岡昭三(理研),中村郁子(横浜市立大学・木原生物学研究所),添野和雄,嶋田幸久(横浜市立大学・木原生物学研究所)	2014.3	第 55 回日本植物生理学会年會要旨集	*,348

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名等	巻(号),頁
132	インドールピルビン酸を経由するオーキシン合成のフィードバック制御がオーキシンホメオスタシス維持に重要である	鈴木優志(横浜市立大学・木原生物学研究所),山崎千秋(横浜市立大学・木原生物学研究所),三井麻利江(横浜市立大学・木原生物学研究所),寛雄介(横浜市立大学・木原生物学研究所),三谷由佳(横浜市立大学・木原生物学研究所),中村郁子(横浜市立大学・木原生物学研究所),石井貴広,添野和雄,嶋田幸久(横浜市立大学・木原生物学研究所)	2014.3	第55回日本植物生理学会年会要旨集	*,240
133	養鶏場からのアンモニア揮散による流域水質への影響評価	清水裕太,松森堅治,志村もと子,渡邊修一,望月秀俊,石岡徹,笠原賢明	2013.9	日本土壌肥科学会講演要旨集	59,16
134	養鶏場からのアンモニア揮散による間接的窒素負荷の影響評価	清水裕太,松森堅治,志村もと子,渡邊修一,望月秀俊,石岡徹,笠原賢明	2013.10	日本水文科学会	28,37-38
135	分布型水文流出モデルによる窒素流出量推定の現状と課題	清水裕太,小野寺真一(広島大学),松森堅治	2013.10	日本水文科学会	28,13-14
136	Estimation of groundwater recharge rate and water balance in an agricultural catchment in Seto Inland Sea using SWAT Model	Guangzhe JIN(広島大学),清水裕太,小野寺真一(広島大学),斉藤光代(岡山大学),松森堅治	2013.10	日本水文科学会学術大会発表要旨集	28,49-50
137	高温年に発生する「トヨスメ」特有の裂皮に関する QTL	山下陽子(道総研中央農試),船附秀行,山口直矢(道総研十勝農試),大西志全(道総研北見農試),鴻坂扶美子(道総研中央農試)	2013.10	育種学雑誌	15(別2),299
138	マカロニコムギの国内生産をめざした有望系統の収量調査とその品質について	丹野研一(山口大学農学部),石川直幸,大楠秀樹(日本製粉),河原太八(京都大学大学院農学研究科),山根京子(岐阜大学応用生物科学部),鎌田英一郎(山口大学農学部),荒木英樹(山口大学農学部),高橋肇(山口大学農学部)	2014.3	日本作物学会紀事	83(別1),122-123
139	日長感応性細胞質雄性不稔(PCMS)コムギ系統の育成とハイブリッドコムギ系統の農業形質	村井耕二(福井県立大学生物資源学部),黒坂真素美(福井県立大学生物資源学部),太田宇香(ホクレン農業総合研究所),田中由紀(ホクレン農業総合研究所),石川直幸	2014.3	育種学研究	16(別1),103
140	クラブコムギ由来のグルテニンサブユニットを導入した薄力コムギ系統の育成	吉村康弘(道総研・北見農試),佐藤三佳子(道総研・北見農試),神野裕信(道総研・北見農試),池田達哉,阿部珠代(道総研・中央農試)	2014.3	育種学研究	16(別1),149
141	パンコムギ染色体異数体系統を用いたグリアジンタンパク質の同定	三浦麻友子(横浜市大・木原生研),川浦香奈子(横浜市大・木原生研),中村真子(横浜市大・木原生研),池田達哉,荻原保成(横浜市大・木原生研)	2014.3	育種学研究	16(別1),134
142	てんろ苦土石灰の施用がアブラナ科軟弱野菜根こぶ病の発病におよぼす影響	佐野修司(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所,西岡輝美(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所,川崎佑子(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所,小坂吉則(大阪府泉州農と緑の総合事務所),森岡こころ(大阪府泉州農と緑の総合事務所),角田美由紀(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所,瓦谷光男(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所,岡田清嗣(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所,内山知二(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所,村上弘治	2014.2	第4回根こぶ病研究会要旨集	*,20-23
143	植物バイオマス鋤き込み還元処理土壌由来の嫌気性細菌株の植物病原菌に対する殺菌効果	梁詒海彦(山形大学),竹原利明,加来伸夫(山形大学),上木厚子(山形大学)	2013.11	日本微生物生態学会大会講演要旨集	*,*

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
144	イネに対して有効なオーキシン生合成阻害剤の開発	山本光洋(横浜市立大学・木原生物学研究所), 寛雄介(横浜市立大学・木原生物学研究所), 石田遥介(横浜市立大学・木原生物学研究所), 山崎千秋(横浜市立大学・木原生物学研究所), 佐藤明子(横浜市立大学・木原生物学研究所), 成川(奈良) 恵(横浜市立大学・木原生物学研究所), 中村郁子(横浜市立大学・木原生物学研究所), 添野和雄, 嶋田幸久(横浜市立大学・木原生物学研究所)	2014.3	第55回日本植物生理学会年会要旨集	*348
145	植物工場における光利用効率の向上をめざした照明昇降装置の検討	園山芳充(株式会社アグリライト研究所), 岩谷潔(株式会社アグリライト研究所), 山本晴彦(山口大学農学部), 原田陽子(山口大学農学部), 吉越恆	2013.12	中国・四国の農業気象	26,11-12
146	Estimation of Spatial Distribution of Temperature in Summer City Area Based on Multiple Regression Analysis by Using Land-Use Element	高山成(大阪工業大学), 吉越恆, 山本晴彦(山口大学農学部), 原田陽子(山口大学農学部)	2014.3	Proceedings of the ISAM 2014	*164
147	肥料価値の高い豚ふん堆肥・鶏ふん堆肥の製造と利用 第20報 酸性デタージェント可溶有機物量による各種有機物資材のメタン発生ポテンシャルの評価	南雲芳文(新潟農総研・作物研), 小柳渉(新潟農総研・畜産研), 石岡巖, 棚橋寿彦(岐阜農技セ), 加藤直人	2013.9	日本土壌肥科学会講演要旨集	59,138
148	障害物と報酬の距離がハクビシンの行動に及ぼす影響	加瀬ちひろ(自然環境研究センター), 江口祐輔	2014.3	日本家畜管理学会・応用動物行動学会誌	50(1),*
149	竹林内の歩道造成に伴う野生動物の生息状況の変化と季節的変動	竹内啓之(麻布大学), 江口祐輔, 上田弘則, 植竹勝治(麻布大学), 田中智夫(麻布大学)	2014.3	日本家畜管理学会・応用動物行動学会誌	50(1),*
150	イノシシの押す力はどれくらいか	坂倉健太(麻布大学), 江口祐輔, 上田弘則, 植竹勝治(麻布大学), 田中智夫(麻布大学)	2014.3	日本家畜管理学会・応用動物行動学会誌	53(1),*
151	日本で栽培されたモチ米から精製した胚乳澱粉の構造および物性	中浦嘉子(福山大), 廣瀬美佳(食総研), 小山善幸, 松下景, 後藤明俊, 松葉修一, 梶亮太, 出田収, 片岡知守, 松木順子, 山本和貴, 井ノ内直良(福山大)	2014.3	日本農芸化学会2014年度大会講演要旨集	*547
152	軟質性、高温登熟耐性を持った酒米選抜のためのスクリーニング方法の確立(第1報)	山崎梨沙(広島県立総合技術研究所食工技センター), 大土井律之(広島県立総合技術研究所食工技センター), 勝場善之助(広島県立総合技術研究所農業技術センター), 出田収, 船附稚子, 重宗明子, 中込弘二	2014.3	日本農芸化学会2014年度大会講演要旨	*2A08p21
153	施設共同利用型高品質カンキツ生産方式「団地型マルドリ方式」	齋藤仁蔵	2013.9	マルドリ方式のカンキツ生産技術フォーラム「高収益を実現する産地ブランド型生産体系の確立を目指して」	33
154	消費者は、みかんの箱色と商品名をどのように評価しているか?	齋藤仁蔵	2013.9	マルドリ方式のカンキツ生産技術フォーラム「高収益を実現する産地ブランド型生産体系の確立を目指して」	34
155	評価指標の開発は二次草原の保全再生に貢献するか?	高橋佳孝	2014.3	第61回日本生態学会自由集会「二次草原の保全再生に生物多様性指標をどう活かすか?」	45名
156	周年マルチ点滴灌水同時施肥法(マルドリ方式)による地下水再利用システムの現地実証試験	松森堅治, 向井章恵, 渡邊修一, 笠原賢明, 清水裕太	2014.1	陸域環境研究会	5,1
157	ハダニタマバエとミナミハダニタマバエ(ハエ目:タマバエ科)の形態学的特徴と日本における分布、捕食対象、生活史特性	安部順一朗, 喜久村智子(沖繩農研), 湯川淳一(九大)	2014.3	日本応用動物昆虫学会	*200

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名等	巻(号),頁
158	小麦品質に関する国際共同研究に向けて	池田達哉	2013.12	第8回ムギ類研究会 (eWIS)	*,2014-0004
159	植物工場用LED照明と省エネルギーの技術課題	吉越恆	2013.10	農業食料工学会関西支部第130回例会見学会	*,*

V 研究情報活動

4) その他

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
1	近畿中国四国農業研究センターにおける農業農村工学研究	松田周, 井上久義, 細川雅敏, 松森堅治, 志村もと子, 望月秀俊, 向井章恵	2013.5	農業農村工学会誌	81(5),19-22
2	加工事業を基幹としたカンキツ作経営の展開—和歌山県S農園と高知県O農園の取組実態—	棚田光雄	2014.2	近畿中国四国農研農業経営研究	24,30-48
3	「ハルヒメボシ」の育成と新規需要拡大のための大麦育種	吉岡藤治	2013.12	日本作物学会四国支部会報	50,92-93
4	イノシシの行動研究にもとづく被害対策	江口祐輔	2013.6	哺乳類科学	53(1),141-143
5	草地生態系のオーバーユースとアンダーユース：はじめに	西脇亜也(宮崎大学農学部), 堤道生	2013.10	日本草地学会誌	59,211
6	温暖地の放牧地に適した草種	大谷一郎	2013.9	近中四農研ニュース	50,4
7	中国・四国雑草研究会	橘雅明	2013.9	雑草研究	58,150
8	目指せ省エネNO.1、強風にも負けないパイプハウスの開発	川嶋浩樹	2013.7	近中四農研ニュース	49,4
9	平成24年度問題別研究会及び試験研究推進会議の概要	菊地淳志	2013.11	日本応用動物昆虫学会中国支部会報	55,51-52
10	第11回植物の嫌気応答国際会議に参加して	森伸介	2014.2	日本土壌肥科学雑誌	85(1), 59-60
11	鉄コーティング水稲湛水直播の苗立ち安定化に向けて～種子の活性化処理(浸種・乾燥)で発芽促進!～	森伸介	2014.3	近中四農研ニュース	52,3
12	製パン性に優れ、多収の温暖地向けパン用小麦新品種「せときらら」	高田兼則	2013.12	近中四農研ニュース	51,6
13	エネルギー消費を促進する食品成分の探索	阿部大吾	2013.12	近中四農研ニュース	51,4
14	深水栽培によるコメの品質向上	千葉雅大	2013.7	近中四農研ニュース	49,3
15	点滴かん水を露地栽培でも活用しよう!～ソーラーポンプを利用したかん水装置	渡邊修一	2013.12	近中四農研ニュース	51,3
16	小型ハウス・温室に適した冷房システムの開発	村上健二	2013.9	近中四農研ニュース	50,3
17	水田の基盤整備がメタン発生量におよぼす影響解明	永田修	2013	北海道空知総合振興局受託研究報告書	*,*
18	小麦赤かび病を適期に防除するための開花期予測システム	黒瀬義孝	2013.7	米麦改良	7,8-14
19	ハルザキヤマガラス	橘雅明	2013.12	技術と普及	50(12),16-17
20	急傾斜ミカン園に簡易スロープとスイッチバック式運搬車	中元陽一	2013.8	現代農業	92(9),128-129
21	モノレールを作業位置で自動停止させる位置制御技術の開発	中元陽一	2013.10	果実日本	68(11),13-16
22	土壌調査に使用する採土缶の掘り取り補助具の開発	中元陽一	2013.11	土づくりとエコ農業	45(6),83-86
23	第19章 土壌伝染性病原菌 19-1 根こぶ病菌	村上弘治	2013.6	土壌微生物実験法(第3版)日本土壌微生物学会編(養賢堂)	*,161-167
24	第19章 土壌伝染性病原菌 19-12 植物寄生性線虫	佐藤恵利華	2013.6	土壌微生物実験法(第3版)日本土壌微生物学会編(養賢堂)	*,212-217

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
25	広域連携周年放牧を支援する技術	山本直幸	2013.11	畜産技術	702,32-34
26	深水栽培によるコメの品質向上	千葉雅大	2013.11	米麦改良	2013(11),2-5
27	有機農業 実践の手引き 第4章 バイオフェルミゲーションを取り入れたホウレンソウ、ナス等の有機栽培技術	竹原利明, 石岡徹, 須賀有子, 吉田祐子, 前川和正 (兵庫県立農林水産技術総合センター), 竹川昌宏 (兵庫県立農林水産技術総合センター), 中野智彦 (奈良県農業総合センター), 安川人央 (奈良県農業総合センター), 森岡正 (奈良県農業総合センター), 神川論 (奈良県農業総合センター), 井上興 (山口県農林総合技術センター), 徳永哲夫 (山口県農林総合技術センター), 亀代美香 (徳島県立農林水産総合技術支援センター), 三宅圭 (徳島県立農林水産総合技術支援センター), 堀北直樹 (徳島県立農林水産総合技術支援センター), 広田恵介 (徳島県立農林水産総合技術支援センター)	2013.5	農林水産省農林水産技術会議事務局括官室 (独) 農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業総合研究センター	*46-77
28	低コストな高軒高ハウスと自動灌水装置などによる夏秋トマト低段密植2作採り	長崎裕司	2013.9	農耕と園芸	68(9),48-51
29	胴割れ米の発生メカニズムと高温登熟の影響	長田健二	2013.10	NOSAI	65(10),20-28
30	水稻多収品種の安定栽培技術 (中国地域)	長田健二	2014.1	農文協	農業技術大系作物編追録35号, 基本編307-311
31	たちすずか、たちあやか多収栽培のコツ	中込弘二	2014.2	現代農業	2014. 2月号,320-321
32	地図アプリケーションの全てを開発する	寺元郁博	2013.8	機械化農業	3147,20-24
33	硝子率が低く精麦品質の優れるはだか麦新品種「ハルヒメボシ」	高橋飛鳥, 山口憲一 (愛媛県農林水産研究所 農業研究部)	2013.6	研究ジャーナル	1(6),34-38
34	硝子率が低く精麦品質が優れる早生・多収のはだか麦新品種「ハルヒメボシ」の育成	高橋飛鳥, 吉岡藤治	2013.6	米麦改良	*1-5
35	苗立ち性のすぐれる低アミロース巨大胚水稻品種「はいごころ」の育成	出田収	2013.9	米麦改良	2013.9,20-25
36	極短穂・茎葉多収・高糖分で倒れにくい中生熟期の稲発酵粗飼料用水稲品種「たちあやか」の育成	出田収	2013.7	米麦改良	2013.7,15-19
37	高保温性能で大幅な省エネを可能にする次世代型パイプハウスの開発	川嶋浩樹	2014.3	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業研究紹介 2013	*37-38
38	衛星画像データに基づく土壌の母材を考慮した畑地土壌の炭素貯留量の推定	永田修	2013	北農研ニュース	*,*
39	中山間地域における稲・麦・大豆の導入効果ー 2011年度からの戸別所得補償制度条件での分析ー (1)	坂本英美	2013.6	週刊農林	2185,4-5
40	中山間地域における稲・麦・大豆の導入効果ー 2011年度からの戸別所得補償制度条件での分析ー (2)	坂本英美	2013.6	週刊農林	2186,8-9
41	農産物直売所による「出張直売」ビジネスモデルの構築に向けた販売実験	室岡順一	2013.4	全国農業経営研究会	60名

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
42	農産物直売所による「出張直売」活動の実態と意義ー中国地方の中山間地域に立地する直売所の事例分析ー	室岡順一	2013.8	営農推進部会夏季問題別研究会	36名
43	園内道の整備と設計支援システム	細川雅敏	2013.11	香川の果樹	27(4),21-23
44	園内道の整備のための設計支援システム	細川雅敏	2013.10	平成25年度革新的農業技術に関する研究資料	8名
45	導入コストの削減など、さまざまな効果が期待できる「団地型マルドリ方式」～施設の共同利用によって高品質かんきつ生産に取り組む～	齋藤仁藏	2013.7	グリーンレポート	29(7), 16-17
46	地域組織による「団地型マルドリ方式」の導入と高品質かんきつ生産	齋藤仁藏	2013.7	果樹園芸	66(7),14-17
47	施設共同利用型高品質カンキツ生産方式「団地型マルドリ方式」	齋藤仁藏	2013.10	平成25年度革新的農業技術に関する研修:「果樹栽培(かんきつ)の省力・軽労化と高品質安定栽培技術」	8名
48	高品質カンキツのブランド化を考える～みかんの箱色と商品名に対する消費者調査から～	齋藤仁藏	2013.10	平成25年度革新的農業技術に関する研修:「果樹栽培(かんきつ)の省力・軽労化と高品質安定栽培技術」	8名
49	産地ブランド確立の考え方とマルドリ方式活用について	齋藤仁藏	2013.9	マルドリ方式のカンキツ生産技術フォーラム「高収益を実現する産地ブランド型生産体系の確立を目指して」	169名
50	土壌に有機物を添加した際の発熱と二酸化炭素発生	石岡巖, 渡邊修一	2013.8	平成25年度近畿中国四国農業試験研究推進会議土壌肥料推進部会問題別研究会	68名
51	茅場・草原の生態系サービスとその再構築	高橋佳孝	2013.5	茅場再生勉強会(筑波大学)	35名
52	阿蘇の草原について(草原と人との関わり)	高橋佳孝	2013.8	平成25年度教育事業「草原学習指導者講習会」(独立行政法人国立阿蘇青少年交流の家)	40名
53	いのち輝く草原が、九州観光の中心から放つ魅力とは!	高橋佳孝	2013.12	阿蘇千年の草原シンポジウム in 福岡(阿蘇草原再生協議会)	180名
54	阿蘇の草原と生態系サービス	高橋佳孝	2013.11	農業環境技術研究所公開セミナー(NIAES30周年記念セミナー)「生き物のにぎわいを支える豊かな農業」(農業環境技術研究所)	110名
55	地域資源を活用した和牛放牧の多面的機能	高橋佳孝	2013.11	平成25年度地域産学連携支援委託事業セミナー「地域の未来をひらく安全安心の高品質ブランド肉牛の開発」(NPO法人中国四国農林水産・食品先進技術研究会, 農林水産省)	50名
56	地域資源を活用した新しい視点での和牛放牧	高橋佳孝	2013.12	平成25年度東北地域飼料増産シンポジウム～目指せ!!放牧を取り入れた地域の水田等遊休農地解消戦略～(東北地域飼料増産行動会議, 東北農政局)	70名
57	地域資源を活用した肉用牛放牧の奨め	高橋佳孝	2013.10	平成25年度中央畜産技術研修会肉用牛(農林水産省生産局)	45名
58	直売所出荷における、欠品を避けるための需要量の予測 Part2" 花編"	吉田晋一	2013.7	園芸新知識タキイ最前線(タキイ種苗株式会社)	2013秋号,80-83
59	つばみ期収穫特定日開花調節技術の実証試験に基づく経済性評価	吉田晋一, 藤根輝枝(奈良農総セ), 浅野峻介(奈良農総セ)	2013.8	近畿中国四国農業試験研究推進会議営農部会問題別研究会	36名

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
60	ファーマーズマーケットにおける切り花に対する消費者店舗内行動分析	吉田晋一	2013.8	韓日農業経営フォーラム(韓国農村振興庁・中央農業総合研究センター)	49名
61	直売所の切り花需要に対応する特定日開花・品質管理の技術と支援ソフト	吉田晋一, 豊原憲子(大阪環農水総研)	2013.11	平成25年度近畿地域マッチングフォーラム	70名
62	直売所切り花の日別需要量予測ソフトとユリの開花日予測ソフト	吉田晋一	2013.12	「生産者と消費者の双方の利益を結びつける農産物直売システム」直売所運営者対象技術相談会(JA滋賀中央会)	12名
63	園地土壌の乾燥程度を簡単に把握できるカンキツ用簡易土壌水分計	黒瀬義孝	2013.9	マルドリ方式のカンキツ生産技術フォーラム	100名
64	園地土壌の乾燥程度を簡単に把握できるカンキツ用簡易土壌水分計	黒瀬義孝	2013.10	革新的農業技術に関する研修資料 果樹栽培(かんきつ)の省力・軽労化と高品質安定生産栽培技術	8名
65	新しい視点での放牧飼養による土地利用型畜産	高橋佳孝	2013.9	平成25年度近畿中国四国農業試験研究推進会議畜産草地推進部会問題別研究会「土地利用と生産性向上による肉用牛生産の展開」(近畿中国四国農業研究センター)	35名
66	いのち輝く草原を未来へ～生態系サービスを通じた人と草原の関わりの再構築	高橋佳孝	2013.11	シンポジウム 奇跡のはらっぱ「そうふけっぱら」を次世代へ(日本自然保護協会)	60名
67	「第8回食と農のサイエンスカフェ～国産小麦でおいしいパンを!～」のPR	谷中美貴子	2013.12	「ようこのようこそ」(エフエムゆめウェブ)	
68	大規模タイル画像を生成した話	寺元郁博	2013.11	FOSS4G 2013 Tokyo	20名
69	水質負荷指標とLCAの統合化	高橋英博	2013.6	平成25年度農食研究推進事業「地球温暖化の抑制と水質保全に資する地域資源活用型農地管理技術の実証と導入促進」シンポジウム	70名
70	ヒートポンプ利用による生産性向上と省力化	川嶋浩樹	2013.5	エレクトロヒート((社)社団法人日本エレクトロヒートセンター)	34(1),1-6
71	施設栽培におけるヒートポンプの利用	川嶋浩樹	2013.11	電気評論((株)電気評論社)	
72	高保温性能で低コスト・高強度な次世代型パイプハウスの開発	川嶋浩樹	2013.10	中国農業大学(趙研究室)セミナー	40名
73	目指せ省エネNO.1、強風にも負けないパイプハウスの開発	川嶋浩樹	2013.10	アグリビジネス創出フェア(研究・技術プレゼンテーション)	50名
74	布団資材による暖房負荷軽減と巻き取り方式の検討	川嶋浩樹	2013.11	平成25年度広報・連携促進現地実証等促進技術交流セミナー「施設園芸における布団資材の断熱性向上と用途拡大による実用化」	25名
75	施設園芸の省エネ技術について	川嶋浩樹	2013.5	三豊花卉部会総会特別講演	100名
76	被覆資材の基礎知識	川嶋浩樹	2013.5	第15回施設園芸技術初級講座	32名
77	被覆資材	川嶋浩樹	2013.9	平成25年度革新的農業技術習得支援事業(温室の周年利用に向けた省エネルギー・高度環境制御技術)	30名

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
78	被覆資材の種類と利用法	川嶋浩樹	2013.9	第8回施設園芸技術中級講座	28名
79	農業気象学的アプローチによる作物生産性向上技術	黒瀬義孝	2014.1	近畿中国四国農業試験研究推進会議作物生産推進部会「情報活用による作物生産性向上にむけた技術開発」	50名
80	カンキツ園内道の路線配置計画のための支援システムの紹介	細川雅敏	2014.1	和歌山の果樹	1,7-10
81	砂地畑におけるネコブセンチュウ密度と被害度との関係—メタゲノムセンチュウ被害予測診断の徳島県での事例—	佐藤恵利華, 阿部成人(徳島県農林水産総合技術支援センター), 松崎正典(徳島県農林水産総合技術支援センター), 和田健太郎(徳島県農林水産総合技術支援センター)	2013.12	平成25年度九州沖縄農業試験研究推進会議畑作推進部会第27回いも類研究会	100名
82	農薬使用の要否を判断する	佐藤恵利華	2013.12	農業のライフアンドワーク(FMいかる)	
83	雑草対策, 植生管理による農地環境の保全	伏見昭秀	2013.10	東三河農地・水・環境保全地域協議会	90名
84	鳥獣害対策何でもQ&A, 水稲を中心とした被害対策	上田弘則	2013.5	第1回鳥獣被害対策技術指導研修会(香川県・近中四農研)	50名
85	野菜を中心とした被害対策	上田弘則	2013.7	第2回鳥獣被害対策技術指導研修会(香川県・近中四農研)	50名
86	イノシシ・サル・シカ対策	上田弘則	2013.9	第3回鳥獣被害対策技術指導研修会(香川県・近中四農研)	50名
87	アライグマ・ハクビシン対策	上田弘則	2013.11	第4回鳥獣被害対策技術指導研修会(香川県・近中四農研)	50名
88	冬の被害対策	上田弘則	2014.2	第5回鳥獣被害対策技術指導研修会(香川県・近中四農研)	50名
89	野生鳥獣の生態及び集落点検のポイント	上田弘則	2013.7	平成25年度第3回大分県鳥獣害アドバイザー養成研修会	80名
90	野生鳥獣の生態及び集落点検のポイント	上田弘則	2013.8	平成25年度第4回大分県鳥獣害アドバイザー養成研修会	80名
91	イノシシ・シカの被害対策	上田弘則	2013.6	平成25年度第1回大分県鳥獣害アドバイザー養成研修会	60名
92	イノシシ・サルの被害対策	上田弘則	2013.6	平成25年度第2回大分県鳥獣害アドバイザー養成研修会	60名
93	野生動物の生態を踏まえた被害対策	上田弘則	2013.7	中国地域野生鳥獣対策ネットワーク設立総会	60名
94	外来生物(ヌートリア・アライグマ)の防除対策について	上田弘則	2013.8	外来鳥獣対策従事者研修会(美郷町)	10名
95	イノシシ・シカ・サルの被害対策について	上田弘則	2013.8	平成25年度鳥獣害防止指導者育成研修(埼玉県)	50名
96	やせいどうぶつ	上田弘則	2013.6	野菜体験道場(邑智小学校)	30名
97	野生動物の生態を踏まえた被害対策	上田弘則	2013.11	平成25年第3回三重県鳥獣害対策研修会	60名
98	地域が抱える鳥獣被害対策問題の解決に向けて	上田弘則	2013.11	中国地域鳥獣被害対策現地検討会(中国地域野生鳥獣対策ネットワーク)	70名
99	ほにゅうるい	上田弘則	2013.10	野菜体験道場(邑智小学校)	30名
100	地域が抱える鳥獣被害対策問題の解決に向けて	上田弘則	2014.1	四国地域鳥獣被害対策現地検討会(四国地域野生鳥獣対策ネットワーク)	100名
101	簡易土壌水分計を使ったかん水管理	黒瀬義孝	2014.3	香川の果樹	174,21-23
102	近畿中国四国地域における最近の研究—稲 WCS の収穫・調製コストを低減—	田坂幸平	2013.10	機械化農業	*, 73-76
103	ネギアザミウマのバイオタイプ	三浦一芸, 十川和士(香川農試), 渡邊文夫(香川農試), 伊藤政雄(高知農試)	2013.12	植物防疫	67, 662-665

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
104	昆虫類やダニ類の DNA による識別・同定法	三浦一芸	2013.12	門司植物防疫所セミナー	30 名
105	イチゴ高設栽培の収穫の中休みを軽減する気化熱を利用した培地冷却技術	山崎敬亮	2013.10	第 73 回日本養液栽培研究会・新潟大会	150 名
106	近中四農研・環境保全型野菜研究領域(綾部)におけるイチゴ関連研究への取り組み	山崎敬亮	2013.7	奈良県二階堂共計いちご出荷組合研修会	19 名
107	植物の生育と光の色について	山崎敬亮	2013.10	農業のライフアンドワーク (FMいかる)	
108	イノシシの生態と被害対策	上田弘則	2014.3	阿佐地域鳥獣被害防止広域対策協議会研修会	30 名
109	効率的な炭酸ガス施用について	畔柳武司	2013.6	高知県専門技術高度化研修(野菜)	210 名
110	Current Trends of Energy-saving Measures in Greenhouse Heating in Japan	畔柳武司	2013.10	The 1st International Symposium on Energy-saving and Environmental Control in Protected Cultivation	200 名
111	ダイズ害虫の生態と管理	菊地淳志	2013.9	平成 25 年度革新的農業技術習得支援研究 (B04) 大豆の高位安定生産技術	17 名
112	大学院から現在までの研究生生活	森伸介	2013.11	生物応用化学科研究室演習(六)	30 名
113	アメダスデータからの精密園地気象予測	植山秀紀	2013.8	平成 25 年度普及指導員等研修「果樹栽培の省力・軽労化と高品質安定栽培技術」	8 名
114	Penman-Monteith 法による基準蒸発散量を用いたカンキツ樹のかん水要求量推定	植山秀紀	2013.9	農研機構マルドリ方式のカンキツ生産技術フォーラム「高収益を実現する産地ブランド型生産体系の確立を目指して」	161 名
115	モノレールの自動運行システムの開発	中元陽一	2013.9	香川の果樹	27 (3) ,21-23
116	凍害抑制のための機械処理技術の開発	中元陽一	2013.11	丹波栗凍害対策実演会	50 名
117	夏作ホウレンソウについて	吉田祐子	2013.7	FMいかる	
118	パンづくりの科学	高田兼則	2013.8	山口大学公開講座「小麦栽培から始めるパンづくり」	30 名
119	追加の費用・収益からみた「マルドリ方式」の経済性評価	棚田光雄	2013.10	平成 25 年度革新的農業技術に関する研修資料果樹栽培(かんきつ)の省力・軽労化と高品質安定栽培技術	*.81-86
120	中小規模水田における高生産性輪作体系の現地実証と経済性評価	坂本英美, 棚田光雄	2014.3	研究成果シリーズ	503,336-339
121	中小規模水田における高生産性輪作体系の現地実証と経済性評価	坂本英美	2014.3	研究成果シリーズ	504,209-213
122	水稲直播栽培の経営的成立要因ー北海道と中国中山間地域の事例からー	坂本英美	2013.5	水稲栽培技術に関する学習会(第 2 回)講演、四国拠点仙遊地区講堂	30 名
123	筋培養細胞を用いた脂肪酸代謝促進成分の探索	阿部大吾	2013.11	平成 25 年度近畿中国四国農業試験研究推進会議作物生産部会食品流通問題別研究会	24 名
124	花き園芸へのオーキシン生合成阻害剤の利用可能性	添野和雄	2013.8	平成 25 年度近畿花き研究担当者会議	20 名
125	暑い夏にはイネもバテる?~水稲の高温障害と対策技術~	千葉雅大, 小林英和	2013.10	ゆめウェーブ(エフエムふくやま)	
126	マルドリ方式の普及における団地型マルドリ方式の可能性	齋藤仁蔵	2014.1	和歌山県かんきつ生産振興協議会生産者研修会	320 名
127	近年開発された大豆の新たな品種と栽培技術	岡部昭典	2013.7	近畿産大豆生産・需要拡大協議会	30 名

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名等	巻(号),頁
128	国産大豆の課題と問題解決のための研究	岡部昭典	2013.11	近畿産大豆生産・需要拡大協議会現地検討会	65名
129	大豆新品種「はつさやか」および「あきまる」の特性	岡部昭典	2014.2	近畿産大豆生産・需要拡大協議会	60名
130	国産大豆増産に挑戦！～気むずかしいけど和食に欠かせぬ貴重な作物の話～	岡部昭典	2013.8	第6回食と農のサイエンスカフェ in ふくやま	17名
131	注目の農業技術「IPM」"天敵"利用して安心野菜を	安部順一郎,三浦一芸	2013.8	TSS スーパーニュース	
132	害虫退治は住み込みの「天敵」におまかせ！～環境にやさしい防除法の提案～	安部順一郎	2013.6	第5回食と農のサイエンスカフェ in ふくやま	30名
133	景観植物スカエボラを使った天敵温存技術について	安部順一郎	2013.8	安芸集出荷場園芸研究会ナス部会勉強会	40名
134	害虫から野菜を守る！虫担当の研究員の仕事	安部順一郎	2013.8	チャレンジジウィークふくやま体験プログラム	10名
135	害虫と闘う仕事 研究の力で新しい闘い方を作る	安部順一郎	2013.10	近畿大学附属福山中学校「事業所体験」プログラム	5名
136	中山間農業地帯における露地栽培へのソーラーポンプを利用した点滴灌水技術の導入効果	渡邊修一	2013.12	平成25年度農食研究推進事業「地球温暖化の抑制と水質保全に資する地域資源活用型農地管理技術の実証と導入促進」シンポジウム	90名
137	日射式拍動灌水装置による露地野菜での減肥栽培	渡邊修一	2013.11	平成25年度東海地域マッチングフォーラム「新技術の導入による化学肥料節減の推進」	107名
138	小型ソーラーパネルで日射量に対応した自動灌水を実現！	渡邊修一	2014.3	第4回農研機構新技術説明会	74名
139	大規模経営体の有無と離農率・耕作放棄地率	渡部博明	2013.11	技術の窓	No.1954
140	中山間の特性を活かした園芸生産技術	長崎裕司	2013.5	第29回日本農業工学会シンポジウム「次世代へつなぐ生物生産一激化する国際競争下での新たな農作業システムの展開」	100名
141	再生可能エネルギーの農業利用と展望—中・小規模省エネハウスを例として—	長崎裕司	2013.7	鹿児島県平成25年度農業機械・装置部門試験成績実演検討会	150名
142	中山間の中小規模向け夏秋トマト安定生産技術開発の成果と技術普及展望	長崎裕司	2013.11	平成25年度夏秋トマト安定生産技術開発に関する研究成果発表会「低段密植と暑熱対策による夏秋トマト安定生産技術開発成果と展望」	78名
143	マルチシートを使った栽培と資材の選択	國賀武	2014.1	香川の果樹	167,23-25
144	高温登熟とどう向き合う？	長田健二	2013.8	2013 中国四国土を考える会 夏期研修会	約40名
145	水稲高温障害について	長田健二	2013.10	愛媛県松山市農業委員会研修	30名
146	稲の高温障害について	長田健二	2013.12	和歌山県日高町農業委員会研修	19名
147	胴割れ米の発生要因と対策	長田健二	2013.9	平成25年度革新的農業技術に関する研修会「水稲の高温障害対策技術」	約20名
148	水稲高温障害に対応した技術対策と品質・食味向上について	長田健二	2014.2	平成25年度西讃地域「おいでまい」栽培者県外研修	約25名
149	水稲の高温障害とその対策技術について	長田健二	2014.2	平成25年度水稲栽培技術研修会（香川県農政水産部農業経営課主催）	約30名

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
150	圃場整備後のカンキツ園における浮遊土砂の流出特性	向井章恵	2013.10	平成 25 年度革新的農業技術に関する研修 果樹栽培(かんきつ)の省力・軽労化と高品質安定栽培技術	20 名
151	Development of Paddy Rice Cultivation Techniques to Overcome Global Warming	長田健二	2013.5	JICA 中国国際センター平成 25 年度国別研修ケニア「水田二毛作振興」	7 名
152	大豆におけるマーカー育種	高田吉丈	2013.9	平成 25 年度革新的農業技術習得支援研修「大豆の高位安定性生産技術」	17 名
153	超低コスト土地利用型作物生産技術の開発 第 5 章 温暖地湿田型水田輪作地帯 6 鉄コーティング種子を用いたイネ湛水直播栽培とトリプルカット播種機を用いたムギ・ダイズ栽培による低コスト水田輪作システムの構築と実証 (4) 土壌水分制御によるダイズ収量の安定化と作期拡大	竹田博之	2013.9	プロジェクト研究成果シリーズ 第 503 集 担い手の育成に資する IT 等を活用した新しい生産システムの開発	503(暫定版 5-6), 8-13
154	第 2 章 水田の地下水位制御を核とした高度地域輪作システムの確立 5 近畿中国四国地域における地下水位制御を核とした地域輪作システムの確立	竹田博之, 岡部昭典, 竹原利明, 望月秀俊, 松森堅治, 石川直幸, 大谷一郎, 伏見昭秀, 橘雅明, 藤本寛, 窪田潤, 坂本英美, 奥野林太郎	2013.9	プロジェクト研究成果シリーズ・第 528 集 水田の潜在能力発揮等による農地周年有効活用技術の開発ー土壌養水分制御技術を活用した水田高度化技術の開発ー	528(暫定版 5-1), 1-15
155	大豆の栽培について	竹田博之	2014.2	農業者研修(兵庫西農協神崎営農センター)	22 名
156	ジャガイモ共生微生物相の解明及び生育促進微生物の選抜と微生物資材化の試み	染谷信孝, 関口博之	2013.7	農業微生物研究シンポジウム	150 名
157	野菜の抗酸化活性(機能性)について	福永亜矢子	2014.1	農業のライフアンドワーク(FM いかる)	
158	たちすずかの品種特性とその利用について	中込弘二	2013.10	稲 W C S 専用品種「たちすずか」現地検討会(岐阜県)	70 名
159	W C S 用イネ専用品種「たちすずか」「たちあやか」の栽培・利用について	中込弘二	2013.10	「たちすずか」等 W C S 用イネ専用品種現地研修会(岡山県)	30 名
160	近畿地域に適した多収性専用品種の生産技術について	中込弘二	2014.2	平成 25 年度近畿地域飼料増産行動会議	80 名
161	Ⅲ. 「たちすずか」の効率的種子生産技術	藤本寛, 勝場善之助(広島県立総合技術研究所農業技術センター)	2013.10	高糖分飼料イネ「たちすずか」栽培技術マニュアル	*20-23
162	農業用ロボットの開発動向ーイチゴ収穫ロボットと小型除草ロボット開発の事例を中心に	長崎裕司	2013.6	かがわ次世代ものづくり研究会(ロボット分野)	45 名
163	土壌の健康診断に基づいたアブラナ科野菜根こぶ病の診断・対策支援マニュアル	村上弘治	2014.2	健康診断に基づく土壌病害管理ヘソディム 指導者向けマニュアル((独)農業環境技術研究所)	*81-108
164	小麦の加工特性 ～分子遺伝学的基礎と品種改良への応用～	池田達哉	2013.12	長崎県立大学特別講義	20 名
165	第 4 章 地域植物資源によるバイオフェューミゲーションを基幹とした温暖地有機野菜生産体系の高度化 1 カラシナ、エンバク等の効果的鋤き込み方法の検討と夏作ハウレンソウにおける防除効果の検証	竹原利明, 須賀有子, 吉田祐子, 石岡 巖	2014.3	プロジェクト研究成果シリーズ 第 526 集 気候変動に対応した循環型食料生産等の確立のための技術開発ー有機農業の生産技術体系の確立ー	526(暫定版 2-4), 1-5
166	カラシナ等植物のすき込みによるバイオフェューミゲーション	竹原利明	2013.9	技術と普及	50,65
167	低コスト稲作について	藤本寛	2013.10	松山市農業委員会研修	30 名
168	大豆「あきまる」晩播と難防除雑草防除	窪田潤	2014.1	平成 25 年度近畿中国四国農業試験研究推進会議	31

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
169	人工光型植物工場とリーフレタス栽培の現状	吉越恆	2014.2	九州沖縄農業試験研究推進会議	11
170	農業環境工学分野における生育モニタリング技術	吉越恆	2014.1	近畿中国四国農業試験研究推進会議	32
171	鳥取県東部における「たちすずか」の乾田直播栽培	窪田潤	2013.10	高糖分試料イネ「たちすずか」栽培技術マニュアル(近中四農研)	*33-35
172	地域で取り組むサル対策	上田弘則	2014.3	山口県中部鳥獣被害広域対策協議会	100名
173	「たちすずか」等飼料用稲の収穫・調製について	高橋仁康	2013.10	平成25年度中四国地域マッチングフォーラム	100名
174	長程飼料用稲に対応した低コスト収穫システムとデントコーンへの応用	高橋仁康	2013.11	平成25年度高糖分飼料イネ「たちすずか」普及連絡会現地検討会(愛媛県)	70名
175	農食研究推進事業への経緯	高橋仁康	2014.1	農業環境工学部会推進会議	31名
176	冷凍空調便覧IV巻(第6版)食品・生物編 第7章 微生物の凍結と乾燥 第2節 凍結と乾燥による系統保存 第1項 真菌 (a)糸状菌	富岡啓介	2013.8	日本冷凍空調学会	*,310-312
177	土壌への各種有機物の混和がホウレンソウ萎凋病菌抑制効果に及ぼす影響	関口博之,竹原利明,野見山孝司,富岡啓介,大崎秀樹,宮川久義	2014.3	平成25年度近畿中国四国農業試験研究推進会議病害虫推進部会	50名
178	新規特性(超高β-グルカン、高アミロース、黒粒など)はだか麦系統の紹介	高橋飛鳥	2013.9	高β-グルカン大麦利用連絡会』オフラインミーティング	125名
179	アブラナ科植物等の鋤き込みによる土壌消毒技術の開発	竹原利明	2013.11	平成25年度野菜茶業試験研究推進会議 野菜病害虫部会 野菜病害虫研究会	46名
180	天敵昆虫類の温存に適した景観植物の選定 現状と今後の展望	安部順一朗	2014.3	平成25年度近畿中国四国農業試験研究推進会議 病害虫推進部会問題別研究会	50名
181	「第5回 食と農のサイエンスカフェ in ふくやま」の紹介	安部順一朗	2013.6	おはようときめきタイム	
182	天敵および天敵温存植物の利用について	安部順一朗	2014.2	JA 倉敷かさや笠岡営農センターナス部会勉強会	7名
183	高β-グルカン大麦とは!? -大麦パワーでもっとおいしく、もっと健康に-	吉岡藤治	2013.5	平成25年度香川県栄養士会総会・研修会	約150名
184	大麦について-大麦パワーでもっとおいしく、もっと健康に-	吉岡藤治,高橋飛鳥	2013.6	第1回 大麦ロマン~黄金色のおくりもの~	約30名
185	食物繊維が豊富な機能性食材“大麦”	吉岡藤治	2013.8	平成25年度香川県栄養士会研究教育部及び勤労者支援部研修会	約15名
186	大麦・はだか麦・もち麦のはなし~食物繊維が豊富な、瀬戸内特産の機能性食材~(いつ食べるか?今でしょ!)	吉岡藤治	2013.10	四国研究センター 食と農のサイエンスカフェ	25名
187	大麦とは~注目される健康機能性~	吉岡藤治,高橋飛鳥	2013.11	第2回大麦ロマン~黄金色の贈り物~	約200名
188	「温故知新」-放育場で学んだこと-	吉岡藤治	2014.3	ガンマーフィールドシンポジウム50周年記念誌	*,158-160
189	マルドリ方式の普及にみる団地型マルドリ方式のメリットと可能性	齋藤仁蔵	2014.3	和歌山の果樹	65(3),12-18
190	水稲温暖化対策について	長田健二	2014.3	淡路広域行政事務組合 農業共済事務所 農業者研修	約20名
191	水質負荷指標とLCAの統合化	高橋英博,渡邊修一,松森堅治	2014.3	農食事業 地球温暖化の抑制と水質保全に資する地域資源活用型農地管理技術の実証と導入促進	*,107-116

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
192	地域資源活用型農地管理技術のLCA	志村もと子	2013.6	草地酪農地帯における地域資源活用型農地管理技術の実証とその評価	70
193	茎葉が多収で、糖含量が高く、倒れにくいイネ発酵粗飼料用水稲品種「たちすずか」	出田収	2013.4	グリーンレポート (JA 全農)	526,14-15
194	茎葉多収で高糖分含量の飼料用水稲品種「たちすずか」の特性	中込弘二, 出田収, 松下景	2013.10	高糖分飼料イネ「たちすずか」栽培技術マニュアル(農研機構近畿中国四国農業研究センター)	*4-10
195	製法および品種の異なる米粉の食品加工適性～国産米消費拡大をめざして～	船附稚子	2013.10	平成 25 年 広島県立総合研究所 食品工業技術センター 研究成果発表会 招待講演	51 名
196	産地ブランド確立による収益性向上の実現に向けたマルドリ方式の高度利用	根角博久	2014.1	果実日本	69(1),55-60
197	産地ブランド確立による収益性向上の実現に向けたマルドリ方式の高度利用	根角博久	2013.9	マルドリ方式のカンキツ生産技術フォーラム	*1-8
198	マルドリ方式による高品質安定生産技術の基礎と高度利用	根角博久	2013.10	平成 25 年度 革新的農業技術に関する研修資料	*1-8
199	マルドリ方式を活用した産地ブランド型カンキツ作営農モデル	根角博久	2013.9	今後めざすべき地域農業営農モデルの実現に向けた技術開発に向けた研究会(独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構総合企画部 研究戦略チーム)	*83-87
200	WCS 用稲収穫・調製の慣行体系と基地調製体系	高橋仁康, 寺元郁博	2014.3	高糖分飼料イネ「たちすずか」等に対応した収穫・調製支援マニュアル	*6-19
201	目指せ省エネ NO.1、強風にも負けないパイプハウスの開発	川嶋浩樹	2014.3	農業電化	67(2),6-12
202	小型除草ロボットによるシバ植生管理技術の開発	伏見昭秀	2014.3	国産農産物の革新的低コスト実現プロジェクト研究課題「小型ロボットによる畦畔除草等自動化技術の開発」平成 25 年度成果報告書	*8-10
203	中山間地域における有機農業の課題と展開方向	尾島一史	2013.10	新有機プロ中間検討会	30 名
204	盆地霧による日射の遮蔽が起こる地域の推定手法の開発	佐藤恵一	2013.7	中国四国農業気象協議会	約 30 名
205	盆地霧による日射の遮蔽が起こる地域の推定手法の開発	佐藤恵一	2014.2	近畿農業気象協議会	約 20 名
206	夏場のハウスを冷やす新しい資材について	村上健二	2013.11	農業のライフアンドワーク (FM いかる)	
207	四国におけるネギアザミウマ生殖系統の分布とその薬剤抵抗性	十川和士(香川農試), 渡邊文夫(香川農試), 伊藤政雄(高知農試), 武智和彦(高知農試), 三浦一芸	2013.12	植物防疫	67, 666-671
208	山口大学の植物工場における人材育成の取り組み	山本晴彦(山口大学農学部), 吉越恆	2013.7	季刊 栄養教諭	32,64-69
209	3D 映像と GIS を融合した洪水時における安全な避難路の見える化ツールの研究開発	山本晴彦(山口大学農学部), 岩谷潔(山口大学農学部), 伊藤重稔(株式会社エヌユーエス), 吉越恆, 弘中淳一(株式会社エヌユーエス)	2013.10	ICT イノベーションフォーラム 2013	*,*
210	直売所における切り花需要量の予測	吉田晋一	2013.10	農業日誌(一般財団法人農林統計協会)	平成 26 年,314
211	高保温・高強度なパイプハウスの開発	川嶋浩樹	2013.11	農業日誌(日誌のしおり)	*302-303
212	畦畔管理省力化 地被植物味方に	伏見昭秀	2013.8	日本農業新聞	総 16
213	ダイズ害虫の防除対策	菊地淳志	2013.7	新農林技術新聞	11

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
214	水稲の虫害防除のポイント	菊地淳志	2013.5	農業共済新聞	4月5日
215	大豆害虫防除のポイント	菊地淳志	2013.5	日本農業新聞	8面
216	病害虫図鑑「イチモンジカメムシ」	菊地淳志	2013.4	日本農業新聞	14面
217	タブレットを活用 栽培データの共有システム ITで高品質安定生産	植山秀紀	2013.11	農業共済新聞	9面
218	「マルドリ方式」を導入するために必要な高品質果実の出荷比率の目標値	棚田光雄	2013.9	マルドリ方式のカンキツ生産技術フォーラム 高収益を実現する産地ブランド型生産体系の確立を目指して	*39
219	定期的に都市部の仮設店舗で直接販売 新ビジネス「出張直売」	室岡順一	2014.2	農産物直売所の新ビジネス－生産者と消費者への新たな顧客価値の提案－	*20-25
220	遮光除去・適期出荷で品質アップ 高温期のハウレンソウ栽培技術	吉田祐子	2013.5	開拓情報	5面
221	高温下のハウレンソウ栽培 遮光調節し高品質化	吉田祐子	2013.6	日本農業新聞	16面
222	夏作ハウレンソウの遮光栽培へ収穫前の遮光除去を導入	吉田祐子	2013.11	平成26年度版農業日誌「日誌のしおり」	*218-219
223	天敵住まわせ害虫さよなら	安部順一朗	2013.6	中国新聞	22面
224	複数天敵を温存 ヒメハナカメムシスワルスキー 冬場も定着・増殖	安部順一朗	2013.10	日本農業新聞	16面
225	高保温・高強度な次世代型パイプハウスの開発	川嶋浩樹	2014.1	施設と園芸	164,16
226	バーベナが天敵増殖 タバコカスミカメ放飼 ハウス内で試験	安部順一朗	2013.12	日本農業新聞	14面
227	天敵移動促す バンカー植物 スカエボラつり下げ	安部順一朗	2013.11	日本農業新聞	16面
228	水稲乾田少量直播に挑戦 種もみ3分の1に	藤本寛	2013.9	日本農業新聞	14面
229	キトサン 水に溶けやすく トマト疫病に効果	宮川久義	2013.12	日本農業新聞	16面
230	畦畔管理研究で被災地の復興支援!	伏見昭秀	2014.2	日本農業新聞	6面
231	マルドリ方式高度利用のための点滴かん水施肥設計概念	根角博久	2013.9	マルドリ方式のカンキツ生産技術フォーラム	*9
232	マルドリ方式の活用によるカンキツ若木の生育促進	根角博久	2013.9	マルドリ方式のカンキツ生産技術フォーラム	*16
233	直売所を核に有機農産物等を有利販売 新ビジネス「有機農産物等の販売」	尾島一史	2014.2	『農産物直売所の新ビジネス－生産者と消費者への新たな顧客価値の提案－』	26-31

V 研究情報活動

3. 知的財産権

1) 産業財産権の登録および出願

【国内特許】

特許権等の名称	発明者 (共同発明者)	出願年月日	登録年月日および 登録番号
播種ロール及び播種機	窪田潤、佐藤達也、高橋仁康、亀井雅浩、藤本寛、奥野林太郎	H21.2.10	平成 25.4.19 特許第 5246867 号
小麦の穀粒硬度及び小麦粉の粒径を低下させる方法	谷中美貴子、池田達哉、高田兼則	H20.1.22	平成 25.6.14 特許第 5288534 号
灌水装置	根角博久、平岡潔志、星典宏、(島根県、キョーワガス産業(株)、(国)山口大学)	H21.11.2	平成 25.9.6 特許第 5354500 号
高設栽培装置と、高設栽培装置における透湿防水シートの施行方法	山崎敬亮、熊倉裕史、浜本浩、岩本辰弘	H20.12.24	
遺伝的に飛翔能力を欠くテントウムシの作出方法	世古智一、三浦一芸、((国)岡山大学)	H21.1.13	
大麦粉の製造方法	高田兼則、柳澤貴司、池田達哉、谷中美貴子	H21.6.2	
神経突起伸展促進剤	川瀬眞市朗、池田達哉、高田兼則	H21.9.14	
切り花収穫機及び切り花収穫方法	田中宏明、中元陽一、松崎健文、長崎裕司、香川将志、大黒正道、岡信光、畔柳武司、(みのる産業(株)、奈良県)	H21.10.13	
リン脂質及び／又はリゾリン脂質の抽出方法	川瀬眞市朗	H22.3.25	
果実の着色調整方法	國賀武	H22.12.27	
イチゴの花芽分化促進方法	山崎敬亮、熊倉裕史、浜本浩	H22.12.28	
オーキシン生合成阻害剤	添野和雄、((独)理化学研究所)	H23.2.28	
NK細胞活性化剤、NK細胞活性化方法及びスクリーニング方法	齋藤武	H23.3.1	
植物栽培装置及び植物栽培装置における可動ベッドの運用方法	長崎裕司、中元陽一、川嶋浩樹、畔柳武司	H23.3.3	
ネット回収装置及びこれを用いたネット回収方法、ネット展張方法	田中宏明、松崎健文、加賀宇昌宏、塩本知、中元陽一、長崎裕司	H23.3.16	
レール式薬剤散布装置	長崎裕司	H23.3.22	
自動灌水方法及びその装置	長崎裕司、吉川弘恭、川嶋浩樹	H23.3.22	
農業用傾斜地構造	澤村篤、星典宏、根角博久、川嶋浩樹、細川雅敏	H23.3.29	
農地の水分管理システム	澤村篤、星典宏、根角博久	H23.3.30	
農業用ハウス 1	星典宏、根角博久、川嶋浩樹、長崎裕司、澤村篤	H23.3.29	
農業用ハウス 2	澤村篤、星典宏、川嶋浩樹、長崎裕司、畔柳武司	H23.3.29	
農業用ハウス 3	澤村篤、星典宏、川嶋浩樹、長崎裕司、柴田昇平	H23.3.31	
温室構造体および温室構造体の温度調整方法	澤村篤、川嶋浩樹、(住友大阪セメント(株))	H23.7.20	
かん水制御装置及びかん水制御方法	星典宏、井上久義、植山秀紀、根角博久	H23.9.16	
排土板及び排土装置	田中宏明、中元陽一、岡信光、松崎健文、藤川益弘	H23.10.18	
単軌条運搬機の停止位置自動制御装置	中元陽一、角川修、田中宏明、岡信光、松崎健文	H23.10.18	
オオムギ属植物の 1H 染色体の一部を導入することによる小麦粉の生地物性を向上させる方法	池田達哉、高田兼則、(日本製粉(株)、国立大学法人岡山大学)	H24.9.14	
アタッチメント及びこれを用いた果樹根元処理方法	田中宏明、藤川益弘、岡信光、中元陽一、(兵庫県立農林水産技術総合センター)	H24.10.17	

V 研究情報活動

特許権等の名称	発 明 者 (共同発明者)	出願年月日	登録年月日および 登録番号
小麦ふすま、大麦糠、または米糠由来するペプチドを含む脂肪性肝疾患を処置するための組成物	野方洋一、 (学校法人 久留米大学)	H24.10.19	
オーキシン生合成阻害剤	添野和雄、 (公立大学法人 横浜市立大学)	H24.12.19	
測定装置	柴田昇平、植山秀紀、 (九州沖縄農業研究センター)	H25.2.25	
土壌採取補助具及び土壌採取方法	田中宏明、岡信光、藤川益弘、松 上勝利、中元陽一、大谷恭史	H25.2.27	
ボロン酸基を有するオーキシン生合成阻害剤	添野和雄、石井貴広、 (公立大学法人 横浜市立大学)	H25.3.4	
地域集中探索型天敵の作出方法	世古智一、三浦一芸	H25.4.16	
植物生育環境調節装置	長崎裕司、山崎敬亮、 (大阪府環境農林水産総合研究所、 奈良県農業技術センター、鳥取大 学、大日本プラスチック(株)、 (株)ヴェイル)	H25.5.2	
単粒化した鉄粉被覆稲種子の製造方法	山内稔	H25.5.13	
植物の生育促進剤	関口博之、 (北海道農業研究センター、東北大 学、帯広畜産大学)	H25.7.12	

※ 新たに登録された特許及び現在出願中の特許について掲載。

2) 新品種の登録および出願

【品種登録】

農林水産植物の種類	出願品種の名称	育 成 者 (共同育成者)	出願年月日	登録年月日および 登録番号
ヤーコン	アンデスの乙女	中西建夫、藤野雅丈、 中路純子、石川浩一、 杉浦誠	H23.3.24	H26.2.12 第 23007 号
レタス	ウィンターパワー	藤野雅丈、石川浩一、 中路純子、 (兵庫県立農林水産技術総合 センター、香川県農業試験 場)	H23.12.21	H25.9.26 第 22657 号
水 稻	たちあやか	松下景、石井卓朗、 出田収、飯田修一、 春原嘉弘、前田英郎	H24.3.28	H26.3.12 第 23275 号
水 稻	はいごころ	松下景、石井卓朗、 出田収、飯田修一、 春原嘉弘、前田英郎	H24.3.28	H26.3.12 第 23276 号
水 稻	コシヒカリ近中四 S B L 1 号	出田収、前田英郎、 石井卓朗、松下景、 飯田修一、根本博、 春原嘉弘、(作物研究所)	H24.4.23	H26.3.14 第 23319 号

【出願品種】

農林水産植物の種類	出願品種の名称	育 成 者 (共同育成者)	出願年月日	登録年月日および 登録番号
大 麦	ハルヒメボン	吉岡藤治、高橋飛鳥、 柳澤貴司、長嶺敬、 高山敏之、土井芳憲、 松中仁、藤田雅也、 土門英司、杉浦誠、 伊藤昌光	H24.3.28	

V 研究情報活動

農林水産植物の種類	出願品種の名称	育成者 (共同育成者)	出願年月日	登録年月日および 登録番号
小麦	せときらら	高田兼則、渡邊美貴子、 石川直幸、池田達哉、 船附稚子	H24.11.8	
水稲	せとのかがやき	石井卓朗、出田収、 中込弘二、松下景、 春原嘉弘、前田英郎、 飯田修一	H25.4.17	

※ 新たに登録された品種および現在出願中の品種について掲載。

V 研究情報活動

4. 広報活動

1) 記者発表（資料配付含む）

年月日	発表内容
H25.5.7	水稲直播栽培技術に関する学習会のご案内
H25.5.21	鳥獣被害対策技術指導研修会のご案内
H25.7.1	島根県美郷町と農研機構近畿中国四国農業研究センターとの包括的研究協定締結について（ご案内）
H25.8.9	第1回「高β-グルカン大麦利用連絡会」オンラインミーティングの開催について
H25.8.16	平成25年度中国四国地域マッチングフォーラムのご案内「稲発酵粗飼料用水稲品種『たちすずか』等を核とした耕畜連携システム」
H25.8.27	マルドリ方式のかんきつ生産技術フォーラム「高収益を実現する産地ブランド型生産体系の確立を目指して」のご案内
H25.8.28	農研機構近畿中国四国農業研究センター福山本所（広島県福山市）一般公開のご案内
H25.9.20	平成25年度近畿地域マッチングフォーラムのご案内「生産者と消費者の双方の利益を結びつける農産物直売システム」
H25.10.10	農研機構近畿中国四国農業研究センター四国研究センター一般公開のご案内 ～食と農のサイエンスカフェ「大麦・はだか麦・もち麦のはなし」同時開催～
H25.10.11	製パン性に優れ、多収のパン用小麦新品種「せときらら」
H25.10.29	農研機構近畿中国四国農業研究センター綾部研究拠点一般公開のご案内
H25.11.20	平成25年度農研機構シンポジウム「地域資源を活用した環境保全型農業生産技術とその多面的環境評価」のご案内

2) 近畿中国四国農業研究センター刊行物（会議資料等除く）

刊行物名	発行年月	印刷数
近畿中国四国農業研究成果情報（平成24年度）	H25.5	Web公開
近畿中国四国農業研究センター年報 平成24年度	H25.6	Web公開
近中四農研ニュース No.49	H25.7	950
近中四農研ニュース No.50	H25.9	950
近中四農研ニュース No.51	H25.12	950
図説近畿中国四国地域農業 2012	H26.2	300
近中四農研ニュース No.52	H26.3	950
近畿中国四国農業研究センター研究報告 第13号	H26.3	650
近畿中国四国農業研究センター研究資料 第11号	H26.3	610
近畿中国四国農研農業経営研究 第24号	H26.3	430

3) 一般公開、イベント、講演会、シンポジウム等の開催

一般公開

一般公開のテーマ名	主催者（共催）	開催年月	開催場所	参加者数
春のミニ一般公開	近畿中国四国農業研究センター	H25.4	福山本所	238名
ミニ公開（四国）	近畿中国四国農業研究センター	H25.4	四国研究センター	1,493名
みてみよう！食をささえる農業研究	近畿中国四国農業研究センター	H25.9	福山本所	1,354名
未来に羽ばたく四国農業！！農業でニッポンを元気に	近畿中国四国農業研究センター	H25.10	四国研究センター	886名
一般公開	近畿中国四国農業研究センター	H25.11	大田研究拠点	290名
食の未来と環境を守る野菜づくり	近畿中国四国農業研究センター	H25.11	綾部研究拠点	291名

V 研究情報活動

イベント（一般公開以外の主催イベント）

イベント名	主催者（共催）	開催年月	開催場所	参加者数
食と農のサイエンスカフェ（四国・第1回）	近畿中国四国農業研究センター	H25.4	四国研究センター（善通寺市）	33名
第5回食と農のサイエンスカフェ in ふくやま	近畿中国四国農業研究センター	H25.6	福山本所（福山市）	29名
第6回食と農のサイエンスカフェ in ふくやま	近畿中国四国農業研究センター	H25.8	福山本所（福山市）	26名
食と農のサイエンスカフェ（四国・第2回）	近畿中国四国農業研究センター	H25.10	四国研究センター（善通寺市）	29名
第7回食と農のサイエンスカフェ in ふくやま	近畿中国四国農業研究センター	H25.11	福山本所（福山市）	30名
第8回食と農のサイエンスカフェ in ふくやま	近畿中国四国農業研究センター	H25.12	福山本所（福山市）	30名

科学技術離れ対策の協力状況（サイエンスキャンプ、出前レクチャーなど）

イベント名	主催者（共催）	開催年月	開催場所	参加者数
小学校出前授業	島根県三郷町立邑智小学校	H25.4	邑智小学校	40名
小学校出前授業	島根県三郷町立邑智小学校	H25.6	邑智小学校	40名
野菜の育て方の講義	京都府綾部市立綾部小学校	H25.7	綾部小学校	100名
職場体験学習	福山暁の星女子高等学校	H25.7	福山本所	17名
職場体験学習「チャレンジウィーク ふくやま」	福山市教育委員会	H25.8	福山本所	10名
サイエンスセミナー「命を感じる和牛ファーム体験」	島根県立大田高等学校	H25.9	大田研究拠点	40名
事業所体験学習	近畿大学附属広島中学校福山校	H25.10	福山本所	5名
インターンシップ	島根県立瀬摩高等学校	H25.10	大田研究拠点	2名
小学校出前授業	島根県三郷町立邑智小学校	H25.10	邑智小学校	40名

科学技術離れ対策以外のイベントへの協力および参画状況

イベント名	主催者（共催）	開催年月	開催場所
ベーカリー素材 EXPO2013	ベーカリー素材 EXPO 実行委員会	H25.5	東京ビッグサイト（東京都江東区）
香川県栄養士会研修会	香川県栄養士会	H25.5	香川県社会福祉総合センター（香川県高松市）
パワフルアグリフェア	JA グループ栃木	H25.7	みずほの自然の森公園（栃木県宇都宮市）
和牛入門ゼミナール（実習の部・西日本）	全国和牛登録協会／全国肉用牛振興基金協会	H25.9	大田研究拠点
おおだ秋の彼岸市	大田商工会議所	H25.9	大田町本通り（島根県大田市）
アグリビジネス創出フェア 2013	農林水産省	H25.10	東京ビッグサイト（東京都江東区）
しまなみ・かんきつフェスタ 2013	愛媛県東予地方局今治支局産地育成室、上島町、越智今治農業協同組合	H25.11	愛媛県東予地方局今治支局産地育成室技術普及グループ岩城駐在所（愛媛県越智郡）
第2回大麦ロマン～黄金色の贈り物～	(株) 高畑精麦	H25.11	旧善通寺偕行社（香川県善通寺市）
食のブランドニッポン 2013	農研機構・森林総研・国際農林水産業研究センター	H25.11	ホテル日航東京（東京都港区）
中国四国農政局消費者の部屋特別展示	中国四国農政局	H25.12	中国四国農政局（岡山県岡山市）
アグリミーティング in 島根	JA 全農島根県本部	H26.1	くにびきメッセ（島根県松江市）
近畿農政局消費者の部屋特別展示	近畿農政局	H26.2～3	近畿農政局／京都中央郵便局（京都府京都市）

V 研究情報活動

イベント名	主催者（共催）	開催年月	開催場所
JA グループ国産農畜産物商談会	JA 全農、JA バンク、JA 全中	H26.3	東京国際フォーラム 展示ホール (東京都千代田区)

シンポジウム・セミナー

シンポジウム・セミナー名など	主催者（共催）	開催年月	開催場所	参加者数
水稻直播栽培技術に関する学習会（第2回）	近畿中国四国農業研究センター	H25.5	四国研究センター (香川県善通寺市)	28名
水稻直播栽培技術に関する学習会（第3回）	近畿中国四国農業研究センター	H25.7	四国研究センター (香川県善通寺市)	31名
農研機構マルドリ方式のカンキツ生産技術フォーラム「高収益を実現する産地ブランド型生産体系の確立を目指して」	近畿中国四国農業研究センター、山口県	H25.9	山口県大島防災センター (山口県大島郡)	169名
第1回『高β-グルカン大麦利用連絡会』オンラインミーティング	近畿中国四国農業研究センター	H25.9	岡山国際交流センター (岡山県岡山市)	125名
平成25年度中国四国地域マッチングフォーラム	農林水産省農林水産技術会議事務局、近畿中国四国農業研究センター	H25.10	東広島市市民文化センター (岡山県岡山市)	115名
平成25年度夏秋トマト安定生産技術開発に関する研究成果発表会	近畿中国四国農業研究センター	H25.11	徳島県立農林水産総合技術支援センター (徳島県名西郡)	78名
平成25年度近畿地域マッチングフォーラム	農林水産省農林水産技術会議事務局、近畿中国四国農業研究センター	H25.11	エル・おおさか (大阪府大阪市)	70名
高糖分飼料イネ「たちすずか」普及連絡会現地検討会	近畿中国四国農業研究センター	H25.11	宇和島市愛媛県畜産研究センター/宇和島市ホテルクレメント (愛媛県宇和島市)	76名
平成25年度農研機構シンポジウム	農研機構、近畿中国四国農業研究センター	H25.12	京都リーチパーク (京都府京都市)	83名
第4回根こぶ病研究会	近畿中国四国農業研究センター	H26.2	キャンパスプラザ京都 (京都府京都市)	73名
技術交流セミナー「布団資材を利用した保温技術と被覆資材の断熱性能評価法」	近畿中国四国農業研究センター	H26.2	四国研究センター (香川県善通寺市)	39名

4) 技術相談および見学

生産者：農協、農業関係公益法人なども「生産者」に含める

消費者：消費者団体も含める

青少年：幼稚園児～高校生

行政：国行政、県行政

研究機関：大学、公立試、国研、独法

民間：民間企業、民間団体、民間の試験研究機関

(1) 技術相談

相談方法	生産者	消費者	青少年	マスコミ	行政	研究機関	民間	海外	その他	合計
インターネットによる相談件数	7	0	0	0	13	10	7	0	1	38
電話による相談件数	81	7	0	10	38	24	27	0	11	198
面談による相談件数	39	1	5	2	15	18	57	0	4	141
その他の手段による相談件数	3	0	1	0	5	3	4	0	0	16
合計	130	8	6	12	71	55	95	0	16	393

(2) 見学者

	生産者	消費者	青少年	マスコミ	行政	研究機関	民間	海外	その他	合計
外部からの見学者数(人)	303	0	64	0	19	17	29	8	0	440

V 研究情報活動

5. 図書資料の収集・受入、サービス

1) 収書数

① 単行書

単位：冊

	和 書			洋 書			合計
	購入	寄贈交換	計	購入	寄贈交換	計	
本所（福山）	195	113	308	10	42	52	360
四国研究センター	39	13	52	3	0	3	55
綾部研究拠点	5	3	8	0	0	0	8
大田研究拠点	6	1	7	1	0	1	8
合 計	245	130	375	14	42	56	431

② 逐次刊行物

単位：誌

	和 書			洋 書			合計
	購入	寄贈交換	計	購入	寄贈交換	計	
本所（福山）	110	367	477	37	21	58	535
四国研究センター	89	278	367	33	5	38	405
綾部研究拠点	24	47	71	11	0	11	82
大田研究拠点	11	80	91	15	7	22	113
合 計	234	772	1,006	96	33	129	1,135

③ その他の資料

単位：冊

	和 書			洋 書			合計
	購入	寄贈交換	計	購入	寄贈交換	計	
本所（福山）	0	65	65	0	3	3	68
四国研究センター	1	79	80	0	0	0	80
綾部研究拠点	0	24	24	0	5	5	29
大田研究拠点	0	56	56	0	11	11	67
合 計	1	224	225	0	19	19	244

2) 除籍数

単位：冊

	和 書			洋 書			合計
	単行書	逐次刊行物	計	単行書	逐次刊行物	計	
本所（福山）	11	65	76	0	0	0	76
四国研究センター	2	0	2	0	0	0	2
綾部研究拠点	0	0	0	0	0	0	0
大田研究拠点	0	0	0	0	0	0	0
合 計	13	65	78	0	0	0	78

(注) 逐次刊行物は、製本に換算した冊数

3) サービス

	文献複写（件）		相互貸借（件）		貸出（冊）
	依 頼	提 供	依 頼	提 供	
本所（福山）	156	72	11	29	360
四国研究センター	82	27	11	16	510
合 計	238	99	22	45	870

VI 研究交流

1. 研究員などの受入・研修

1) 国際農林水産業研究センター (JIRCAS) 研究員

国名	受入者所属機関名	受入先研究領域	期間
該当なし			

2) 国際協力機構 (JICA) 研究員

国名	受入者所属機関名	受入先研究領域	期間
該当なし			

3) 日本学術振興会 (JSPS) 研究員

国名	受入者所属機関名	受入先研究領域	期間
該当なし			

4) 科学技術振興機構 (JST) 研究員

国名	受入者所属機関名	受入先研究領域	期間
該当なし			

5) その他の制度等による海外研究員の受入

国名	受入者所属機関名	受入先研究領域	期間
該当なし			

6) 流動研究員

受入者所属機関名	受入先研究領域	期間
該当なし		

7) 依頼研究員

受入者所属機関名	受入先研究領域	期間	氏名
愛媛県農林水産研究所	作物機能開発研究領域	H25.10.7 ~ H25.11.8	辻田泉

8) 技術講習生

受入者所属機関名	受入先研究領域	期間	氏名
国立大学法人新潟大学大学院	畜産草地・鳥獣害研究領域	H25.7.16 ~ H25.7.26	堀井裕介
徳島県立農林水産総合技術支援センター	水田作研究領域	H25.7.17 ~ H25.7.19	米本謙悟
徳島県立農林水産総合技術支援センター	水田作研究領域	H25.7.17 ~ H25.7.19	馬場秀樹
新居浜工業高等専門学校	傾斜地園芸研究領域	H25.7.22 ~ H25.8.2	大西健太
新居浜工業高等専門学校	傾斜地園芸研究領域	H25.7.22 ~ H25.8.2	小倉尚人
静岡県農林技術研究所果樹研究センター	傾斜地園芸研究領域	H25.7.24 ~ H25.7.25	山家一哲
国立大学法人新潟大学大学院	水田作研究領域	H25.9.2 ~ H25.9.6	酒井直希
福山大学	水田作研究領域	H25.9.2 ~ H25.9.6	濱田理名
国立大学法人広島大学	畜産草地・鳥獣害研究領域	H25.9.17 ~ H25.9.20	佐藤美月

VI 研究交流

9) 国内留学

区 分	受入者所属機関名	研究課題	受入先研究領域	期 間
長期留学	該当なし			
短期留学	該当なし			

10) 連携大学院

受入者所属機関	研究課題	受入先研究領域	期 間
国立大学法人 広島大学	セミ類の交尾行動の進化生物学的研究	水田作研究領域	H25.4.1 ~ H26.3.31
国立大学法人 広島大学	アメンボタマゴクロバチ属の種間競争に関する進化生物学的研究	水田作研究領域	H25.4.1 ~ H26.3.31
国立大学法人 広島大学	共生微生物 Wolbachia や Rickettsia を利用した天敵昆虫の大量増殖への応用研究	水田作研究領域	H25.4.1 ~ H26.3.31

2. 研究員の派遣

1) 流動研究員

氏 名	所 属	研究課題	派 遣 先	期 間
該当なし				

2) 国内留学

区 分	所 属	氏 名	研究課題	派 遣 先	期 間
長期留学	該当なし				
短期留学	該当なし				

3) 海外派遣・出張

制度・事業等 区 分	所 属	氏 名	目 的	派 遣 先	期 間
長期在外研究 員制度	水田作研究領域	世古智一	アブラナ科植物の化学的防御の発達がキスジノミハムシ近縁種の寄生性天敵の行動に及ぼす影響に関する研究	オランダ王国 ワーヘニンゲン大学	H25.5.6 ~ H26.5.5

3. 技術協力・指導

1) 連携大学院への派遣

氏 名	所 属	派 遣 先	期 間
三浦一芸	水田作研究領域	国立大学法人広島大学	H25.4.1 ~ H26.3.31
黒瀬義孝	水田作研究領域	国立大学法人広島大学	H25.4.1 ~ H26.3.31

2) 他機関主催研修会等への講師派遣

氏 名	講 師 所 属	研 修 会 等 名	依 頼 者	期 間
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究 領域	平成 25 年度庄原市鳥獣害防 除対策研修「百歳まで楽し める野菜作り」	庄原市	H25.4.19 ~ H25.4.20
高田兼則	水田作研究領域	小麦栽培の現地研修会	たつの市集落営農連 絡協議会	H25.4.22 ~ H25.4.22
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究 領域	広島県農業協同組合青壮年 連盟第 65 回通常総会	広島県農業協同組合 青壮年連盟	H25.4.26 ~ H25.4.26
川嶋浩樹	傾斜地園芸研究領域	第 15 回施設園芸技術初級講 座「被覆資材の基礎知識」	一般社団法人日本施 設園芸協会	H25.5.15 ~ H25.5.16
吉岡藤治	作物機能開発研究領域	第 29 回定時総会及び研修会 「高βグルカン大麦とは！？ ～大麦パワーでもっとおい しく、もっと健康に～」	公益社団法人香川県 栄養士会	H25.5.18 ~ H25.5.18

VI 研究交流

氏名	講師所属	研修会等名	依頼者	期間
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	平成25年度庄原市鳥獣害防除対策研修「百歳まで楽しめる野菜作り」	庄原市	H25.5.18 ~ H25.5.19
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	平成25年度第1回九州地区果樹試験場長会の講演会および平成25年度九州沖繩農業試験研究推進会議果樹推進部会研究会	九州地区果樹試験場長会	H25.5.22 ~ H25.5.24
江口祐輔	畜産草地・鳥獣害研究領域	大分県鳥獣害対策アドバイザー研修会	大分県	H25.6.11 ~ H25.6.14
上田弘則	畜産草地・鳥獣害研究領域	大分県鳥獣害対策アドバイザー研修会	大分県	H25.6.11 ~ H25.6.14
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	平成25年度庄原市鳥獣害防除対策研修「百歳まで楽しめる野菜作り」	庄原市	H25.6.15 ~ H25.6.16
根角博久	傾斜地園芸研究領域	団地型マルドリ施設の設置・管理技術等にかかる講演会・現地指導	三重南紀元気なみかんの里創生プロジェクト協議会	H25.6.18 ~ H25.6.20
向井章恵	傾斜地園芸研究領域	団地型マルドリ施設の設置・管理技術等にかかる講演会・現地指導	三重南紀元気なみかんの里創生プロジェクト協議会	H25.6.18 ~ H25.6.20
畔柳武司	傾斜地園芸研究領域	平成25年度高知県専門技術高度化研修(野菜)「効率的な炭酸ガス施用について」	高知県農業振興部環境農業推進課	H25.6.20 ~ H25.6.20
長崎裕司	傾斜地園芸研究領域	かがわ次世代ものづくり研究会ロボット分野平成25年度第1回勉強会	香川県産業技術センター	H25.6.25 ~ H25.6.25
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣被害対策勉強会	梶原町有害鳥獣被害対策協議会	H25.7.3 ~ H25.7.5
岡部昭典	水田作研究領域	平成25年度近畿産大豆生産・需要拡大協議会(第1回)	一般社団法人全国農業改良普及支援協会	H25.7.22 ~ H25.7.22
江口祐輔	畜産草地・鳥獣害研究領域	筑紫地区リーダー研修会	筑紫地区営農推進協議会	H25.7.23 ~ H25.7.24
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	平成25年度庄原市鳥獣害防除対策研修「百歳まで楽しめる野菜作り」	庄原市	H25.7.27 ~ H25.7.28
上田弘則	畜産草地・鳥獣害研究領域	大分県鳥獣害対策アドバイザー養成研修会	大分県	H25.7.30 ~ H25.8.2
江口祐輔	畜産草地・鳥獣害研究領域	大分県鳥獣害対策アドバイザー養成研修会	大分県	H25.7.31 ~ H25.8.2
井上久義	企画管理部	中国四国土を考える会夏期研修会	中国四国土を考える会	H25.8.8 ~ H25.8.9
高田兼則	水田作研究領域	平成25年度山口大学公開講座「小麦栽培から始めるパンづくり」	山口大学地域連携推進センター	H25.8.21 ~ H25.8.21
江口祐輔	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣害対策講演会	福島県農林水産部	H25.8.22 ~ H25.8.24
江口祐輔	畜産草地・鳥獣害研究領域	平成25年度鳥獣害防止指導者育成研修	埼玉県	H25.8.27 ~ H25.8.29
上田弘則	畜産草地・鳥獣害研究領域	平成25年度鳥獣害防止指導者育成研修	埼玉県	H25.8.27 ~ H25.8.29
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	「効率的な鳥獣被害対策のための集落点検・集落座談会」	徳島県南部総合県民局	H25.8.29 ~ H25.8.31
出田収	水田作研究領域	平成25年度東海地域飼料増産推進協議会及び飼料用稲(稲WCS)生産・利用現地研修	全国飼料増産協議会	H25.9.3 ~ H25.9.4
植山秀紀	傾斜地園芸研究領域	農業気象と環境に関する講演	香川県立農業大学校	H25.9.4 ~ H25.9.4
植山秀紀	傾斜地園芸研究領域	農業気象と環境に関する講演	香川県立農業大学校	H25.9.11 ~ H25.9.11
植山秀紀	傾斜地園芸研究領域	農業気象と環境に関する講演	香川県立農業大学校	H25.9.18 ~ H25.9.18
植山秀紀	傾斜地園芸研究領域	農業気象と環境に関する講演	香川県立農業大学校	H25.9.25 ~ H25.9.25
星典宏	傾斜地園芸研究領域	(公社)ふくい農林水産支援センターの研修「傾斜地におけるマルドリ方式と拍動灌水について」	公益社団法人ふくい農林水産支援センター	H25.9.5 ~ H25.9.6

VI 研究交流

氏名	講師所属	研修会等名	依頼者	期間
江口祐輔	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣被害対策研修会	菊川市有害鳥獣対策協議会	H25.9.11 ~ H25.9.12
川嶋浩樹	傾斜地園芸研究領域	第8回施設園芸技術中級講座「被覆資材の種類と利用」	一般社団法人日本施設園芸協会	H25.9.12 ~ H25.9.12
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	平成25年度静岡県鳥獣被害対策総合アドバイザー養成研修	静岡県経済産業部農山村共生課	H25.9.18 ~ H25.9.20
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	平成25年度静岡県鳥獣被害対策総合アドバイザー養成研修	静岡県経済産業部農山村共生課	H25.9.24 ~ H25.9.26
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	静岡市農協長田ブロック有害鳥獣対策講習会	静岡市農協長田ブロック有害鳥獣対策協議会	H25.9.21 ~ H25.9.21
出田収	水田作研究領域	平成25年度地域産学連携支援委託事業事業化可能性調査「画期的米油原料用稲品種の開発と総合利用に向けた事業化可能性調査」第1回調査委員会	公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会	H25.9.25 ~ H25.9.25
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	「野生動物による農作物被害対策」講演会	清水農業協同組合	H25.9.26 ~ H25.9.27
江口祐輔	畜産草地・鳥獣害研究領域	平成25年度農作物獣害防止対策支援事業奥多摩町現地検討会	東京都農業振興事務所	H25.10.1 ~ H25.10.3
高橋佳孝	畜産草地・鳥獣害研究領域	平成25年度中央畜産技術研修会（肉用牛）	農林水産省生産局	H25.10.2 ~ H25.10.3
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣対策勉強会	榛原町有害鳥獣被害対策協議会	H25.10.2 ~ H25.10.4
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	平成25年度庄原市鳥獣害防除対策研修「百歳まで楽しめる野菜作り」	庄原市	H25.10.13 ~ H25.10.14
中込弘二	水田作研究領域	稲WCS専用品種「たちすずか」現地検討会	全国飼料増産協議会	H25.10.16 ~ H25.10.16
伏見昭秀	水田作研究領域	平成25年度農地・水保全管理活動研修会	東三河農地・水・環境保全地域協議会	H25.10.24 ~ H25.10.24
船附稚子	水田作研究領域	研究成果発表会「製法および品種の異なる米粉の食品加工適性～国産米消費拡大をめざして～」	広島県立総合技術研究所食品工業技術センター	H25.10.24 ~ H25.10.24
上田弘則	畜産草地・鳥獣害研究領域	平成25年度第3回鳥獣被害対策研修会	三重県農林水産部	H25.10.28 ~ H25.10.30
山崎敬亮	環境保全型野菜研究領域	第73回日本養液栽培研究会・新潟大会「施設園芸における新たな低コスト高収益栽培技術」	日本養液栽培研究会新潟大会事務局	H25.10.30 ~ H25.10.31
高橋佳孝	畜産草地・鳥獣害研究領域	農業環境技術研究所公開セミナー「生き物でにぎわう豊かな自然と農業」(NIAES30周年記念セミナー)	農業環境技術研究所	H25.11.4 ~ H25.11.6
森伸介	水田作研究領域	生物応用化学科研究室演習(六)特別講義	東京農業大学生物応用化学科	H25.11.12 ~ H25.11.13
江口祐輔	畜産草地・鳥獣害研究領域	平成25年度津地域獣害防止対策研修会	津市鳥獣害防止対策推進協議会	H25.11.15 ~ H25.11.16
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	効果的な鳥獣被害対策のための集落点検・集落座談会	徳島県東部農林水産局	H25.11.21 ~ H25.11.22
江口祐輔	畜産草地・鳥獣害研究領域	「動物応用科学概論Ⅱ」授業	麻布大学獣医学部	H25.11.25 ~ H25.11.27
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣対策勉強会	榛原町有害鳥獣被害対策協議会	H25.11.27 ~ H25.11.29
高橋佳孝	畜産草地・鳥獣害研究領域	セミナー「地域の未来をひらく安全安心の高品質ブランド肉牛の開発」	中国四国農林水産・食品先進技術研究会	H25.11.29 ~ H25.11.29
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	平成25年度庄原市鳥獣害防除対策研修「百歳まで楽しめる野菜作り」	庄原市	H25.11.30 ~ H25.12.1

VI 研究交流

氏名	講師所属	研修会等名	依頼者	期間
池田達哉	水田作研究領域	大学院人間健康科学研究科の特別講義「小麦の加工特性～分子遺伝学的基礎と品種改良への応用～(仮)」	長崎県公立大学法人	H25.12.3 ～ H25.12.4
高橋佳孝	畜産草地・鳥獣害研究領域	平成25年度東北地域飼料増産シンポジウム	全国飼料増産協議会	H25.12.4 ～ H25.12.6
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣被害対策研修会	菊川市有害鳥獣対策協議会	H25.12.4 ～ H25.12.6
三浦一芸	水田作研究領域	植物防疫官研修「昆虫類やダニ類のDNAクローニング法」	農林水産省門司植物防疫所	H25.12.5 ～ H25.12.5
江口祐輔	畜産草地・鳥獣害研究領域	ピンチをチャンスに変える地域づくり講座獣害対策コース	福山市南部生涯学習センター	H25.12.11 ～ H25.12.12
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	平成25年度福岡県鳥獣被害対策現地研修会	福岡県農林水産部	H25.12.11 ～ H25.12.14
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	平成25年度静岡県鳥獣被害対策総合アドバイザーフォローアップ研修会	静岡県農業協同組合中央会	H25.12.18 ～ H25.12.21
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	平成25年度福岡県鳥獣被害対策現地研修会	福岡県農林水産部	H26.1.8 ～ H26.1.11
齋藤仁蔵	傾斜地園芸研究領域	かんきつ生産者研修会	和歌山県かんきつ生産振興協議会	H26.1.16 ～ H26.1.17
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣対策勉強会	橿原町有害鳥獣被害対策協議会	H26.1.16 ～ H26.1.18
江口祐輔	畜産草地・鳥獣害研究領域	平成25年度有害鳥獣被害防止対策研修会「イノシシ、サル、アライグマの防除対策について」	太宰府市・那珂川町鳥獣被害防止対策広域連絡協議会	H26.1.20 ～ H26.1.20
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣被害防止対策研修会	泉南市鳥獣被害防止対策協議会	H26.1.24 ～ H26.1.24
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	伊豆の国市鳥獣被害対策講習会及び現地指導に伴う講師	伊豆の国市	H26.2.6 ～ H26.2.8
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣被害対策の研修会「イノシシ及びシカによる農林業被害対策について」	徳島四万十地域捕獲モデル事業推進協議会農林水産部	H26.2.14 ～ H26.2.16
岡部昭典	水田作研究領域	平成25年度近畿産大豆生産・需要拡大協議会(第2回)及び近畿産大豆生産・需要拡大講演会	(社)全国農業改良普及支援協会	H26.2.18 ～ H26.2.18
高田吉丈	作物機能開発研究領域	平成25年度近畿産大豆生産・需要拡大講演会	(社)全国農業改良普及支援協会	H26.2.18 ～ H26.2.18
江口祐輔	畜産草地・鳥獣害研究領域	平成25年度国営土地改良事業地区営農推進講演会	近畿農政局	H26.2.18 ～ H26.2.20
長崎裕司	傾斜地園芸研究領域	平成25年度県立農林水産技術総合センター【農業部門】試験研究成果発表会及びシンポジウム	兵庫県立農林水産技術総合センター	H26.2.28 ～ H26.2.28
長田健二	水田作研究領域	平成25年度水稲栽培技術研修会	香川県農林水産部農業経営課	H26.2.28 ～ H26.2.28
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣対策勉強会	橿原町有害鳥獣被害対策協議会	H26.3.6 ～ H26.3.8
上田弘則	畜産草地・鳥獣害研究領域	阿佐地域鳥獣害防止広域対策協議会が行う講演会と現地研修会(農作物野生鳥獣被害対策アドバイザーとして)	阿蘇地域鳥獣害防止広域対策協議会	H26.3.11 ～ H26.3.13
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣被害対策アドバイザーフォローアップ研修会	広島県	H26.3.13 ～ H26.3.14
渡邊修一	営農・環境研究領域	所内研修『日射制御型拍動自動灌水装置について』	広島県東部農業技術指導所	H26.3.14 ～ H26.3.14
高田兼則	水田作研究領域	小麦栽培の現地研修会	たつの市集落営農連絡協議会	H26.3.19 ～ H26.3.19

VI 研究交流

3) 当センター主催の技術指導

研 修 会 等 名	期 間	開 催 場 所	参加者数
該当なし			

4) 依頼分析、試験および同定

区 分	担当研究領域	件 数
	該当なし	

4. 共同研究

共同研究相手先	担当研究領域	件 数
気象庁	水田作研究領域	1
中央農業総合研究センター		
北海道農業研究センター		
東北農業研究センター		
九州沖縄農業研究センター		
広島県立総合技術研究所	水田作研究領域	1
全国農業協同組合連合会広島県本部		
広島県穀物改良協会		
広島県酒造協同組合		
果樹研究所	傾斜地園芸研究領域	1
公立大学法人横浜市立大学		
日本製粉株式会社	作物機能開発研究領域	1
日本製粉株式会社中央研究所	水田作研究領域	1
住友大阪セメント株式会社セメント・コンクリート研究所	傾斜地園芸研究領域	1
近江度量衡株式会社	傾斜地園芸研究領域	1
独立行政法人産業技術総合研究所	作物機能開発研究領域	1
長崎県（長崎県総合農林試験場）	作物機能開発研究領域	1
中国紙工業株式会社	傾斜地園芸研究領域	1
パナソニック株式会社エコソリューションズ社	環境保全型野菜研究領域	2
国立大学法人新潟大学	畜産草地・鳥獣害研究領域	1
あすか製薬株式会社		
久留米大学	作物機能開発研究領域	1
茨城県霞ヶ浦環境科学センター	営農・環境研究領域	1
独立行政法人農業環境技術研究所		
国立大学法人茨城大学		
作物研究所	水田作研究領域	1
国立大学法人九州大学		
国立大学法人東京農工大学		

VI 研究交流

共同研究相手先	担当研究領域	件 数
作物研究所	水田作研究領域	1
北海道農業研究センター		
東北農業研究センター		
中央農業総合研究センター		
九州沖縄農業研究センター		
独立行政法人農業環境技術研究所	水田作研究領域	1
全国農業協同組合連合会		

5. 協定研究

協定研究相手先	担当研究領域	件 数
滋賀県農業技術振興センター	水田作研究領域	1
奈良県農業総合センター	水田作研究領域	1
山口県農林総合技術センター	水田作研究領域	1
兵庫県立農林水産技術総合センター	水田作研究領域	1
独立行政法人家畜改良センター鳥取牧場	畜産草地・鳥獣害研究領域	1
島根県畜産技術センター	畜産草地・鳥獣害研究領域	1
愛媛県農林水産研究所	傾斜地園芸研究領域	1
国立大学法人岡山大学	傾斜地園芸研究領域	1
株式会社タカキタ	営農・環境研究領域	1
独立行政法人家畜改良センター茨城牧場長野支場	水田作研究領域	1
広島県穀物改良協会	水田作研究領域	1
徳島県立農林水産総合技術支援センター	環境保全型野菜研究領域	1
デザイナーフーズ株式会社		
和歌山県果樹試験場	傾斜地園芸研究領域	1
兵庫県立農林水産技術総合センター	作物機能開発研究領域	1
ヒガシマル醤油株式会社		
株式会社ケツト科学研究所	水田作研究領域	1
日東富士製粉株式会社	水田作研究領域	1
和歌山県果樹試験場うめ研究所	水田作研究領域	1
生物系特定産業技術研究支援センター	傾斜地園芸研究領域	1
畜産草地研究所	水田作研究領域	1
北海道農業研究センター		
中央農業総合研究センター北陸研究センター		
独立行政法人農業環境技術研究所		
株式会社伏見製薬所	作物機能開発研究領域	1
安房農業協同組合神戸支店	作物機能開発研究領域	1
徳島県立農林水産総合技術支援センター		
財団法人瀬戸内市振興公社	水田作研究領域	1
「熟ビーフ」連絡会	畜産草地・鳥獣害研究領域	1
有限会社ぬまくま夢工房	水田作研究領域	1

6. 開放型研究施設（オープンラボ）の利用状況

施設名	利用者数（人）
農産物等成分解析開放型研究施設	1,069
傾斜地農業開放型研究施設	221
第2共同実験棟	1,061

Ⅶ 組織・人事・会計

1. 組織

所 長		
— 四国農業研究監		四国地域の農業に関する試験及び研究並びに調査に関する業務
— 企画管理部	— 審 議 役	重要な総務に関する業務を総括整理
	— 研究調整役	特定の試験及び研究並びに調査の企画、立案及び調整に関する業務
	— 業務推進室	
	— 調査役	予算の要求、配分及び執行に係る計画の立案等に係る調査の業務
	— 企画チーム	(企画調整、交流調整)
	— 運営チーム	(連絡調整、運営調整、予算管理)
	— 管 理 課	
	— 庶務チーム	(労務・職員管理、庶務、厚生)
	— 会計チーム	(会計、審査、調達、資産管理)
	— 綾部管理チーム	(庶務、会計)
	— 大田管理チーム	(庶務、会計)
	— 情報広報課	試験及び研究並びに調査に係る情報の収集、整理、提供及び成果の広報並びに情報システムの管理
	— 四国企画管理室	
	— 調査役	四国研究センターにおける総務に関する特定の業務を総括し、及び総務に関する事項についての関係部署との連絡調整の業務
	— 連絡調整チーム	(企画調整、情報管理、広報)
	— 管理チーム	(庶務、厚生、会計、調達、資産管理)
— 営農・環境研究領域		営農・環境研究領域は、近畿中国四国地域における水田営農に関する技術の開発及び経営評価並びに環境保全技術の開発に係る試験及び研究並びに調査に関する業務
— 水田作研究領域		水田作研究領域は、近畿中国四国地域における水稻・小麦の品種育成及び作物栽培管理に関する技術に係る試験及び研究並びに調査に関する業務
— 作物機能開発研究領域		作物機能開発研究領域は、近畿中国四国地域における大麦・大豆品種の育成並びに農産物の健康機能性の解明及び有効利用技術の開発に係る試験及び研究並びに調査に関する業務
— 傾斜地園芸研究領域		傾斜地園芸研究領域は、近畿中国四国地域における傾斜地資源を活用したカンキツ等の果樹生産技術の開発及び施設等を利用した野菜生産技術の開発に係る試験及び研究並びに調査に関する業務
— 環境保全型野菜研究領域		環境保全型野菜研究領域は、近畿中国四国地域における環境保全型野菜生産技術の開発に係る試験及び研究並びに調査に関する業務
— 畜産草地・鳥獣害研究領域		畜産草地・鳥獣害研究領域は、近畿中国四国地域における地域飼料資源による黒毛和種の生産技術の開発及び鳥獣害対策技術の開発に係る試験及び研究並びに調査に関する業務
— 研究支援センター		試験及び研究並びに調査に供するほ場及び動植物の管理に関する業務
	— 業務第1科 (福山)	
	— ” (綾部研究拠点駐在)	
	— 業務第2科 (善通寺)	
	— 業務第3科 (大田)	

Ⅶ 組織・人事・会計

2. 人 事

1) 現在員数

(平成 26 年 3 月 31 日現在)

所 属	指定職員	一般職員	技術専門職員	研究職員	任期付研究員	計
所長	1					1
所付				1		1
四国農業研究監				1		1
企画管理部		45	2	5		52
営農・環境研究領域				16		16
水田作研究領域				29		29
作物機能開発研究領域				8		8
傾斜地園芸研究領域				21	1	22
環境保全型野菜研究領域				9		9
畜産草地・鳥獣害研究領域				11		11
研究支援センター		1	65	3		69
計	1	46	67	104	1	219

※ 現在員：3 月 31 日付け定年退職、辞職を含む。

：派遣職員及び育児休業を含む。

：育児休業に伴う任期付職員を除く。

2) 農研機構特別研究員

(平成 26 年 3 月 31 日現在)

研 究 課 題	福 山	善通寺	綾 部	大 田	計
該当なし					

3) 委員等の就任状況

委 員 等	依 頼 元	所 属	氏 名	任 期
平成 25 年度計画基礎緒元調査意見聴取会委員	株式会社プロセスユニーク	企画チーム長	望月秀俊	H25.7.1～H26.3.14
平成 25 年度地域産学連携支援委託事業におけるコーディネーター	(財) 農林水産・食品産業技術振興協会理事	傾斜地園芸研究領域上席研究員	長崎裕司	H25.6.5～H26.3.24
阿蘇環境デザイン策定委員会委員	阿蘇市教育長	畜産草地・鳥獣害研究領域上席研究員	高橋佳孝	H23.10.11～H26.3.31
阿蘇文化的景観調査検討委員会委員	阿蘇市教育長	畜産草地・鳥獣害研究領域上席研究員	高橋佳孝	H24.4.1～H26.3.31
岡山県農林水産総合センター畜産研究所外部評価委員会委員	岡山県農林水産総合センター畜産研究所長	畜産草地・鳥獣害研究領域長	篠田満	H24.4.1～H26.3.31
かがわ農商工連携ファンド事業審査委員会委員	(財) かがわ産業支援財団理事長	上席研究員	関谷敬三	H25.4.1～H26.3.31
香川大学公正研究委員会委員	国立大学法人香川大学長	四国農業研究監	川上秀和	H25.4.1～H26.3.31
燃油価格高騰緊急対策審査委員	社団法人日本施設園芸協会会長	傾斜地園芸研究領域主任研究員	川嶋浩樹	H25.4.10～H26.3.31
岡山県農林水産総合センター農業研究所外部評価委員会委員	岡山県農林水産総合センター農業研究所長	所長	尾関秀樹	H25.5.15～H26.3.31
水稲関係除草剤専門委員会専門調査員	(財) 日本植物調節剤研究協会理事長	水田作研究領域主任研究員	橋雅明	H25.5.1～H26.3.31
水稲関係除草剤専門委員会専門調査員	(財) 日本植物調節剤研究協会理事長	水田作研究領域主任研究員	伏見昭秀	H25.5.1～H26.3.31
緑地管理関係除草剤専門委員会専門調査員	(財) 日本植物調節剤研究協会理事長	畜産草地・鳥獣害研究領域上席研究員	大谷一郎	H25.5.1～H26.3.31
中央環境審議会専門委員	環境省自然環境局長	畜産草地・鳥獣害研究領域上席研究員	高橋佳孝	H25.5.14～H26.3.31
専門調査員	文部科学省科学技術・学術政策研究所科学技術動向研究センター長	四国農業研究監	川上秀和	H25.4.26～H26.3.31

Ⅶ 組織・人事・会計

委員等	依頼元	所属	氏名	任期
大阪府立環境農林水産総合研究所研究アドバイザー委員会委員	(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所理事長	企画管理部長	佐野資郎	H25.5.16～H26.3.31
平成25年度京都大学東南アジア研究所共同利用・共同研究拠点共同研究員(国際共同研究拠点)専門調査員	京都大学東南アジア研究所長	傾斜地園芸研究領域主任研究員	内田晴夫	H25.6.10～H26.3.31
	文部科学省科学技術・学術政策研究所科学技術動向研究センター長	営農・環境研究領域研究員	吉田晋一	H25.7.23～H26.3.31
香川県農業技術総合推進検討会委員	香川県知事	四国農業研究監	川上秀和	H25.8.9～H26.3.31
施設園芸省エネルギー生産管理マニュアル等検討委員会委員	農林水産省生産局長	傾斜地園芸研究領域主任研究員	川嶋浩樹	H25.10.1～H26.3.31
滋賀県農林水産関係試験研究外部評価委員会委員	滋賀県農政水産部長	環境保全型野菜研究領域長	佐藤隆徳	H23.8.10～H26.8.31
笠岡市バイオマス利活用推進協議会委員	笠岡市長	傾斜地園芸研究領域長	田坂幸平	H25.5.17～H26.10.2
東京都鳥獣害対策委員会評価部会委員	東京都産業労働局農林水産部長	畜産草地・鳥獣害研究領域上席研究員	江口祐輔	H25.2.16～H27.2.15
中国四国農政局国営事業地区営農基盤整備等推進委員会委員及び幹事会幹事	農林水産省中国四国農政局長	企画管理部長	佐野資郎	H25.5.15～H27.3.31
中国四国農政局国営事業地区営農基盤整備等推進委員会作業部会委員	農林水産省中国四国農政局長	業務推進室長	亀井雅浩	H25.5.15～H27.3.31
中国四国農政局国営土地改良事業地区営農推進功労者表彰審査会審査員	農林水産省中国四国農政局長	営農・環境研究領域長	笹倉修司	H25.5.15～H27.3.31
山口県農林総合技術センター外部評価会議委員	山口県農林総合技術センター所長	営農・環境研究領域長	笹倉修司	H25.8.16～H27.3.31
和歌山県農林水産関係試験研究評価委員会委員	和歌山県農林水産部長	業務推進室長	亀井雅浩	H25.9.12～H27.3.31
山口県鳥獣被害防止対策協議会委員	山口県農林水産部長	畜産草地・鳥獣害研究領域主任研究員	上田弘則	H25.6.1～H28.5.31
岡山県野生鳥獣保護管理対策協議会委員	岡山県環境文化部長	畜産草地・鳥獣害研究領域上席研究員	江口祐輔	H23.6.23～H29.3.31

4) 叙勲

氏名	所属	名称	受賞年月日
塚原貞雄	元 四国農業試験場栽培部土じょう肥料第2研究室長	瑞宝双光章	H25.7.1
権藤昭博	元 近畿中国四国農業研究センター所長	瑞宝中綬章	H25.11.3
故 中村勤史	元 中国農業試験場農業経営部主任研究官	瑞宝双光章	H25.12.26

5) 受賞

氏名	所属	名称	受賞年月日	受賞課題
岡信光 藤川益弘 松上勝利	研究支援センター業務第2科	文部科学大臣表彰 創意工夫功労者賞	H25.4.15	土壌調査に使用する採土缶の掘り取り補助具の考案
高橋佳孝	畜産草地・鳥獣害研究領域	文部科学大臣表彰 科学技術賞(理解増進部門)	H25.4.16	持続的な資源利用による草原再生の理解増進
長崎裕司 川嶋浩樹	傾斜地園芸研究領域	NARO RESEARCH PRIZE 2013(グループ賞)	H25.9.26	高断熱資材で保温性を高め、ダブルアーチで構造強化したパイプハウス

Ⅶ 組織・人事・会計

氏名	所属	名称	受賞年月日	受賞課題
室岡順一	営農・環境研究領域	日本農村生活学会 学術賞	H25.10.11	「食育・農業体験学習」に関する一連の研究
高田兼則 池田達哉 船附稚子	水田作研究領域	北農賞	H25.12.16	品種育成 秋まき小麦「ゆめちから」
高田兼則 池田達哉 船附稚子	水田作研究領域	日本育種学会賞	H26.3.21	北海道の秋播栽培に適した超強力小麦品種「ゆめちから」の育成
安部順一郎	水田作研究領域	日本応用動物昆虫 学会奨励賞	H26.3.26	捕食性タマバエ類の分類・生態と利用に関する研究

6) 学位授与

氏名	所属	名称	取得年月日	論文名
高橋英博	営農・環境研究領域	博士（農学）（筑波大学）	H26.3.25	GIS とオープンデータを活用した瀬戸内海流域における農地由来の環境負荷の評価
川嶋浩樹	傾斜地園芸研究領域	博士（農学）（筑波大学）	H26.3.25	平張型傾斜ハウスの新規開発とその導入による野菜・花き生産システムの構築

3. 会 計

1) 決 算（所在地別内訳）

単位：千円

区 分	福 山	善 通 寺	綾 部	大 田	計
収 入					
1. 運営費交付金収入（前年度繰越金）	18,585	990	0	0	19,575
2. 事業収入	2,184	1,082	15	16,162	19,443
（1）生産物等売払収入	1,158	1,082	15	16,162	18,417
（2）その他事業収入	1,026	0	0	0	1,026
3. 受託収入	47,169	0	0	0	47,169
（1）受託研究収入	39,373	0	0	0	39,373
ア. 政府受託研究収入	37,384	0	0	0	37,384
イ. 地方公共団体受託研究収入	150	0	0	0	150
ウ. 独立行政法人受託研究収入	0	0	0	0	0
エ. 国立大学法人受託研究収入	0	0	0	0	0
オ. その他受託研究収入	1,839	0	0	0	1,839
（2）共同研究収入	1,200	0	0	0	1,200
（3）受託調査等収入	0	0	0	0	0
（4）受託出張収入	6,596	0	0	0	6,596
ア. 地方公共団体受託出張収入	1,786	0	0	0	1,786
イ. 独立行政法人受託出張収入	0	0	0	0	0
ウ. 国立大学法人受託出張収入	174	0	0	0	174
エ. その他受託出張収入	4,636	0	0	0	4,636
4. 補助金等収入	0	0	0	0	0
5. 事業外収入	3,079	0	0	116	3,195
6. 臨時収入	51	14	0	685	750
7. 通過資金預り金	6,450	0	0	0	6,450
8. 繰越積立金	0	0	0	0	0
計	77,518	2,086	15	16,963	96,582

Ⅶ 組織・人事・会計

区 分	福 山	善通寺	綾 部	大 田	計
支 出					
1. 運営費交付金	348,760	183,104	43,278	108,624	683,766
(1) 一般管理費	63,584	27,475	8,488	21,106	120,653
ア. 所運営費	16,813	2,836	246	488	20,383
イ. 管理諸費	46,771	24,639	8,242	20,618	100,270
(2) 業務経費	285,176	155,629	34,790	87,518	563,113
2. 事業収入経費	6,048	2,578	807	2,724	12,157
3. 受託収入経費	63,401	63,947	10,758	11,087	149,193
(1) 受託研究収入経費	55,905	63,747	9,541	10,454	139,647
ア. 政府受託研究収入	48,162	44,573	9,429	10,454	112,618
イ. 地方公共団体受託研究経費	0	150	0	0	150
ウ. 独立行政法人受託研究経費	6,983	6,352	112	0	13,447
エ. 国立大学法人受託研究経費	0	0	0	0	0
オ. その他受託研究経費	760	12,672	0	0	13,432
(2) 共同研究経費	0	0	1,200	0	1,200
(3) 受託調査等経費	1,750	0	0	0	1,750
(4) 受託出張経費	5,746	200	17	633	6,596
ア. 地方公共団体受託出張経費	1,686	1	0	99	1,786
イ. 独立行政法人受託出張経費	0	0	0	0	0
ウ. 国立大学法人受託出張経費	174	0	0	0	174
エ. その他受託出張経費	3,886	199	17	534	4,636
4. 補助金等経費	0	462	0	0	462
5. 事業外収入経費	1,737	684	68	705	3,194
6. 臨時収入経費	51	14	0	685	750
7. 通過資金預り金	42,434	1,140	0	1,834	45,408
計	462,431	251,929	54,911	125,659	894,930

2) 固定資産 (所在地別内訳)

平成 26 年 3 月 31 日現在

区 分	福 山	善通寺	綾 部	大 田	計
有形固定資産					
土 地 (㎡)	227,093.05	963,610.29	62,907.89	2,019,455.99	3,273,067.22
建物建面積 (㎡)	11,377.62	13,130.50	4,535.03	9,783.79	38,826.94
建物延面積 (㎡)	16,231.40	16,408.64	5,138.98	11,259.52	49,038.54
構 築 物 (式)	1	1	1	1	4
樹 木 (本)	423	745	35	255	1,458
立 木 (㎥)	0.0	4,045.92	0.0	6,719.96	10,765.88
機械装置 (点)	86	63	14	24	187
車輛運搬具 (点)	14	15	8	8	45
工具器具備品 (点)	269	253	87	82	691
無形固定資産					
ソフトウェア (点)	18	15	1	0	34

VIII 主な会議等

1. 近畿中国四国農業試験研究推進会議

会 議 名	開 催 日	開 催 場 所	参 集 者
近畿中国四国農業試験研究推進会議 評価企画会議	H25.8.9	広島県民文化センターふくやま	合計 45 名 (内訳) 農政局 4 名、府県関係者 25 名、果樹研 1 名、野茶研 1 名、 近中四農研 14 名
近畿中国四国農業試験研究推進会議 試験研究推進部会	H26.1.27 ~ H26.1.31	福山市生涯学習プラザ 福山市市民参画センター あすてらす(島根県立男女共同 参画センター)(大田) 野菜茶業研究所(金谷)	合計 486 名 (延人数) 農林水産技術会議事務局 1 名、生産局 1 名、農政局 8 名、大学等 13 名、他独法 1 名、 府県関係者 332 名、機構内 43 名、 近中四農研 81 名、その他 6 名
近畿中国四国農業試験研究推進会議 本会議	H26.2.7	福山市生涯学習プラザ	合計 59 名 (内訳) 農政局 5 名、府県関係 者 37 名、機構本部 1 名、果樹研 1 名、野茶研 1 名、農工研 1 名、 近中四農研 13 名

2. 近畿中国四国地域問題別研究会

会 議 名	開 催 日	開 催 場 所	参加者数
難防除水田雑草の生態と防除	H25.7.19	奈良県奈良市	94 名
消費動向に応じたブランド化の取り組みと技術開発	H25.7.23 ~ H25.7.24	京都府京都市	95 名
6次産業化(農商工連携)の取組実態と展開方向	H25.8.5 ~ H25.8.6	広島県福山市	37 名
環境保全的土壌管理技術の現状と課題	H25.8.22 ~ H25.8.23	滋賀県大津市	68 名
平成 25 年度温暖地域水稻育成系統立毛検討会	H25.8.27 ~ H25.8.28	茨城県つくば市、 千葉県香取市	53 名
冬作技術研究会	H25.9.17 ~ H25.9.18	香川県善通寺市	31 名
土地利用と生産性向上による肉用牛生産の展開	H25.9.20	鳥取県鳥取市	35 名
地域特産野菜等の省力・低コスト生産技術	H25.10.10 ~ H25.10.11	鳥取県鳥取市	39 名
生産振興につながる花き育種の目標と成果	H25.10.17 ~ H25.10.18	鳥取県倉吉市	46 名
茶産地の活性化につながる新たな商品開発について	H25.10.30 ~ H25.10.31	香川県高松市	25 名
高度土地利用型露地野菜産地の生産力維持に向けた施肥、水分管理技術	H25.11.7 ~ H25.11.8	兵庫県神戸市、南 あわじ市他	54 名
食品流通問題別研究会	H25.11.21 ~ H25.11.22	香川県善通寺市	24 名
地域に根ざした鳥獣害対策現地検討会	H26.1.29	島根県美郷町	44 名
高度管理手法による作物病害虫制御技術	H26.3.3 ~ H26.3.5	広島県福山市	105 名
育種栽培検討会(水稻品種・系統検討会、栽培研究会、 大豆品種・系統検討会)	H26.3.4 ~ H26.3.5	広島県福山市	49 名

3. 地域研究・普及連絡会議

会 議 名	開 催 日	開 催 場 所	参加者数
平成 25 年度近畿地域研究・普及連絡会議	H25.10.28	ルビノ京都堀川	35 名
平成 25 年度中国四国地域研究・普及連絡会議	H25.10.29	岡山第 2 合同庁舎	40 名

VIII 主な会議等

4. 農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業推進会議等

会 議 名	開催日	開催場所	参加者数
農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業「地球温暖化の抑制と水質保全に資する地域資源活用型農地管理技術の実証と導入促進」現地研究会	H25.6.17～ H25.6.18	北海道立総合研究機構根釧農業試験場（中標津町）、北海道釧路市、鶴居村、弟子屈町、標津町	21名
農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業「地球温暖化の抑制と水質保全に資する地域資源活用型農地管理技術の実証と導入促進」シンポジウム	H25.6.19	北海道立総合研究機構根釧農業試験場（中標津町）	69名
農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業「画期的 WCS 用稲「たちすずか」の特性を活かした微細断収穫調製・給与体系の開発実証」研究推進会議	H25.8.21	近畿中国四国農業研究センター（福山市）	26名
農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業「地球温暖化の抑制と水質保全に資する地域資源活用型農地管理技術の実証と導入促進」研究推進会議	H25.12.6	京都市リサーチパーク（京都市）	17名
農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業「画期的 WCS 用稲「たちすずか」の特性を活かした微細断収穫調製・給与体系の開発実証」研究推進会議	H26.1.22	近畿中国四国農業研究センター（福山市）	30名
農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業「地球温暖化の抑制と水質保全に資する地域資源活用型農地管理技術の実証と導入促進」研究推進会議	H26.2.14	近畿中国四国農業研究センター（福山市）	22名

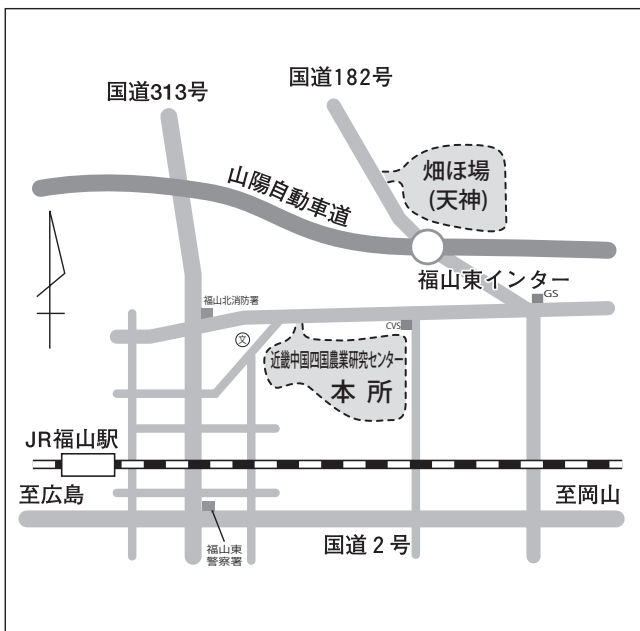
5. 地域総合研究評価会議・現地推進検討会

会 議 名	開催日	開催場所	参加者数
現地実証等事業「カンキツ生産技術」成果取りまとめ会議	H25.9.12～ H25.9.13	ホテル大観荘（山口県周防大島町）、山口県大島防災センター	44名
夏秋トマト安定生産技術開発に関する研究成果発表会「低段密植と暑熱対策による夏秋トマト安定生産技術開発成果と展望」	H25.11.12	徳島県立農林水産総合技術センター	78名
高糖分飼料イネ「たちすずか」普及連絡会現地検討会	H25.11.14～ H25.11.15	ホテルクレメント宇和島（愛媛県宇和島市）、愛媛県農林水産研究所畜産研究センター	76名
高糖分飼料イネ「たちすずか」現地実証試験成績検討会	H26.2.24	近畿中国四国農業研究センター（福山市）	21名

6. その他会議

会 議 名	開催日	開催場所	参加者数
平成 25 年度水稲鉄コーティング直播栽培現地検討会	H25.7.17	ピュアリティまきび（岡山市）実証圃場（岡山市）	96名
中国四国土を考える会夏期研修会「誰でもできる土の実験農地の物理性を科学的に確かめよう」	H25.8.8～ H25.8.9	近畿中国四国農業研究センター（福山市）	56名
マルドリ方式のカンキツ生産技術フォーラム「高収益を実現する産地ブランド型生産体系の確立を目指して」	H25.9.13	山口県大島防災センター（山口県周防大島町）	169名
第 1 回「高β-グルカン大麦利用連絡会」オフラインミーティング	H25.9.21	岡山国際交流センター（岡山市）	125名
「施設園芸における布団資材の断熱性向上と用途拡大による実用化」技術交流セミナー	H25.11.21～ H25.11.22	農林水産省共済組合南青山会館（東京都港区）	23名
現地実証試験「簡易土壌水分計と水分移動シミュレーションに基づくかん水管理による高品質カンキツ生産の現地実証」現地検討会	H25.12.4～ H25.12.5	愛媛県農林水産研究所果樹研究センター（松山市）	18名
農研機構シンポジウム「地域資源を活用した環境保全型農業生産技術とその多面的環境影響評価」	H25.12.6	京都市リサーチパーク（京都市）	83名
第 4 回根こぶ病研究会	H26.2.13	キャンパスプラザ京都（京都市）	73名
現地実証等促進技術交流セミナー「布団資材を利用した保温技術と被覆資材の断熱性能評価法」	H26.2.26～ H26.2.27	近畿中国四国農業研究センター四国研究センター（善通寺市）	39名

IX 所在地



【本所】(福山市)

〒 721-8514

広島県福山市西深津町 6-12-1

T E L 084-923-4100 (代)

F A X 084-924-7893

最寄駅 JR 山陽本線、JR 山陽新幹線、
JR 福塩線「福山駅」

【四国研究センター】(善通寺市)

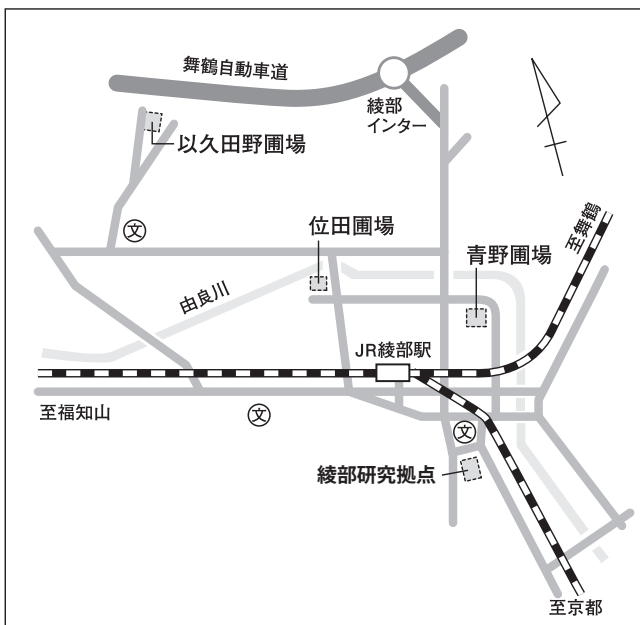
〒 765-8508

香川県善通寺市仙遊町 1-3-1

T E L 0877-62-0800 (代)

F A X 0877-63-1683

最寄駅 JR 土讃線「善通寺駅」



【綾部研究拠点】(綾部市)

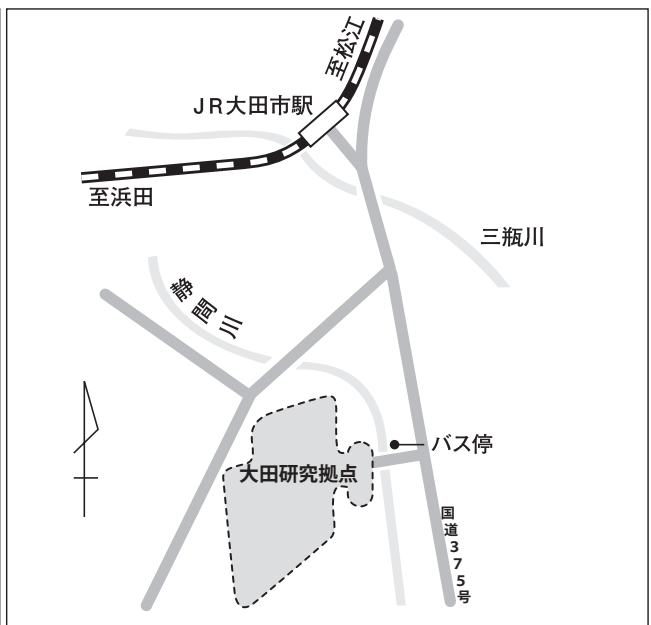
〒 623-0035

京都府綾部市上野町上野 200

T E L 0773-42-0109 (代)

F A X 0773-42-7161

最寄駅 JR 山陰本線「綾部駅」



【大田研究拠点】(大田市)

〒 694-0013

島根県大田市川合町吉永 60

T E L 0854-82-0144 (代)

F A X 0854-82-2280

最寄駅 JR 山陰本線「大田市駅」